

目 次

学年暦予定表
横浜市立大学沿革

I 総 論

1 都市社会文化研究科、国際マネジメント研究科、生命ナノシステム科学研究科、 データサイエンス研究科の教育理念	1
2 博士前期課程および後期課程の修了要件、学位の種類	2
3 履修申請、登録、確認の方法	3
4 単位認定について	4
5 主・副研究指導教員の届け出	5
6 長期履修学生制度	6
7 博士後期課程における単位修得満期退学	7
8 論文博士申請	7
9 研究不正防止に係る取組について	8
10 不正行為について	8
11 学則	9

II 都市社会文化研究科 博士前期課程・後期課程

博士前期課程	13
1 教育研究の目的	13
2 履修方法	13
3 学位論文の審査基準および手続き	16
4 修士論文提出までの流れおよび学位申請	17
5 授業科目表	19
6 担当専任教員の研究分野と課題 博士前期課程	22
7 履修モデル	24
博士後期課程	29
1 教育研究の目的	29
2 履修方法	29
3 学位論文の審査基準および手続き	31
4 博士論文提出までの流れおよび学位申請	32
5 授業科目表	35
6 担当専任教員の研究分野と課題 博士後期課程	37
7 履修モデル	39

Ⅲ 国際マネジメント研究科 博士前期課程・後期課程

博士前期課程	43
1 教育研究の目的	43
2 履修方法	44
3 学位論文の審査基準および手続き	47
4 学位論文提出までの流れおよび学位申請	48
5 授業科目表	50
6 研究指導担当教員の研究分野	53
7 履修モデル	54
博士後期課程	57
1 教育研究の目的	57
2 履修方法	57
3 学位論文の審査基準および手続き	58
4 学位論文提出までの流れおよび学位申請	59
5 授業科目表	61
6 研究指導担当教員の研究分野	63
7 履修モデル	63

Ⅳ 生命ナノシステム科学研究科 博士前期課程・後期課程

1 研究科の編成	67
2 研究科の教育研究の目標	67
3 学位論文の審査基準および手続き	68
4 博士前期課程 学位論文提出までの流れおよび学位申請	70
5 博士後期課程 学位論文提出までの流れおよび学位申請	72

Ⅳ-1 生命ナノシステム科学研究科物質システム科学専攻 博士前期課程・後期課程

博士前期課程	77
1 教育研究の目的	77
2 履修方法	77
3 授業科目表	79
4 担当教員の研究分野と研究課題	82
博士後期課程	84
1 教育研究の目的	84
2 履修方法	84
3 授業科目表	85
4 担当教員の研究分野と研究課題	87

Ⅳ-2 生命ナノシステム科学研究科生命環境システム科学専攻 博士前期課程・後期課程

博士前期課程	91
1 教育研究の目的	91
2 履修方法	91
3 授業科目表	93
4 担当教員の研究分野と研究課題	96
博士後期課程	99
1 教育研究の目的	99
2 履修方法	99
3 授業科目表	101
4 担当教員の研究分野と研究課題	103

Ⅴ 教職課程（専修免許状）について

生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻・生命環境システム科学専攻

教育職員養成課程	107
----------	-----

Ⅵ データサイエンス研究科 博士前期課程・後期課程

1 学位論文の審査基準および手続き	111
2 学位論文提出までの流れおよび学位申請	113

Ⅵ-1 データサイエンス研究科データサイエンス専攻 博士前期課程・後期課程

博士前期課程	119
1 教育研究の目的	119
2 履修方法	119
3 授業科目表	122
4 担当教員の研究分野と研究課題	125
博士後期課程	126
1 教育研究の目的	126
2 履修方法	126
3 授業科目表	128
4 担当教員の研究分野と研究課題	130

Ⅵ-2 データサイエンス研究科ヘルスデータサイエンス専攻 博士前期課程・後期課程

博士前期課程	133
1 教育研究の目的	133

2	履修方法	133
3	医学研究科博士課程（医科学専攻）科目の早期履修について	134
4	授業科目表	136
5	担当教員の研究分野と研究課題	138
	博士後期課程	139
1	教育研究の目的	139
2	履修方法	139
3	授業科目表	141
4	担当教員の研究分野と研究課題	143
Ⅶ	大学院 日本語科目	144
Ⅷ	学務事務の窓口案内（金沢八景キャンパス・舞岡キャンパス）	
1	全体的な注意事項	147
2	窓口受付時間および留意事項	147
3	電子メールによる連絡	148
4	証明書の発行について	148
5	公欠について	149
6	休講について	150
7	身分に関する願出について	152
8	社会人学生への窓口案内	153
別添		
学位申請スケジュール		
	都市社会文化研究科	154
	国際マネジメント研究科	155
	生命ナノシステム科学研究科	156
	データサイエンス研究科	157

令和6(2024)年度 金沢八景キャンパス学年暦予定表

	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
4月	31	1 春季休業開始 TOEFL-ITP	2	3	4 春季休業終了	5 入学式 オリエンテーション	6
	7	8 オリエンテーション	9 曜日調節日(休講)	10 曜日調節日(休講)	11 木①	12 金①	13 土①
	14	15 月①	16 火①	17 水①	18 木②履修申請	19 金②履修申請	20 土②履修申請
	21 履修申請	22 月②履修申請	23 火②履修申請	24 水②履修申請	25 木③	26 金③	27 土③
5月	28	29 昭和の日	30 曜日調節日(休講)	1 曜日調節日(休講)	2 曜日調節日(休講)	3 憲法記念日	4 みどりの日
	5 こどもの日	6 月③/振替休日	7 火③	8 水③	9 木④	10 金④	11 土④
	12	13 月④	14 火④	15 水④	16 木⑤	17 金⑤	18 土⑤
	19	20 月⑤	21 火⑤	22 水⑤	23 木⑥	24 金⑥	25 土⑥
6月	26	27 月⑥	28 火⑥	29 水⑥	30 木⑦	31 金⑦	1 土⑦/創立記念日
	2	3 月⑦	4 火⑦	5 水⑦	6 木⑧※1Q最終週	7 金⑧※1Q最終週	8 土⑧※1Q最終週
	9	10 月⑧ ※1Q最終週	11 火⑧ ※1Q最終週	12 水⑧※1Q最終週	13 木⑨	14 金⑨	15 土⑨
	16	17 月⑨	18 火⑨	19 水⑨	20 木⑩	21 金⑩追試(1Q科目)	22 土⑩
7月	23	24 月⑩追試(1Q科目)	25 火⑩	26 水⑩	27 木⑪	28 金⑪	29 土⑪/大学説明会
	30	1 月⑪	2 火⑪	3 水⑪	4 木⑫	5 金⑫	6 土⑫
	7	8 月⑫	9 火⑫	10 水⑫	11 木⑬	12 金⑬	13 土⑬
	14	15 月⑬/海の日	16 火⑬	17 水⑬	18 木⑭	19 金⑭	20 土⑭
8月	21	22 月⑭	23 火⑭	24 水⑭	25 木⑮	26 金⑮	27 土⑮/TOEFL-ITP
	28	29 月⑮	30 火⑮	31 水⑮	1 補講日	2 補講日	3 補講日
	※2Q最終週 (8/1~8/7)						
	4	5 補講日	6 補講日	7 補講日	8 夏季休業開始 理・DSオープンキャンパス	9 国際教養・国際商オープン キャンパス	10
9月	11 山の日	12 振替休日	13 一斉休業日	14 一斉休業日	15	16 追試(前期・2Q科目)	17 TOEFL-ITP
	18	19 追試(前期・2Q科目)	20	21	22 看護オープンキャンパス	23 医学オープンキャンパス	24
	25	26	27	28	29	30	31
	1	2	3	4	5	6	7
10月	8	9	10	11	12	13	14
	15	16 敬老の日	17	18	19	20	21 夏季休業終了
	22 秋分の日	23 月①/振替休日	24 火①	25 水①	26 木①	27 金①	28 土①
	29	30 月②履修申請	1 火②履修申請	2 水②履修申請	3 木②履修申請	4 金②履修申請	5 土②履修申請 /特別入試
11月	6 履修申請	7 月③履修申請	8 火③	9 水③	10 木③	11 金③	12 土③/特別入試
	13	14 月④/スポーツの日	15 火④	16 水④	17 木④	18 金④	19 土④
	20	21 月⑤	22 火⑤	23 水⑤	24 木⑤	25 金⑤	26 土⑤
	27	28 月⑥	29 火⑥	30 水⑥	31 木⑥	1 金⑥	2 浜大祭準備
12月	3 浜大祭①/文化の日	4 浜大祭②/振替休日	5 浜大祭片付け	6 水⑦	7 木⑦	8 金⑦	9 土⑥
	10 全館停電	11 月⑦	12 火⑦	13 水⑧※3Q最終週	14 木⑧※3Q最終週	15 金⑧※3Q最終週	16 土⑦
	17	18 月⑧※3Q最終週	19 火⑧※3Q最終週	20 水⑨	21 木⑨	22 金⑨	23 土⑧/勤労感謝の日 ※3Q最終週/特別入試
	24	25 月⑨	26 火⑨	27 水⑩	28 木⑩	29 金⑩	30 土⑨
1月	1	2 月⑩	3 火⑩	4 水⑪	5 木⑪	6 金⑪	7 土⑩/特別入試
	8	9 月⑪	10 火⑪	11 水⑫	12 木⑫	13 金⑫	14 土⑪/TOEFL-ITP/冬のミニ オープンキャンパス
	15	16 月⑫	17 火⑫	18 水⑬	19 木⑬	20 金⑬	21 土⑫
	22	23 月⑬	24 火⑬	25 冬季休業開始	26	27 一斉休業日	28
2月	29	30	31	1 元日	2	3 冬季休業終了	4 土⑬
	5	6 月⑭	7 火⑭	8 水⑭	9 木⑭	10 金⑭	11 土⑭
	12	13 成人の日	14 曜日調節日(休講)	15 曜日調節日(休講)	16 曜日調節日(休講)	17 大学入学共通テスト準備	18 大学入学共通テスト①
	19 大学入学共通テスト②	20 月⑮	21 火⑮	22 水⑮	23 木⑮	24 金⑮	25 土⑮/TOEFL-ITP
3月	26	27	28 補講日	29 補講日	30 補講日	31 補講日	1 補講日
	※4Q最終週 (1/27~2/1)						
	2	3	4	5	6	7 追試(全後期科目)	8
	9	10 追試(全後期科目)	11 建国記念の日	12	13	14	15 TOEFL-ITP
4月	16	17	18	19	20	21 入学試験準備	22
	23 天皇誕生日	24 振替休日	25 前期日程入試①	26 前期日程入試②	27	28	1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11 入学試験準備	12 後期日程入試	13	14	15
5月	16	17	18	19	20 春分の日	21	22
	23	24	25 卒業式	26 春のミニオープンキャンパス	27	28	29
	30	31					

①～⑮ : 授業回数を示しています
 補講日 : 補講日
 休業日 : 休業日

曜日調節日(休講) : 祝日の授業開講日(2024年度は5日間)
 曜日調節日(休講) : 曜日調節日(休講)

※ 土曜・日曜・祝日(授業開講日を除く)及び8/13～14・12/27～1/3は、金沢八景・鶴見・舞岡・みなとみらいサテライトの各キャンパス事務室は閉室となります。
 ※ 第1クォーター科目の追試は「6/21及び6/24」に行います。ただし、第3クォーター科目の追試は後期末に一括で実施します。

横浜市立大学沿革

明治15年 4 月	横浜商法学校（予科 2 年、本科 3 年）
明治21年 2 月	横浜商業学校（5 年制）
大正 6 年 4 月	横浜市立横浜商業学校（Y校）
昭和 3 年 4 月	横浜市立横浜商業専門学校（Y専）創設
昭和 8 年 7 月	附属横浜経済研究所設置
昭和19年 4 月	Y専を横浜市立経済専門学校に改称
昭和19年 4 月	横浜市立医学専門学校設立
昭和22年 7 月	横浜医科大学となる
昭和24年 6 月	横浜市立経済専門学校を母体として横浜市立大学創設（商学部設置）
昭和27年 4 月	横浜市立医科大学を母体に医学部設置、文理学部設置
昭和36年 4 月	大学院医学研究科博士課程設置
昭和45年 4 月	大学院経済学研究科及び経営学研究科（博士前期課程）設置
昭和59年 4 月	木原生物学研究所設置
昭和62年 4 月	医学部及び医学研究科が金沢区福浦キャンパスに移転
平成元年 4 月	大学院総合理学研究科（博士前期課程）設置
平成 3 年 4 月	大学院経営学研究科（博士後期課程）、大学院総合理学研究科（博士後期課程）設置
平成 5 年 4 月	大学院国際文化研究科（博士前期課程）設置
平成 7 年 4 月	文理学部を改組して国際文化学部・理学部設置、看護短期大学部設置
平成 8 年 4 月	大学院国際文化研究科（博士後期課程）設置
平成 9 年 4 月	大学院経済学研究科（博士後期課程）設置
平成10年 4 月	大学院医学研究科（修士課程）設置
平成13年 4 月	大学院総合理学研究科生体超分子システム科学専攻博士前期・後期課程設置
平成15年 4 月	大学院医学研究科博士課程改組
平成17年 4 月	商学部、理学部、国際文化学部を統合した国際総合科学部（国際総合科学科 7 コース）を設置
	大学院経済学研究科、経営学研究科、総合理学研究科、国際文化研究科を統合して大学院国際総合科学研究科（博士前期課程 4 専攻、博士後期課程 5 専攻）設置
	看護短期大学部を 4 年制の看護学科とし、これまでの医学部医学科と併せた医学部に改組
平成21年 4 月	国際総合科学研究科を専門性に特化した都市社会文化研究科、国際マネジメント研究科、生命ナノシステム科学研究科の 3 研究科に再編
平成22年 4 月	大学院医学研究科看護学専攻（修士課程）設置
平成25年 4 月	生命ナノシステム科学研究科生体超分子システム科学専攻を改組して生命医科学研究科〈博士前期課程・博士後期課程〉を設置、ナノシステム科学専攻及びゲノムシステム科学専攻を物質システム科学専攻及び生命環境システム科学専攻に名称変更
平成30年 4 月	データサイエンス学部設置
平成31年 4 月	国際総合科学部を改組して国際教養学部、国際商学部、理学部設置
令和 2 年 4 月	データサイエンス研究科設置

I

総論

1 都市社会文化研究科、国際マネジメント研究科、生命ナノシステム科学研究科、データサイエンス研究科の教育理念

I

近年の自然科学の飛躍的な発展、また、グローバル化による社会・経済活動の変化により、大学院は、新たな学問領域の創設や社会制度の変革の一翼を担う必要があります。具体的には、自然科学分野では、これまでの物理学・化学・生物学といった学問領域を統合し、複雑な生命現象を原子・分子のシステムとして論理的に解明する学問体系が必要とされ、人文・社会科学分野では少子高齢化やそれに伴う労働力の国際化・多文化共生などの新たな問題に取り組むことのできる学問体系が必要とされています。また、グローバル化による急速な経済環境の変化に素早く対応し、的確な戦略を構築していくことは、わが国企業の多くにとって、喫緊の課題であり、都市の経済基盤としての企業の新たな戦略や会計基準の国際化への対応および国際的税務戦略の立案など、大学が果たすべき役割は非常に大きいと言えます。

この様な状況を踏まえ、平成21年4月に、都市社会文化研究科、国際マネジメント研究科、生命ナノシステム科学研究科の3研究科、令和2年4月に、データサイエンス研究科が設置されました。

(1) 都市社会文化研究科

国際化・多文化共生などの現代社会の課題を解決するために、旧国際総合科学研究科国際文化研究専攻で蓄積した成果を活用・発展させ、人間と文化に関する人文科学の深い知見を基盤とし、その応用として現実の都市問題等に実践的に取り組んでいける人材を育成します。

(2) 国際マネジメント研究科

急速なグローバル化により、国際市場環境の直接的な影響を受けるようになった企業の環境に注目し、国際的な経済環境の変化を素早く総合的に分析し、的確な戦略を実行でき、企業の海外進出、特にアジアへの進出に重点を置き、本格的な海外展開を検討する企業およびこれらの企業を支援する組織に対して、国際的なマネジメントの知識、戦略およびセンスを備えた人材を育成します。

(3) 生命ナノシステム科学研究科

複雑な生命システムを原子分子といった物質科学の立場から論理的に解明するという理念にもとづいて、連携大学院協定を結ぶ理化学研究所、海洋研究開発機構、物質材料研究機構、NTT 物性科学基礎研究所との連携を強化し、次世代の統合科学を切り開く人材を育成します。

(4) データサイエンス研究科

膨大なデータを収集し、分析に必要なデータ解析の理論や手法にかかる「データアナリティクス力」、及びコンピュータを駆使し、データを意味ある形に変換し、活用できるようにする「データエンジニアリング力」を、社会潮流の把握に基づく課題背景の理解を基盤として膨大なデータの分析から創出する新たな価値を社会実装する「社会展開力」に収れんさせることができる人材、すなわちデータサイエンス人材を育成します。

大学院4研究科の教育・研究は、大学本部を置く金沢八景、舞岡とみなとみらいサテライトキャンパスの3つのキャンパスで進められます。金沢八景キャンパスには、博士前期課程及び博士後期課程として都市社会文化研究科（都市社会文化専攻）、国際マネジメント研究科（国際マネジメント専攻）、生命ナノシステム科学研究科（物質システム科学専攻、生命環境システム科学専攻）、データサイエンス研究科（データサイエンス専攻、ヘルスデータサイエンス専攻）の4つの研究科があります。

生命ナノシステム科学研究科において、物質システム科学専攻では国立研究開発法人物質・材料研究機構及びNTT物性科学基礎研究所と、生命環境システム科学専攻では国立研究開発法人海洋研究開発機構及び国立研究開発法人理化学研究所と連携し、教育・研究を行っています。舞岡キャンパスには、本学附属の木原生物学研究所を教育・研究の場として、生命環境システム科学専攻の一部があります。

2 博士前期課程および後期課程の修了要件、学位の種類

2-1 修了要件

○博士前期課程

博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に在学中に合格することです。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、1年以上在学すればよい場合があります。特に優れた業績を上げた者の判定基準については、各研究科により異なります。

なお、博士前期課程の在学可能期間（休学期間を除く）は最長4年間です。また通算して休学できる期間は2年間までです。

○博士後期課程

博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に在学中に合格することです。

ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、3年未満でも修了できる場合があります。特に優れた研究業績を上げた者の判定基準については、各研究科により異なります。

なお、博士後期課程の在学可能期間（休学期間を除く）は最長6年間です。また通算して休学できる期間は3年間までです。

2-2 修了

修了については、3月中旬に修了判定合格者を掲示により発表します。

※前期末（9月21日付）修了希望者の修了判定については、9月上旬に発表します。各研究科により学位論文提出までのスケジュールや条件が異なりますので、希望者はあらかじめ教務担当へ確認してください。

ただし、未納授業料がある場合は修了できませんので、納付期限までに納めておいてください。

修了式当日には、学位記、修了証明書1通及び成績証明書1通を配付します。

2-3 学位の種類

各研究科が授与する学位の種類を下表に示します。

研 究 科 名	博士前期課程	博士後期課程
都市社会文化研究科	修士(学術)	博士(学術)
国際マネジメント研究科	修士(経済学) 修士(経営学)	博士(経済学) 博士(経営学)
生命ナノシステム科学研究科	修士(理学)	博士(理学)
データサイエンス研究科 データサイエンス専攻	修士(データサイエンス)	博士(データサイエンス)
データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻	修士(ヘルスデータサイエンス)	博士(ヘルスデータサイエンス)

3 履修申請、登録、確認の方法

I

履修登録フロー図【履修登録の流れ】

1	履修科目の決定	授業科目一覧表・授業時間割表・シラバス等により適切に決定してください。なお、履修科目の相談は指導教員に確認してください。	
2	履修の制限	次のような科目は、履修することができません。 ①履修登録していない科目 ②同一授業時間に開講されている科目 ③既に単位を修得した科目 ④クラス指定がある科目の指定以外のクラスの履修 ⑤履修要件を満たしていない科目 その他、授業科目によって受講者を制限することがあります。	
3	聴講カード	教員が指示する場合は、履修をしようとする科目について、履修申請の他、履修申請期限までに科目の担当教員に教室で直接聴講カードを提出しなければなりません。 前期・後期・集中といった開講時期に関わらず、第1回目の授業時に提出してください。	
4	履修申請	本年度に履修しようとする科目は、Web履修申請により下記の期間内に申請しなければなりません。 期間中に申請のない学生は、履修を放棄したものとみなされます。また、申請のない科目には成績がつきません。期間を過ぎてからの追加・変更・取消は認められませんので注意してください。	
		前期・前期集中分	後期・後期集中分
	履修申請期間	4月18日(木)～4月24日(水) 【後期科目も申請可】	9月30日(月)～10月7日(月) 【後期科目のみ申請可】
	履修申請結果公開日	5月9日(木)	10月18日(金)
	履修登録確認期間	5月9日(木)～5月15日(水)	10月18日(金)～10月24日(木)
	履修登録確認結果公開日	5月27日(月)	11月6日(水)
	Web履修申請の手順	・ YCU-Portal (https://cmweb.yokohama-cu.ac.jp/campusweb/top.do) にログインする→「履修・成績」→「履修登録」→履修申請画面(時間割形式の画面)で履修科目を選択し、「登録」ボタンをクリックする→「入力内容を確認する」をクリックして内容を確定する ・ 「履修申請確認画面」を印刷し、申請科目を控えておいてください。 ・ 「履修登録完了案内」がYCU-Portal上のお知らせに受信できているか確認してください。受信できていない場合は履修登録が完了していませんので、再度履修登録を行ってください。	

※1 博士前期課程2年次生及び博士後期課程3年次生は修了見込判定を行いますので、前期履修登録期間に修了に必要な科目を後期科目も含め全て履修登録してください。

※2 神奈川県内大学院間学術交流協定または横浜国立大学との単位互換協定による単位互換科目を履修する場合は、各期の履修登録期間終了までに教育推進課教務担当に申請(指定様式、指導教員の確認印が必要)してください。ただし、各大学が設定している履修申請期限が本学の履修申請期間より早い場合は、各大学の申請期限までに申請を行う必要があります。

4 単位認定について

4-1

履修科目などの単位認定は、試験の成績又は研究の報告により教授会が行い、合格した科目については所定の単位が与えられます。なお、成績評価と点数の関係は、次のとおりです。

成績評価	点 数
秀 (SA)	90点～100点
優 (A)	80点～89点
良 (B)	70点～79点
可 (C)	60点～69点
不可 (D)	59点以下

4-2

各研究科以外あるいは各研究科に入学する以前に学修した成果に関する単位認定については、下記(1)～(5)合計で博士前期課程では合計8単位（本学学部卒業生で大学院科目早期履修者は別途定める）まで、博士後期課程では2単位まで、本学大学院を修了するための単位として認定します。単位認定を求める学生は、指定期間内に教育推進課（金沢八景キャンパスは教務担当）へ申請し、研究科教授会の認定承認を受けなければなりません。

- (1) 本学大学院入学前に、他大学大学院等で修得したもので、各研究科の科目との同一性が認められる科目。
- (2) 本学大学院入学前に、本学大学院の科目等履修生または特別聴講学生として修得した各研究科の科目、及び旧研究科科目等履修生として修得した科目で、各研究科科目との同一性が認められる科目。
- (3) 本学学部卒業生が、本学大学院入学前に大学院科目早期履修により修得した科目。
※認定する科目及び単位数は、研究科により異なります。
- (4) 本学の海外派遣事業として連携している海外の大学の大学院等で修得した科目で、各研究科の科目との同一性が認められる科目。
- (5) 単位互換制度で修得した科目。
相手大学院の専任教員が開講する授業科目を履修できます。履修希望者は、専用の履修申請手続きを教育推進課（金沢八景キャンパスは教務担当）で行う必要があります。

(5)-1 横浜国立大学との単位互換

国際マネジメント研究科博士前期課程では、横浜国立大学国際社会科学府経済学専攻、経営学専攻で専任教員が開講する科目を履修できます。

(5)-2 神奈川県内の大学院学術交流協定に参加している31大学との単位互換

都市社会文化研究科及び生命ナノシステム科学研究科の博士前期課程学生が対象です。
詳細については、オリエンテーション配布資料およびYCU-Boardでお知らせします。

5 主・副研究指導教員の届け出

入学した初年度に「主・副研究指導教員届」（所定用紙）を、教育推進課（金沢八景キャンパスは教務担当）に以下の要領で提出してください。

	都市社会文化研究科	国際マネジメント研究科	生命ナノシステム科学研究科	データサイエンス研究科
主 研 究 指導教員	演習、特別研究 研究演習 担当教員	研究指導 特殊研究指導 担当教員	特別研究 特別演習 担当教員	研究指導 特別研究指導 特別研究科目 担当教員
副 研 究 指導教員	専攻専任教員 2 名	専攻専任教員 2 名	専攻専任教員、大 学院客員教員から 2 名以上。 1 名は同研究科他 専攻教員でも可。 主研究指導教員が 客員教員である場 合、1 名は専攻専 任教員であること。	専攻専任教員 2 名
提出期限	巻末の「学位申請、発表会及び論文提出スケジュール」をご確認ください。			
提 出 先	金沢八景キャンパス教育推進課教務担当 ※データサイエンス研究科はみなとみらいサテライトキャンパス事務室でも可			

なお、特別の事由により、主・副研究指導教員の変更を希望する学生は、教育推進課へ所定の手続きを速やかに行ってください。研究科教授会の議を経て変更することができます。

6 長期履修学生制度（申請対象：博士前期課程・博士後期課程で職業を有する方）

長期履修学生制度とは

職業を有するため修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）を超えて一定期間延長して計画的に教育課程を履修できる制度です。

本人の申請に基づき、研究科における審査・承認を経て、学長の許可により長期履修学生となります。

長期履修学生を希望する場合は、入学後、修業年限の前年度までに申請してください。

また、修業年限を超えて長期履修学生として許可された期間においては、通常の授業料の20%相当額の負担となります。授業料の減免を受けようとする方は、減免適用年度前（毎年度）に授業料等減免申請が別途必要となります（※大学院長期履修学生の許可を得ていても、授業料等減免申請書の提出がない場合は、減免を受けることはできませんのでご注意ください）。

＜長期履修期間＞

大学院学則第7条に定める在学期間

都市社会文化研究科 国際マネジメント研究科 生命ナノシステム科学研究科 データサイエンス研究科	博士前期課程：4年	博士後期課程：6年
--	-----------	-----------

※ただし、上記年限内に修了することは差し支えありません。

※上記は休学期間を除いた在籍期間です。

＜授業料＞ ※入学後に休学期間がある場合、その期間分、減免開始時期が延期されます。

博士前期 課程	＜修業年限内＞ 1年次～2年次	3年目以降の長期履修学生として許可された期間
	通常の授業料を負担	通常の授業料の20%相当額を負担

博士後期 課程	＜修業年限内＞ 1年次～3年次	4年目以降の長期履修学生として許可された期間
	通常の授業料を負担	通常の授業料の20%相当額を負担

(1) 長期履修申請について

＜資格＞

- ① 修業年限の前年度まで（博士前期課程は入学から1年以内、博士後期課程は入学から2年以内）の大学院生
- ② 職業を有する者（長期履修申請時点、減免申請時点ともに）

＜提出書類＞

- ① 大学院長期履修学生申請書
- ② 在職証明書または在職が確認できる書類

＜申請時期＞

博士前期課程の方は1年次、博士後期課程の方は2年次終了までに申請が必要です。

※詳細については、YCU-Boardでお知らせします。

(2) 減免申請について

<対象>

博士前期課程2年次生、博士後期課程3年次生で大学院長期履修学生の許可を得ている方

<提出書類>

- ① 大学院長期履修学生の授業料等減免申請書（教育推進課教務担当窓口にてお渡しします）
- ② 在職証明書または在職が確認できる書類

<申請時期>

減免適用年度前年度に申請が必要です。翌年以降も減免を受ける場合には、毎年度申請が必要であり、就業状況について申請の度に確認させていただきます。対象の方には、YCU-Boardでお知らせします。

7 博士後期課程における単位修得満期退学

博士後期課程に休学期間を除き3年以上在学し、所定の単位を修得した者は単位修得満期退学を申請することができます。所属する研究科の定める要件を満たし、単位修得満期退学を希望する者は、指導教員と相談のうえ3月末日（この日が窓口閉室日の場合はその直前の開室日）までに教育推進課（金沢八景キャンパスは教務担当）へ退学願を提出してください。博士後期課程に休学期間を除き3年を超えて在籍している大学院生は、随時退学願を提出することができます（提出時期については事前に指導教員に相談してください）。

単位修得満期退学後、2年以内に学位申請をし、審査に合格した場合、課程博士として学位を授与されます。（博士後期課程修了とはなりません）

- *都市社会文化研究科及び国際マネジメント研究科では、単位修得満期退学願の提出に先立って、単位修得論文（論文3部、要旨3部、様式は自由です。指導教員と相談して作成してください。）を提出し、審査に合格していなければなりません。（提出期限は別途掲示で案内します）
- *生命ナノシステム科学研究科における特別研究及び特別演習の単位認定は、研究科教授会の審査により行います。
- *データサイエンス研究科では、予備審査に合格することが必要です。

8 論文博士申請

単位修得満期退学後2年以上経過した場合など、課程博士申請資格を持たない方は、論文博士として学位申請することが可能です。なお、論文博士申請には学位審査料を納付する必要があります。*

申請者は、各専攻担当教員の中から博士論文審査会の主査を担当できる教員を指定し、研究内容などが学位申請に適しているかどうかを事前に確認してください。その後、確認した教員が申請者に対する推薦理由、研究履歴、業績リストなどを研究科教授会に提出し、博士論文予備発表会における発表を決定した後は、課程博士における論文審査及び最終試験と同様の手順で学位授与が可能かを審査します。

※学位審査料について

学位審査料は下記のとおり申請者によって異なりますのでご注意ください。

- ①70,000円：②に該当しない方全員
- ②50,000円：本学研究科の単位修得満期退学後2年を超えた方、又は横浜市立大学の教員として6年以上研究に従事した方

9 研究不正防止に係る取組について

文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」（令和3年2月1日改正）及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成26年8月26日策定）に基づき、本学大学院では研究コンプライアンス教育及び研究倫理教育を推進するため、全ての大学院生にeラーニングによる研修（研究倫理教育eラーニング「APRIN eラーニングプログラム（eAPRIN）」）を受講し修了することを必須としています。

本eラーニングの修了は、学位申請の必須要件となります。（博士前期課程・後期課程共通）

各種申請書式とともに「修了証」を提出してください。

受講方法やログインID・パスワードなど詳細については、YCU-Boardにてご案内しますので、指定期日までに必ず受講し、修了してください。

10 不正行為について

① 不正行為の内容

〔筆記試験における不正行為〕

以下の場合、不正行為があったものと判断します。

- ア 許可された物以外の物を参照したとき。
- イ 本人に代わって他人が受験したとき。
- ウ 答案用紙を試験場外に持ち出したとき。
- エ 許可された以外のものを机上又は机の中等の手の届く範囲に置いたとき。
- オ その他、監督者による不正行為に関する具体的な注意に反したとき。

〔オンライン試験における不正行為〕

オンライン試験において、筆記試験における不正行為に加え、次の各号のような状況があるときは不正行為があったものと判断します。

- ア グループ単位で実施される試験を除き、他人の力を借り、または、他人に力を貸したとき。
- イ 論述問題・論証問題などで文献やネット上の文章や解法を書き写した場合に、出典の明記がなかったとき。
- ウ アカウントを他人に使わせたときや他人のアカウントを使用したとき。
- エ 不正防止対策として学生のカメラをオンにすることを求められた場合に、従わなかったとき。

〔論文・レポートにおける不正行為〕

以下の行為は、不正行為に該当します。

- ア 他者が作成した論文・レポートを盗作剽窃して提出したとき（インターネット上からのコピー・アンド・ペーストを含む）。
- また、論文・レポートを提供した側も不正行為に該当する場合があります。
- イ 出典を明記しないで引用したとき。
- ウ 引用箇所と自分の文章を区別せず引用したとき。

② 不正行為に対する処分

不正行為は絶対にしてはいけません。不正行為があったと認められた場合は、学則上の処分を受けるとともに、次のいずれかの教務上の措置を受け、学籍簿にも記入されます。

- ア 当該学年で履修した全ての科目を零点とします。
- イ 当該学期に履修した全ての科目を零点とします。

- ウ 演習科目、実験科目、実習科目を除く当該学期に履修した全ての科目を零点とします。
エ 当該学期に履修した科目のうち全ての期末教場試験科目を零点とします。
オ 当該科目を零点とします。
※不正行為をしたと判断された場合は、原則として上記「エ」以上の処分を科します。

11 学則

横浜市立大学大学院学則や通則、規程等については、大学のホームページに掲載されています。
下記のQRコードからアクセスして確認することができます。

【学則】



【通則、履修規程等】



Ⅱ

都市社会文化研究科 博士前期課程・博士後期課程

博士前期課程

II

1 教育研究の目的

都市社会文化研究科は、都市あるいは地域社会の課題を中心に、急速に変化する現代世界が提起する諸問題について、人間と文化への深い理解をふまえ、実践的に取り組んでいくことのできる人材の育成を目指します。

グローバル化、情報化の進展する現代世界の諸課題について、表面的でなく構造的に把握し、長期的展望をもって解決の方向を見出していくためには、特定の専門分野に立脚しつつも、その枠を超えた領域横断的、学際的アプローチを必要とします。これからの社会には、人間や文化に対する深い認識を備え、かつ現実が提起する具体的な課題に実践的関心をもって対処していくことのできる人材が求められています。

都市社会文化研究科は、現代の複合的な諸課題に取り組むために、人文科学、社会科学、さらに自然科学の一部に及ぶ豊富な授業科目を用意し、学外諸機関との連携に努め、社会人学生を受け入れる体制を整え、実践的かつ高度な教育研究を行っていくことを目標とします。

2 履修方法

(1) カリキュラム構成

総合研究科目：都市社会文化研究科における学習と研究に共通する基礎的な知識や見識を身につける目的で、短期集中形式で授業を行います。

特講科目（特講基礎科目）（特講展開科目）：

各研究分野における専門性を深めるために開講される講義科目です。人間や文化に対する認識を深めるための人文社会科学系の特講基礎科目と、都市や社会に対する理解を深めるための学問分野をカバーする特講展開科目の2系列で構成されています。

演習科目：修士論文の作成に向けて研究指導を行う科目です。

特別研究科目：社会人として入学し、修士論文の代わりに研究報告書の作成によって修了する学生のために開設される科目で、演習科目の代替となります。研究報告書は学術的考察を主眼とするのではなく、実践的な研究課題について、研究の意図、経過、結果、提言などを記述するものです。

大学院特別講義：他大学の教員が客員教員として特別に授業を担当した場合などに開講される講義科目です。

インターンシップ：学外の国際機関、自治体、企業などで一定の時間数のインターンシップを行う場合、主指導教員の事前の許可、研究科教授会の承認によって単位認定される場合があります。

(2) 修了に必要な単位数

次の区分に従い、合計30単位以上の科目を必修あるいは選択で履修します。

A 修士論文による修了

総合研究科目 (2単位) ^{※1}	総合研究科目 2 単位 ^{※1} を必修とします。それ以上履修した場合、特講展開科目の単位となります。
演習科目 (8 単 位)	主指導教員担当の演習 (I～IV) 8 単位を必修とします。主指導教員以外の教員の演習を履修した場合は副演習とし、その教員が特講基礎科目担当の場合は特講基礎科目、特講展開科目担当の場合は特講展開科目の単位となります (4 単位を上限とします)。
特 講 科 目 (16単位) ^{※2}	(1)特講基礎科目 4 単位を選択必修とします。 (2)特講展開科目 6 単位を選択必修とします。 (3)その他、特講基礎科目、又は特講展開科目から 6 単位 ^{※3} を履修する必要があります。 (4)大学院特別講義、インターンシップ、本学の他研究科の開講科目は、原則、特講展開科目として、神奈川県内の大学院学術交流協定に参加している大学院の単位互換科目を履修した場合は特講基礎科目又は特講展開科目として、8 単位まで単位認定されます (8 単位を越えた単位は自由科目として扱います)。
修 士 論 文 (4 単 位)	修士論文 4 単位を必修とします。

B 研究報告書による修了 (社会人として入学し、入学時に申請した場合)

総合研究科目 (2単位) ^{※1}	総合研究科目 2 単位 ^{※1} を必修とします。それ以上履修した場合、特講展開科目の単位となります。
特別研究科目 (8 単 位)	主指導教員担当の特別研究 (I～IV) 8 単位を必修とします。主指導教員以外の教員の特別研究を履修した場合は副特別研究とし、その教員が特講基礎科目担当の場合は特講基礎科目、特講展開科目担当の場合は特講展開科目の単位となります (4 単位を上限とします)。
特 講 科 目 (20単位) ^{※4}	(1)特講基礎科目 4 単位を選択必修とします。 (2)特講展開科目 6 単位を選択必修とします。 (3)その他、特講基礎科目、又は特講展開科目から10単位 ^{※5} を履修する必要があります。 (4)大学院特別講義、インターンシップ、本学の他研究科の開講科目は、原則、特講展開科目として、神奈川県内の大学院学術交流協定に参加している大学院の単位互換科目を履修した場合は特講基礎科目又は特講展開科目として、8 単位まで単位認定されます (8 単位を越えた単位は自由科目として扱います)。

※1 令和4年度以前入学者は4単位

※2 令和4年度以前入学者は14単位

※3 令和4年度以前入学者は4単位

※4 令和4年度以前入学者は18単位

※5 令和4年度以前入学者は8単位

※例外的に大学院学則で規定する「優れた業績を上げた者」と認められた者は、演習科目（特別研究科目）と特講科目の単位数を一定程度認定します。なお、この認定には事前申請が必要です。

※社会人として入学した場合、入学時に上記A、Bいずれかの方式を選択できます。Bを選択する場合は、所定の用紙により教育推進課教務担当に届け出る必要があります。入学後、AからBへの方式変更はできません。ただし、特別の事由によりBからAへの変更を希望する場合は、修了予定年次の年度初めに限り、所定の用紙により教育推進課教務担当を経て研究科長に願い出た上で、研究科教授会の議を経て変更することができます。その場合、既履修の特別研究科目は演習科目に読み替えるものとします。

※研究報告書は、必ずしも学術論文の様式と内容を備えている必要はありませんが、少なくとも2万字以上の分量でなければなりません。また、研究報告書は、本研究科博士後期課程の出願書類に定められている「修士論文に相当する論文」に該当するものではありません。

(3) 修士論文又は研究報告書の研究計画書提出と中間報告

学生は修士論文又は研究報告書の作成にあたり、各年度初めに主・副指導教員に研究計画書を提出し、修了年度の9～10月に開催される中間報告会で中間報告を行うものとします。

<研究計画書の提出>

提出締切：令和6年4月26日（金）

提出先：教育推進課教務担当

【作成要領】

I 冒頭に、研究計画書と記し、学年、学籍番号、氏名、研究題目、日付、主指導教員名、副指導教員名を記載する。

II 本文に以下の項目を設ける。

(1)研究テーマの概要 (2)これまでの研究経過 (3)これまでの研究成果（卒業論文、修士論文、学会誌掲載論文、著書、学会発表等）(4)今年度の研究計画 (5)学会発表、学会誌投稿等の予定

III A4 用紙（原則として40字×40行）で作成し、分量は、博士前期課程は1～2ページ（博士後期課程は2～3ページ）を目安とする。

(4) 前期末（9月21日付）修了について

<前期末（9月21日付）修了条件>

・修了希望年度前期末時点で、休学期間を除く在学期間が2年以上（大学院科目を本学学部在籍時の早期履修制度により修得の上入学した者については1年以上）であること。

・修了希望の前年度までに、中間報告^{*}を完了していること。

※中間報告は年1回（申請：9月下旬、報告会：10月上旬）しかありませんので、必ず修了を予定している前年度中に中間報告を終えてください。

・修了希望年度前期末時点で、修士論文合格を含む修了に必要な単位をすべて修得すること。

<令和6年度学位申請日程>

修士論文提出 令和6年6月13日（木）

口頭試験 令和6年6月下旬

修了者発表 令和6年9月中旬 ※前期成績公開日

修了日 令和6年9月21日（土）

3 学位論文の審査基準および手続き

博士前期課程

<審査基準>

- ① 研究テーマの妥当性：学術的及び社会的意義が認められる研究テーマが設定されていること。
- ② 研究方法の適切性：研究テーマと当該研究領域に求められる研究方法を採用し、情報や資料の収集、調査結果の処理や分析が適切かつ十分に実施されていること。
- ③ 論述・論旨の妥当性：先行研究を十分に理解し、研究テーマとの関連および相違を明確に提示していること。修士論文の構成、論述が明確で、結論に至る論理展開に一貫性が認められること。
- ④ 論文作成能力：修士論文の体裁、文章表現、図表の作成が的確であること。
- ⑤ 独創性：研究内容に独創性が認められること。

<修士論文提出及び学位申請ができる者>

- ① 本学大学院学則に定める修業年限を充足（見込を含む）し、かつ修了に必要な単位を修得（見込を含む）していること。
- ② 中間報告を行っていること。
- ③ 学位の申請について、指導教員の承認を得ていること。

<審査体制及び手続き>

- ① 学位申請者は、研究科が指定する期間内に、修士論文及び所定様式を提出する。
- ② 申請者は、研究科主催の公開発表会で内容を発表し、最終試験を受ける。
- ③ 学位審査部会の中に審査委員会を設け、3名以上の教員で構成される審査委員会により審査を行う。
- ④ 学位審査部会は、審査委員会から提出された評価判定により合否判定を行い、研究科長に提出する。研究科長は、研究科教授会の議を経て学位授与に値すると判定したときは、学位論文審査の結果を学長に報告する。

4 修士論文提出までの流れおよび学位申請

修士論文の審査及び最終試験以外の修了要件（2ページ参照）を満たしている学生は、以下に説明する流れに沿って修士論文を提出しなければなりません。ここでは、その流れに加えて学位の申請、学位論文の保管、修士論文作成要領について説明します（都市社会文化研究科で「研究報告書による修了」を選択した方は、以下の(1)～(4)の説明の中では「修士論文」を「研究報告書」と読み替えてください）。

(1) 修士論文提出までの流れ

各項目については、必ず主指導教員の承諾を受けてください。

1	研究計画書提出	4月下旬 ※毎年提出	博士前期課程2年
2	修士論文題目届提出	4月下旬 ※修了予定年度に提出	
3	中間報告書提出	(目次及び要旨各1部) 9月下旬	
4	修士論文中間報告会	9月下旬～10月上旬	
5	修士論文提出	1月中旬	
6	学位申請	1月中旬	
7	修士論文発表会	1月下旬～2月上旬	
8	学位授与※	修了(卒業)式 3月25日	

※具体的な提出日や申請日については、巻末の「学位申請、発表会申込及び論文提出スケジュール」を確認してください。

※前期末（9月21日付）での修了及び学位申請手続きについては、5月頃に掲示で案内します。

(2) 学位の申請

修士論文の提出と合わせて、下表に挙げる書類を教育推進課教務担当に提出してください。

詳細は別途掲示します。

提出票(所定様式)	1部
学位申請書(所定様式)	1部
学位申請論文(修士論文)	部数は別途掲示
論文要旨(日本語)	部数は別途掲示
履歴書(写真添付)	原本1部
修了見込証明書	原本1部
学位論文公開・複写許諾書(学術情報センター提出用)	1部
研究倫理教育eラーニング「APRIN eラーニングプログラム(eAPRIN)」修了証	原本1部
論文提出チェック票	1部

(3) 学位論文の保管

学位申請に合格した学生の修士論文は、本学学術情報センターで保管・公開します。保管・公開用論文の製本は、教育推進課教務担当で一括して行います。

(4) 修士論文作成要領

修士論文および修士論文要旨の作成要領を下表に示します。

	作 成 規 定	注 意
修士論文	・日本語(横書)の場合：A4判縦方向 縦36行・横40字程度。 ・日本語(縦書)の場合：A4判横方向 縦40字・横30行程度。 ・欧文(横書)の場合：A4判縦方向 縦36行・横66字。 文字の大きさは10～12ポイント。	①使用言語については、事前に主研究指導教員と相談すること。 ②手書きの場合、A4判(縦方向)の400字詰め原稿用紙を用い、明瞭な楷書で記載すること。 ③日本語(横書)の場合、B5判(縦40字・横20行)でもよい。
修士論文 要 旨	・日本語(横書、縦書)：修士論文と同じ。	・日本語 ①表紙をつけずに、冒頭に論文題目、所属、学籍番号、氏名を記入。 ②字数は4,000字程度。

* 中間報告書も上記修士論文の作成要領に従って作成してください。

5 授業科目表 博士前期課程 都市社会文化専攻

II

	授業科目の名称	履修年次	期間	単位数	担当教員	備考
総合研究科目	総合研究科目 1	1	前(後)	2	秋元 康幸(非常勤)・鈴木 伸治・南雲 岳彦(非常勤)	
	総合研究科目 2	1	前	2	ギミール・クレバール(非常勤)E	
	総合研究科目 3	1	前(前)	2	白川 徹(非常勤)	
	総合研究科目 4	1	前(前)	2	影山摩子弥	
特講基礎科目	人間科学論特講 1 (現代倫理学)	1・2	前	2	小館 貴幸(非常勤)	4 単位以上
	人間科学論特講 2 (教育心理学)	1・2	前	2	山田 剛史	
	人間科学論特講 3 (発達心理学) ^{※2}	1・2	後	2	江上 園子	
	人間科学論特講 4 (現代哲学)	1・2	後	2	川瀬 和也	
	言語文化論特講 1 (コミュニケーション論)	1・2	前	2	佐藤 響子	
	言語文化論特講 2 (アメリカ文化論)	1・2	前	2	中谷 崇	
	言語文化論特講 3 (日本文化史)	1・2	前	2	松本 郁代	
	言語文化論特講 4 (応用言語論)	1・2		2	休講	
	言語文化論特講 5 (日本文化論)	1・2	前	2	庄司 達也	
	言語文化論特講 6 (ヨーロッパ文化論)	1・2	後	2	平松 尚子	
	言語文化論特講 7 (イギリス文化論) ^{※1}	1・2		2	休講	
	社会文化論特講 1 (アジア文化論)	1・2	後	2	藤井 得弘	
	社会文化論特講 2 (多文化共生論)	1・2	前	2	滝田 祥子	
	社会文化論特講 3 (エスニシティ文化論)	1・2	後	2	坪谷美欧子	
	社会文化論特講 4 (欧米社会論)	1・2	後	2	上原 良子(非常勤)	
	社会文化論特講 5 (文化人類学)	1・2	後	2	板垣 明美	
	社会文化論特講 6 (日本社会史)	1・2	前	2	金山 泰志	
	まちづくり論特講 1 (都市計画論)	1・2	後(前)	2	中西 正彦	
	都市・環境政策論特講 1 (SDGsと都市環境論)	1・2	後	2	青 正澄	
	都市・環境政策論特講 5 (地方自治論)	1・2	後	2	新垣 二郎	
	国際関係論特講 4 (途上国開発論)	1・2		2	休講	
特講展開科目	まちづくり論特講 2 (都市解析論)	1・2	後	2	後藤 寛	6 単位以上
	まちづくり論特講 3 (市民まちづくり論)	1・2	前	2	三輪 律江	
	まちづくり論特講 4 (都市デザイン論)	1・2	前	2	鈴木 伸治	
	まちづくり論特講 5 (防災まちづくり論)	1・2	後	2	石川 永子	
	まちづくり論特講 6 (不動産マネジメント論)	1・2	後(前)	2	齊藤 広子	
	まちづくり論特講 7 (都市空間形成論)	1・2		2	休講	
	都市・環境政策論特講 2 (地域ガバナンス論)	1・2	集中(前)	2	宇野 二郎(非常勤)	
	都市・環境政策論特講 3 (都市政策論)	1・2	前	2	大島 誠	
	都市・環境政策論特講 4 (環境論)	1・2		2	休講	
	都市・環境政策論特講 6 (公共政策論)	1・2	後	2	和田淳一郎(兼担)	
	地域社会論特講 1 (地域精神保健論)	1・2		2	休講	
	地域社会論特講 2 (ライフコース論)	1・2		2	休講	
	地域社会論特講 3 (教育行政論) ^{※1}	1・2	前	2	阿内 春生	
	地域社会論特講 4 (メディア社会論)	1・2	後	2	角田 隆一	
	地域社会論特講 5 (福祉社会論)	1・2		2	休講	
	地域社会論特講 6 (社会理論)	1・2	前	2	渡會 知子	

	授業科目の名称	履修年次	期間	単位数	担当教員	備考
特講展開科目	社会経済論特講 1 (NPO論)	1・2		2	休講	6 単位以上
	社会経済論特講 2 (共生社会の地理学)	1・2	後	2	吉田 栄一	
	社会経済論特講 3 (都市ビジネス論)	1・2	集中(前)	2	矢部 智仁(非常勤)	
	社会経済論特講 4 (経済政策研究(旧産業立地論))	1・2	前	2	大塚 章弘(兼担)	
	社会経済論特講 5 (観光政策論)	1・2	前	2	有馬 貴之	
	海外地域論特講 1 (文化交流史)	1・2	前	2	乙坂 智子	
	海外地域論特講 2 (アジア地域論)	1・2	前	2	小野寺 淳	
	海外地域論特講 3 (アジア社会史)	1・2	前	2	柿崎 一郎	
	海外地域論特講 4 (イスラーム地域論)	1・2	前	2	山崎 和美	
	海外地域論特講 5 (欧米社会史)	1・2	前	2	山根 徹也	
	国際関係論特講 1 (グローバル政治論)	1・2	後	2	上村 雄彦	
	国際関係論特講 2 (グローバル経済論)	1・2		2	休講	
	国際関係論特講 3 (国際機構論) ^{※1}	1・2	前	2	高橋 力也	
	国際関係論特講 5 (グローバル平和論)	1・2	前	2	ヴェセリン・ボボフスキー(非常勤)E	
	国際関係論特講 6 (国際関係論) ^{※2}	1・2	後	2	西海 洋志	
	大学院特別講義(地球社会論)	1・2		2	休講	
	大学院特別講義(Sustainable Urban Development)	1・2	集中(後)	2	グローバルセンター長E	
演習科目・特別研究科目	大学院特別講義(日本外交論)	1・2	前	2	畠山 京子(非常勤)E	8 単位
	大学院特別講義(Language Education in Asia)	1・2	前	2	藤田ラウンド幸世(非常勤)E	
	大学院特別講義(History of International Relations)	1・2	前	2	等松 春夫(非常勤)E	
	大学院特別講義(グローバリゼーションとダイバーシティ-英語文献を読み解く-)	1・2	前	2	楠田 弥恵(非常勤)E	
	大学院特別講義(Technology and Society)	1・2	前	2	ギミール・クレバール(非常勤)E	
	インターンシップ	1・2	集中	2	研究科長	
	演習Ⅰ	1	前・後	2	阿内 春生	
	演習Ⅱ	1	前・後	2	青 正澄	
	演習Ⅲ	2	前・後	2	新垣 二郎	
	演習Ⅳ	2	前・後	2	有馬 貴之	
	特別研究Ⅰ	1	前・後	2	有馬 齊	
	特別研究Ⅱ	1	前・後	2	石川 永子	
	特別研究Ⅲ	2	前・後	2	板垣 明美	
	特別研究Ⅳ	2	前・後	2	上村 雄彦	
	※「演習Ⅰ～Ⅳ」「特別研究Ⅰ～Ⅳ」については右記の指導教員全てが対象となります。				浮田 徹嗣(休講)	
					江上 園子	
					大島 誠	
	※修士論文により修了する者は「演習Ⅰ～Ⅳ」を履修してください。その場合、「特別研究Ⅰ～Ⅳ」の履修登録はできません。				乙坂 智子	
					小野寺 淳	
					柿崎 一郎	
	※「特別研究Ⅰ～Ⅳ」は、研究報告書による修了(1年次4月に申請必要)を許可されている学生のみ履修登録が可能です。その場合、「演習Ⅰ～Ⅳ」の履修登録はできません。				影山摩子弥	
					川瀬 和也	
					後藤 寛	
					齊藤 広子	
					佐藤 響子	
					庄司 達也	
					鈴木 伸治	

	授業科目の名称	履修年次	期間	単位数	担当教員	備考
演習科目・特別研究科目					高橋 力也 滝田 祥子 土屋 慶子 角田 隆一 坪谷美欧子 中谷 崇 中西 正彦 西海 洋志 平松 尚子 藤井 得弘 松本 郁代 三輪 律江 山崎 和美 山田 剛史 山根 徹也 吉田 栄一 渡會 知子	8 単位
	修士論文	2	集中	4	主指導教員	4 単位
自由科目	大学院・キャリア形成実習(横浜の産業と企業理解) ^{※3} 大学院・日本語科目 ^{※3} ※「Ⅶ 大学院日本語科目」を確認	1・2	集中(前)	1	キャリア支援センター長・河瀬恵子	

※1 令和4年度以降入学者のみ履修可能です。

※2 令和6年度以降入学者のみ履修可能です。

※3 留学生・帰国生のみ履修可能です。

6 担当専任教員の研究分野と課題 博士前期課程

氏 名	研 究 分 野	研 究 課 題
阿内 春生	教育学、教育行政学	地方議会の教育政策決定過程への関与。教育と政治。地方教育行政
青 正澄	環境学	地域環境管理・環境政策および環境協力の取組
新垣 二郎	地方自治論、行政学、地方政治	都市部における行政区の研究、地方自治体と地域社会の関係性に関する研究、市町村議会の行政監視と政策立案に関する研究
有馬 貴之	観光地理学、観光教育、観光政策論	都市観光地の発展過程、観光空間における観光客の移動・行動、自然観光地における適正収容力、インバウンド観光、効果的な観光教育方法論、GISを用いた観光の空間分析など
有馬 齊	倫理学	善悪の基準にかんする道德哲学の倫理と、生命倫理など応用倫理の課題を扱う。
石川 永子	防災まちづくり、被災者の生活再建と復興	事前復興まちづくり計画・防災・復興まちづくりにおける土地利用規制と居住者のくらしの変容に関する研究、防災・復興における参加のインクルーシブデザイン、木造密集市街地におけるエリアマネジメントに関する研究
板垣 明美	文化人類学、癒しの文化、身体論	マレーシアとベトナムの民間医療に関する文化人類学的研究、心身状態についてのコミュニケーションのとりかた、「癒しの文化領域」を通して他者の苦しみを理解し、それに対処すること、治療技法、舞踏、音楽の演奏、生業のための技術など身体・言語統合として存在する文化の創造と伝承、身体的知性と身体技法
上村 雄彦	グローバル政治論、グローバル公共政策論、グローバル・ガバナンス論	地球規模問題を解決し、持続可能なグローバル福祉社会を構築するために必要な政策とガバナンスに関する研究
浮田 徹嗣	臨床心理学、精神分析学、精神保健学	精神分析的な心理療法の治療構造、社会における精神保健の問題を心理学の視点から検討すること
江上 園子	発達心理学・家族心理学	主には、母親としての発達や女性のワークファミリーバランスなどをジェンダーの問題として位置づけながら研究を進めています。それに加えて、子どもにおける自他の感情理解や感情表出の調整についても研究遂行中です
大島 誠	都市財政論、公共経営論、都市政策論	PFI方式に関する研究、公共経営と民営化に関する研究、地域環境政策およびエネルギー政策に関する研究
乙坂 智子	中国前近代政治史	中国前近代(元・明朝)の対外政策、とくにチベットとの関係について
小野寺 淳	都市地理学、経済地理学、中国研究	中国における都市形成のメカニズム、地域開発の思想と方法
柿崎 一郎	タイ地域研究、インドシナ交通論	戦後期タイの交通政策、メコン川流域経済圏の交通開発、バンコクの都市交通史
影山摩子弥	経済システム論、地域CSR論	①障がい者雇用、②企業・NPO・行政のネットワーク型連携による地域システム形成
金山 泰志	日本近現代史	「近代日本民衆の対中国感情」という研究テーマで、「文化史」や「メディア史」の視座から他者認識研究を行っている。近年は、近代日本における流行(中国料理や麻雀、中国服)に着目し、その実証的把握を試みている
川瀬 和也	西洋哲学	近代ドイツの哲学者・ヘーゲルの哲学と、現代の分析哲学の研究を通じて、「行為とは何か」「自律とは何か」の解明を目指している。原則として分析哲学分野の指導を行うが、希望があればドイツ近代哲学の指導も可能
後藤 寛	地理情報システム(GIS)、都市計画・都市解析	GISを用いたマイクロエリアマーケティング手法の開発、都市内部の空間構造・商業機能の分布の解明とモデル化
齊藤 広子	不動産学、住環境マネジメント学、マンション管理学、すまいとまちのマネジメント	マンションの管理・建替え、住宅地の開発・企画・デザイン・管理・再生手法、消費者・生活者のための不動産取引のあり方、コミュニティデザインの実践的研究、空き家を通じたまちづくり

氏 名	研 究 分 野	研 究 課 題
佐藤 響子	社会言語学	談話分析、言語とジェンダー
庄司 達也	日本近代文学	芥川龍之介の〈人〉と〈文学〉、出版メディアと作家・読者の関係、近代作家に於ける西洋音楽の受容などの研究
鈴木 伸治	都市デザイン	我が国における景観概念の発展過程に関する研究、横浜及び新都市における都市デザインに関する研究、歴史的環境保全手法に関する研究
高橋 力也	国際機構論	国際連盟と国際連合を中心として、国際機構がどのような発展を遂げ、現代国際社会にいかなる影響を与えているかについて、主に歴史学的な手法を用いて研究
滝田 祥子	社会学	集合的記憶、日系アメリカ人コミュニティに関する研究、在日外国人(とくに在日コリアン)、多文化共生に関する研究
土屋 慶子	応用言語学	ヘルスコミュニケーション、異文化コミュニケーション。共同行為のマルチモーダル分析
角田 隆一	社会学	メディア文化、ポピュラー文化、映像文化を事例とした近現代社会論。近年は「写真の社会学プロジェクト」の理論構築と実践も進行中
坪谷美欧子	社会学	地域社会とマイノリティ、在日中国人のアイデンティティ、外国人の子どもの教育
中谷 崇	現代アメリカ文学(小説 特に William Faulkner と John Updike)	近代原理との対峙の試みとしてのモダニズム「文学」という「制度」の政治性、編集文献学
中西 正彦	都市計画、住宅政策	良好な都市空間・住環境の計画策定技術と実現手段、都市開発・建築コントロールのあり方、都心部の居住空間の性能確保、郊外住宅地の維持・再生方策
西海 洋志	国際関係論、国際政治思想、平和構築	より良い世界を構想するために、国際社会や国際秩序がいかに形成、維持、再構築されてきた／いるのかを考察・研究。また、「保護する責任」など、人道危機に対処するための国際的な取り組みについても研究している
平松 尚子	フランス語文学、外国語教育	20世紀のフランス語文学(特にマルグリット・ユルスナールの著作)における東洋思想の摂取と理解に関する研究。高等教育における初習外国語学習、国際共修
藤井 得弘	中国文学	近代文学、とくに19世紀半ば以降の文学について研究する。異国との接触や科学技術の導入によって生じた、中国人のものの考え方や想像力の変化について、文学、随筆、新聞記事、図像などを資料として考察する
松本 郁代	日本文化史	中世日本の歴史叙述から人間の文化構造や歴史観、文化表象をとらえる研究。近年は絵画や言説から神仏の権能と表象がもつ社会的公共性と物語的機能の分析を行っている
三輪 律江	建築・都市計画、参加型まちづくり、こどものための都市環境、環境心理学	参画型まちづくりとまちづくり教育の実践に関する研究、「居場所」としての都市空間の在り方に関する研究、コミュニティ活性化に向けた施設空間整備の実践研究、子どもの地域への「なじみ」形成に関する実践研究、魅力的な地域資源となるための公園整備に関する研究
山崎 和美	イラン近現代史(女性史、教育史) イスラーム地域研究(中東、北アフリカ、カフカス、中央アジア、バルカン半島)	イランの教育や女性・家族・子どもに関わる近現代史、女子近代教育の発展と女性運動、近代教育と欧米の宗教・文化団体、近代化とイスラームに基づく伝統的社会規範の相克などについての研究
山田 剛史	教育心理学、心理統計学、教育評価・測定	一事例実験の統計分析、項目反応理論の教育研究への応用、文系学生のための心理統計教育、反転授業などアクティブラーニングの評価
山根 徹也	西洋史	社会史。民衆文化、民衆運動、民衆に対するエリート層による社会統制など(特にドイツについて)
吉田 栄一	開発地理学、アフリカ研究、都市研究、開発援助研究	発展途上国の大都市や農村の開発課題と地域開発行政の関わりについて。対アフリカ援助研究、開発援助思想と歴史
渡會 知子	社会学	社会理論、社会学史、社会システム理論、包摂と排除、ドイツ地方自治体における移民支援

7 履修モデル

【まちづくり関連のテーマで学ぶ場合】

まちづくり関連のテーマで学ぶ場合にはいくつかのモデルが考えられますが、本研究科の特色の一つには、都市解析や都市計画、都市デザイン、不動産マネジメント、防災まちづくり、市民参加などの研究を行っている教員がそろっている点にあります。

また、横浜市は約370万人の人口を有する日本最大の政令指定都市であり、全国的にも先進的な都市計画で知られています。また、一方ではさまざまな都市課題を有しており、研究を行う上で参考となる事例も豊富にあります。ここでは、住民参加や防災まちづくりなど、身近なコミュニティレベルのまちづくりをテーマに研究を行うケース（履修モデル1）と中心市街地の活性化をテーマに研究を行うケース（履修モデル2）を示します。

履修モデル1

- 総合研究科目（2単位）
「総合研究科目1」
- 演習科目（8単位）
「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」
- 特講科目（16単位）
「まちづくり論特講1（都市計画論）」
「都市・環境政策論特講1（SDGsと都市環境論）」
「都市・環境政策論特講5（地方自治論）」
「まちづくり論特講3（市民まちづくり論）」
「まちづくり論特講5（防災まちづくり論）」
「まちづくり論特講6（不動産マネジメント論）」
「都市・環境政策論特講2（地域ガバナンス論）」
「都市・環境政策論特講3（都市政策論）」
- 修士論文（4単位）

履修モデル2

- 総合研究科目（2単位）
「総合研究科目4」
- 演習科目（8単位）
「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」
- 特講科目（16単位）
「まちづくり論特講1（都市計画論）」
「都市・環境政策論特講1（SDGsと都市環境論）」
「まちづくり論特講2（都市解析論）」
「まちづくり論特講4（都市デザイン論）」
「まちづくり論特講6（不動産マネジメント論）」
「都市・環境政策論特講3（都市政策論）」
「社会経済論特講3（都市ビジネス論）」
「社会経済論特講5（観光政策論）」
- 修士論文（4単位）

【グローバルキャリア・国際的専門職をめざして学ぶ場合】

履修モデル1は、アジア研究を中心としながら国際的課題を学び国際的専門職を目指す例です。本研究科の1つの特色は歴史学、地理学、人類学など多様な学問分野からアジア研究に取り組む教員がそろっている点にあります。そこで本研究科大学院生は国際関係諸概論を学びながら、アジアの視座からグローバル課題を読み直し新たな知の地平を拓くことが期待されます。具体的には概論科目としてのグローバル政治論、グローバル経済論、途上国開発論を基盤にして、アジア研究に関係するアジア文化論、アジア地域論、イスラーム地域論もしくは文化人類学を履修するモデルが考えられます。

履修モデル2は、グローバルスタディーズを中心に国際的課題を学び、グローバルキャリアを目指す場合です。概論科目としてはグローバル政治論、グローバル経済論に加えてグローバル地理学を内容とする社会経済地理学の選択が考えられます。その上でグローバルな課題を探究する多文化共生論、エスニシティ文化論、都市環境論、国際関係論の選択が考えられます。履修モデル1は新興国や途上国のテーマを中心に、モデル2は日本や欧米の直面する課題を念頭に学ぶことも想定されます。

履修モデル1

- 総合研究科目（2単位）
「総合研究科目1」
- 演習科目（8単位）
「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」
- 特講科目（16単位）
「社会文化論特講1（アジア文化論）」
「社会文化論特講5（文化人類学）」
「海外地域論特講2（アジア地域論）」
「海外地域論特講3（アジア社会史）」
「海外地域論特講4（イスラーム地域論）」
「国際関係論特講1（グローバル政治論）」
「国際関係論特講2（グローバル経済論）」
「国際関係論特講4（途上国開発論）」
- 修士論文（4単位）

履修モデル2

- 総合研究科目（2単位）
「総合研究科目4」
- 演習科目（8単位）
「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」
- 特講科目（16単位）
「言語文化論特講3（日本文化史）」
「社会文化論特講2（多文化共生論）」
「社会文化論特講3（エスニシティ文化論）」
「都市・環境政策論特講1（SDGsと都市環境論）」
「社会経済論特講2（共生社会の地理学）」
「国際関係論特講1（グローバル政治論）」
「国際関係論特講3（国際機構論）」
「国際関係論特講6（国際関係論）」
- 修士論文（4単位）

【地方公務員等の社会人大学院生が学ぶ場合】

履修モデル1は、自身が携わってきた公務員等の仕事について、その意義を客観的に学問的に考えてみたいという方のための履修モデルです。ジェネラリストとして様々な分野の行政に携わってきたけれど、職場から少し距離をおいて、日々の仕事が社会の中でどのような役割を果たしているのか、住民の生活にどのような貢献をなしているのかを追究したいと思っている方を想定しています。

履修モデル2は、公務員等に必要な知識や技法をリカレントして仕事に役立てたいと思っている方で、特に社会福祉の分野に関心のある方を想定した履修モデルです。福祉国家が再編され、地域社会が変容する中での社会福祉のあり方を追究するとともに、福祉サービスの対象となる当事者に関する理解を深め、当事者主体の福祉システムの構築を考えることを目標としています。

さらに、修士論文に代えて研究報告書によって終了しようとする方を想定した履修例やプログラムも示しています。

履修モデル1

<修士論文による場合>

- 総合研究科目（2単位）
「総合研究科目1」
- 演習科目（8単位）
「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」
- 特講科目（16単位）
「まちづくり特講1（都市計画論）」
「まちづくり特講3（市民まちづくり論）」
「まちづくり特講4（都市デザイン論）」
「まちづくり特講5（防災まちづくり論）」
「まちづくり特講6（不動産マネジメント論）」
「都市・環境政策論特講2（地域ガバナンス論）」
「都市・環境政策論特講3（都市政策論）」
「都市・環境政策論特講5（地方自治論）」
- 修士論文（4単位）

<研究報告書による場合>

- 総合研究科目（2単位）
「総合研究科目1」
- 特別研究科目（8単位）
「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」、「特別研究Ⅲ」、「特別研究Ⅳ」
- 特講科目（20単位）
「まちづくり論特講1（都市計画論）」
「まちづくり論特講3（市民まちづくり論）」
「まちづくり論特講4（都市デザイン論）」
「まちづくり論特講5（防災まちづくり論）」
「まちづくり論特講6（不動産マネジメント論）」
「都市・環境政策論特講2（地域ガバナンス論）」
「都市・環境政策論特講3（都市政策論）」
「都市・環境政策論特講5（地方自治論）」
「社会経済論特講3（都市ビジネス論）」
「地域社会論特講6（社会理論）」

履修モデル 2

<修士論文による場合>

- 総合研究科目（2単位）
「総合研究科目3」
- 演習科目（8単位）
「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」、「演習Ⅲ」、「演習Ⅳ」
- 特講科目（16単位）
「人間科学論特講2（教育心理学）」
「人間科学論特講3（発達心理学）」
「人間科学論特講4（現代哲学）」
「都市・環境政策論特講5（地方自治論）」
「地域社会論特講3（教育行政論）」
「地域社会論特講4（メディア社会論）」
「地域社会論特講6（社会理論）」
「社会経済論特講1（NPO論）」
- 修士論文（4単位）

<研究報告書による場合>

- 総合研究科目（2単位）
「総合研究科目3」
- 特別研究科目（8単位）
「特別研究Ⅰ」、「特別研究Ⅱ」、「特別研究Ⅲ」、「特別研究Ⅳ」
- 特講科目（20単位）
「人間科学論特講2（教育心理学）」
「人間科学論特講3（発達心理学）」
「人間科学論特講4（現代哲学）」
「言語文化論特講1（コミュニケーション論）」
「都市・環境政策論特講2（地域ガバナンス論）」
「都市・環境政策論特講5（地方自治論）」
「地域社会論特講3（教育行政論）」
「地域社会論特講4（メディア社会論）」
「地域社会論特講6（社会理論）」
「社会経済論特講1（NPO論）」

【持続可能な地域社会プログラムと認定について】

1 持続可能な地域社会プログラムとは

- 有限な資源を大切に、誰もが安心して安全に暮らせる地域社会
- 市民、行政、民間企業、NPO、専門家等がそれぞれの責任を果たし、連携により築き上げる地域社会
- 文化、芸術、歴史等、地域特性を活かした、グローバル社会に対応した地域社会
- 理論に基づいた知見を基に実践し、暮らしの質の向上を目指す地域社会
を目指した知見を深める実践系のプログラムである。

2 本プログラムの特徴

- 人文学、社会科学、法学、社会工学、人間科学など様々な分野を学際的に学ぶ。
- 現代社会の問題を知り、解決・予防する方策を学び、実践する力を身に付ける。
- 原則、平日は夜間の遠隔授業、土曜日等は午前・午後の対面授業で、プログラム修了を可能とする。

3 プログラムの認定条件は、以下のとおりとする。

- (1) 総合研究科目 以下から1科目以上
総合研究科目1（秋元・鈴木・南雲）、総合研究科目4（影山）土曜日開講
 - (2) 特講基礎科目 以下から2科目以上
地方自治論（新垣）、都市計画論（中西）、SDGsと都市環境論（青）夜間開講
 - (3) 特講展開科目 研究報告書で修了の場合は、以下から7科目14単位
修士論文で修了の場合は、以下から3科目6単位
 - 夜間・土曜日開講の特講展開科目
都市解析論（後藤）、市民まちづくり論（三輪）、都市デザイン論（鈴木）、防災まちづくり論（石川）、不動産マネジメント論（齊藤）、都市政策論（大島）、地域ガバナンス論（宇野）、都市ビジネス論（矢部）
 - 隔年夜間開講
福祉社会論（休講）、多文化共生論（滝田）、観光政策論（有馬）、共生社会の地理学（吉田）
 - それ以外
公共政策論（和田）
- ※なお下線は演習の担当教員も兼ねる。
- (4) 「修士論文」又は「研究報告書」を合格していること。

4 プログラム修了までの流れ

- (1) プログラムに参加するにあたり、参加申請を行う。
※ 参加申請と修了申請を同時に行うことはできませんので、必ず事前に参加申請を行ってください。
- (2) 申請後、プログラムの修了に必要な要件を満たすよう学修してください。
- (3) プログラムの修了に必要な要件を満たしたら（必要単位数の修得等）、修了申請を行ってください。
- (4) 修了申請を受け、修了要件を満たしていることが確認された学生に対しては、大学から修了証が発行されます。

【注意事項】

- ・オリエンテーション時に本プログラムの説明を行います。
- ・参加及び修了の申請方法や時期については、事前にYCU-Boardでご案内します。
- ・プログラムの修了要件となっている科目の履修は、通常の履修登録と同じ期間内に同じ手順で登録してください。

博士後期課程

II

1 教育研究の目的

都市社会文化研究科は、都市あるいは地域社会の課題を中心に、急速に変化する現代世界が提起する諸問題について、人間と文化への深い理解をふまえ、実践的に取り組んでいくことのできる人材の育成を目指します。

グローバル化、情報化の進展する現代世界の諸課題について、表面的でなく構造的に把握し、長期的展望をもって解決の方向を見出していくためには、特定の専門分野に立脚しつつも、その枠を超えた領域横断的、学際的アプローチを必要とします。これからの社会には、人間や文化に対する深い認識を備え、かつ現実が提起する具体的な課題に実践的関心をもって対処していくことのできる人材が求められています。

都市社会文化研究科は、現代の複合的な諸課題に取り組むために、人文科学、社会科学、さらに自然科学の一部に及ぶ豊富な授業科目を用意し、学外諸機関との連携に努め、社会人学生を受け入れる体制を整え、実践的かつ高度な教育研究を行っていくことを目標とします。

都市社会文化専攻の博士後期課程においては、博士前期課程における教育研究の蓄積をふまえ、総合性・学術性・独創性を兼ね備えた研究者及び高度専門職業人を養成するための教育・研究を行います。

2 履修方法

(1) カリキュラム構成

多分野交流演習：多様な専門分野の教員・学生が相互交流を図る演習科目で、異分野理解能力向上、総合的・学際的視点の獲得、独創性の涵養などを目的として開設されます。

攻 究 科 目：各研究分野の専門性を深めるために開設される講義科目です。

演 習 科 目：主指導教員による博士論文作成のための研究指導を行う科目です。

(2) 修了に必要な単位数

次の区分に従い、合計20単位以上の科目を必修あるいは選択で履修し、博士論文を提出します。

多分野交流演習 (2単位)	多分野交流演習(2単位)を必修科目とします。
攻 究 科 目 (6単位)	攻究科目(6単位)を選択必修とします。
演 習 科 目 (12単位)	主指導教員による研究演習(I～VI、12単位)を必修とします。

※ 博士論文提出予定年度に、「博士論文(0単位)」を履修登録してください。

(3) 博士論文の中間報告、単位修得論文及び予備論文

学生は博士論文の作成にあたり、各年度初め(提出期限は別途揭示)に主・副指導教員に研究計画書を提出して研究指導を受け、2年次の11月に中間報告を行い、1月(またはそれ以降の定められた期日)に予備論文を提出するものとします。予備論文の審査に合格し、かつ、主指導教員の承認を得なければ、博士の学位申請をすることができません。

ただし、中間報告や予備論文審査、学位申請の時期については、標準的な日程の他にもさまざまなパターンが考えられます。他のパターンについては、P.33の日程表を参照してください。また、休学期間を挟む学位申請スケジュールについて不明な場合は、教育推進課教務担当へ確認してください。

<研究演習Ⅵの単位修得および単位修得満期退学について>

【研究演習Ⅵの単位修得について】

研究演習Ⅴ修得後に予備論文の審査または単位修得論文の審査に合格することで、研究演習Ⅵの単位を修得することができます。

【単位修得満期退学について】

- ・単位修得満期退学を希望する場合は、修了予定年度の定められた期日までに単位修得論文を提出し、副指導教員による審査に合格することで、研究演習Ⅵの単位を修得することができ、それにより満期退学が可能となります（すでに予備論文審査に合格している場合は、単位修得論文を提出する必要はありません）。
- ・単位修得論文の審査と予備論文の審査を同時に希望する場合は、それぞれに必要な申請を行う必要があります。各審査の提出書類については、巻末の「学位申請、発表会申込及び論文提出スケジュール」を確認してください。
- ・単位修得満期退学の審査に合格した後は、3月末日までに退学手続きを行う必要があります。退学手続きや退学後の学位申請の方法については、7ページを確認してください。

(4) 前期末（9月21日付）修了について

<前期末（9月21日付）修了条件>

- ・修了希望年度の前期末時点で、休学期間を除く在学期間が3年以上（入学から2年以内に予備審査に合格している者については2年以上）であること。
- ・修了希望の前年度までに、予備審査に合格していること。
※中間報告は年1回（申請9月、報告会11月）、予備発表は年2回（申請6月、発表会8～9月又は申請1月、発表会2～3月）しかありませんので、必ず修了を予定している前年度中に中間報告及び予備発表を終えてください。
- ・修了希望年度の前期末時点で、博士論文合格を含む、修了に必要な単位を全て修得すること。
- ・学位申請のスケジュールについては、主指導教員と相談のうえ、決定してください。

3 学位論文の審査基準および手続き

II

博士後期課程

＜審査基準＞

- ① 研究テーマの妥当性：申請された学位にふさわしい、学術的及び社会的意義が認められる研究テーマが設定されていること。
- ② 研究方法の適切性：研究テーマと当該研究領域に求められる研究方法により、資料の収集、調査結果の処理や分析が適切なものであること。
- ③ 論述・論旨の妥当性：先行研究を十分に理解し、研究テーマとの関連および相違を明確に提示していること。博士論文の構成、論述が明確で、結論に至る論理展開に一貫性が認められること。
- ④ 論文作成能力：博士論文の体裁、文章表現、図表の作成法が的確で、高度な研究者に相応しい論文作成能力があると認められること。
- ⑤ 独創性：研究内容に独自の価値が認められ、当該研究領域に貢献する可能性がある優れた成果を提供していること。

＜課程博士学位審査論文提出及び学位申請ができる者＞

- ① 本学大学院学則に定める修業年限を充足（見込を含む）し、かつ修了に必要な単位を修得（見込を含む）していること、または単位修得満期退学後2年以内であること。
- ② 予備審査に合格していること。
- ③ 学位の申請について、指導教員の承認を得ていること。
- ④ 少なくとも学術論文1編が、審査委員制度が設けられている学術雑誌に、申請者の単著又は第一著者として発表されているか、又は発表が決定されていること。

＜課程博士学位審査体制及び手続き＞

- ① 課程博士学位申請者は、研究科が指定する期間内に、論文及び所定様式を提出する。
- ② 申請者は、研究科主催の公開発表会で内容を発表する。発表後、学位論文に関する専門分野の科目、関連分野の科目及び外国語科目について最終試験を行う。
- ③ 学位審査部会の中に審査委員会を設け、主指導教員を除く4名以上の学位審査資格を持つ専任教員で構成される審査委員会により審査を行う。また、研究科が必要と認めたときは、外部委員を2名まで審査会に加えることができる。
- ④ 学位審査部会は、審査委員会から提出された評価判定により合否判定を行い、研究科長に提出する。研究科長は、研究科教授会の議を経て学位授与に値すると判定したときは、学位論文審査の結果を学長に報告する。

＜論文博士学位審査の審査体制及び手続き＞

- ① 学位申請は随時受け付ける。
- ② 論文博士については、課程博士の学位論文の要件を越える顕著な成果を必要とする。
- ③ 審査委員会は、5名以上の学位審査資格を持つ専任教員で構成する。
- ④ 研究科主催の公開発表会に先立ち予備審査を行い、以降の審査については課程博士学位審査と同様に行う。

4 博士論文提出までの流れおよび学位申請

博士論文の審査及び最終試験以外の修了要件を満たしている学生は、以下に説明する流れに沿って博士論文を提出しなければなりません。

☆学位取得までのプロセス

学位を取得するまでの標準的なプロセスは、次の通りです。

- a. 修業年限である3年の在学期間中に、所定の単位を修得するとともに、中間報告・予備審査を含む博士論文の審査及び最終試験に合格する（標準）。

3年間で修了する標準的な方法以外にも、次のような方法でも学位を取得することができます。

- b. 標準的な在学期間である3年を超えても、在学可能期間内（休学を除く6年）に、所定の単位を修得するとともに、aと同じ博士論文の審査及び最終試験に合格すれば課程博士学位を取得できる。（本課程に在籍できる期間の上限は6年です。）なお、職業を有する博士後期課程生は長期履修制度に申請することができます。審査を経て許可された場合は、修業年限を超えた時期の授業料が減免されます。
- c. 単位修得満期退学をした学生の場合、退学後2年以内に博士論文の審査及び最終試験に合格すれば、課程博士学位を取得できます。（ただし、この場合は博士後期課程修了ではありません）
- d. 単位修得満期退学をした学生で、退学後2年を越えた者については、論文博士申請をすることができます。
- e. また、例外的に研究科通則に規定する「優れた業績を上げた者」と認められた学生については、在学期間は2年であっても、所定の単位を修得するとともに、博士論文の審査及び最終試験に合格すれば学位が取得できます。なお、「優れた業績を上げた者」として認められるためには、博士後期1年次に予備論文を提出し、それに合格する必要があります。また、演習科目は2年次前期に研究演習ⅢとⅤ、2年次後期に研究演習ⅣとⅥをそれぞれ同時履修する必要があります（履修申請期間内に教務担当窓口で申請すること）。

☆博士論文提出までの流れ〈日程〉

		a 標準的な課程博士		b 在籍可能年次内の課程博士	c 満期退学後2年以内の課程博士	e 2年間で早期修了
1	中間報告申請	2年次 9月末日		学位取得予定 前年度 9月末日		指導教員と相談の上、1年次9月末日までに申請
2	中間報告会	2年次 11月		学位取得予定 前年度 11月		指導教員と相談の上、1年次11月までに報告
3	予備発表申請	学位取得 予定前年度 1月中旬	学位取得 予定年度 6月中旬	aと同じ	aと同じ	学位取得予定 前年度 1月中旬
4	予備発表／審査	2月～3月	8月～9月	aと同じ	aと同じ	2月～3月
5	予備発表修了判定	2月～3月	8月～9月	aと同じ	aと同じ	2月～3月
6	学位申請	学位取得予定年度 9月末日(※)				
7	博士論文発表会	11月～2月(※)			個別対応	aと同じ
8	博士論文審査	11月～2月(※)			個別対応	aと同じ
9	学位授与	修了(卒業)式 3月25日(※)				

※具体的な申請日については、巻末の「学位申請、発表会申込及び論文提出スケジュール」を確認してください。

※学位申請は、「研究演習Ⅴ」修得後（9月末日以降）も随時受け付けます。ただし、この場合の学位授与日は3月の大学全体の修了式日とは限りません。学位審査（申請からおおよそ6か月程を要します）が終了したのちに授与となります。次学期授業料が発生する可能性もありますので、申請時期に留意ください。

(1) 研究計画書の提出

都市社会文化研究科の学生（博士前期課程・博士後期課程全員）は、毎年度初めに研究計画書を以下のとおり提出してください。

提出締切：令和6年4月26日（金）

提出先：教育推進課教務担当

【作成要領】

I 冒頭に、研究計画書と記し、学年、学籍番号、氏名、研究題目、日付、主指導教員名、副指導教員名を記載する。

II 本文に以下の項目を設ける。

(1)研究テーマの概要 (2)これまでの研究経過 (3)これまでの研究成果（卒業論文、修士論文、学会誌掲載論文、著書、学会発表等）(4)今年度の研究計画 (5)学会発表、学会誌投稿等の予定

III A4用紙（原則として40字×40行）で作成し、分量は、博士後期課程は2～3ページ（博士前期課程は1～2ページ）を目安とする。

(2) 中間報告、予備発表審査に必要な提出物

1	中間報告申請	①中間報告概要(A4判3頁程度) ※各3部
2	予備発表申請	①博士論文草稿(論文の2/3程度の完成度) ②博士論文進捗状況報告書(A4判4～5頁程度) ※各3部
提出先		教育推進課教務担当 ※予備発表/中間報告申請書(本学所定様式1部)を添付すること

(3) 学位申請に必要な提出物

提出票(所定様式)	1部
学位申請書(所定様式)	1部
学位論文(A4判左とじ:和文あるいは英文)	部数は別途掲示
論文内容要旨(様式1号5,000字程度)	部数は別途掲示
論文目録(様式2号)	部数は別途掲示
履歴書(写真添付)	部数は別途掲示
修了見込証明書	原本1部
研究倫理教育eラーニング「APRIN eラーニングプログラム(eAPRIN)」修了証	原本1部
論文提出チェック票	1部

(4) 博士論文の内容となる公表学術論文の要件及び博士論文の作成要領

学位論文の内容は、少なくとも、学術論文1編が審査委員制度が設けられている学術雑誌に、学位申請者の単著または第一著者として発表されているか、発表が決定されていることが必要です。*ただし、必要と認められるときは研究科教授会の議を経て審査委員制度のない学術雑誌に代えることができます。なお、学術雑誌の性格上、第一著者とならない場合(氏名をアルファベット順に並べる場合など)、研究科教授会にその旨を報告し、第一著者でなくてもよいという承認を必要とします。

*公表学術論文として要件を満たしているか不明な場合は事前に指導教員に相談してください。

作成規定	注意事項
- 日本語(横書)の場合: A4判縦方向 縦36行・横40字程度 - 日本語(縦書)の場合: A4判横方向 縦40字・横30行程度 - 欧文(横書)の場合: A4判縦方向 縦36行・横66字	①使用言語については、事前に主指導教員に相談すること。 ②手書きの場合、A4判(縦方向)の400字詰め原稿用紙を用い、明解な楷書で記載すること。 ③日本語縦書きの場合、B5判(縦方向、縦40字・横20行)でもよい。

5 授業科目表 博士後期課程 都市社会文化専攻

II

	授業科目の名称	履修年次	期間	単位数			担当教員	備考
				必修	選択	自由		
	多分野交流演習	1	集中(前)	2			上村 雄彦	2 単位
攻 究 科 目	人間科学論攻究 1	1・2・3	前		2		休講	6 単位
	人間科学論攻究 2	1・2・3			2		休講	
	人間科学論攻究 3	1・2・3			2		山田 剛史	
	人間科学論攻究 4	1・2・3	後		2		休講	
	人間科学論攻究 5	1・2・3			2		佐藤 響子	
	人間科学論攻究 6	1・2・3			2		有馬 斉	
	人間科学論攻究 7 ※ ¹	1・2・3	前		2		土屋 慶子	
	人間科学論攻究 8 ※ ²	1・2・3	後		2		中谷 崇	
	地域社会文化論攻究 1	1・2・3	後		2		庄司 達也	
	地域社会文化論攻究 2	1・2・3	後		2		休講	
	地域社会文化論攻究 3	1・2・3			2		乙坂 智子	
	地域社会文化論攻究 4	1・2・3			2		柿崎 一郎	
	地域社会文化論攻究 5	1・2・3	後		2		山根 徹也	
	地域社会文化論攻究 6	1・2・3	後		2		角田 隆一	
	地域社会文化論攻究 7 ※ ²	1・2・3	前		2		山崎 和美	
	地域社会文化論攻究 8 ※ ²	1・2・3	後		2		松本 郁代	
	地域社会文化論攻究 9 ※ ³	1・2・3	後		2		渡會 知子	
	都市社会論攻究 1	1・2・3	前		2		三輪 律江	
	都市社会論攻究 2	1・2・3	前		2		影山摩子弥	
	都市社会論攻究 3	1・2・3	後		2		休講	
	都市社会論攻究 4	1・2・3			2		青 正澄	
	都市社会論攻究 5	1・2・3			2		休講	
	都市社会論攻究 6	1・2・3	前		2		休講	
	都市社会論攻究 7 ※ ¹	1・2・3			2		有馬 貴之	
	都市社会論攻究 8 ※ ¹	1・2・3			2		大島 誠	
	都市科学論攻究 1	1・2・3	後(前)		2		中西 正彦	
	都市科学論攻究 2	1・2・3	後		2		石川 永子	
	都市科学論攻究 3	1・2・3	後		2		鈴木 伸治	
	都市科学論攻究 4	1・2・3	前		2		休講	
	都市科学論攻究 5	1・2・3			2		後藤 寛	
	都市科学論攻究 6	1・2・3			2		齊藤 広子	
	国際社会論攻究 1	1・2・3	前		2		上村 雄彦	
	国際社会論攻究 2	1・2・3	前		2		吉田 栄一	
	国際社会論攻究 3	1・2・3	前		2		滝田 祥子	
	国際社会論攻究 4	1・2・3	後		2		小野寺 淳	
	国際社会論攻究 5	1・2・3	後		2		坪谷美欧子	
	国際社会論攻究 6	1・2・3			2		休講	
	国際社会論攻究 7	1・2・3			2		休講	
	インターンシップ	1・2・3	集中		2		研究科長	

	授業科目の名称	履修年次	期間	単位数			担当教員	備考
				必修	選択	自由		
演 習 科 目	研究演習Ⅰ	1	前・後	2			有馬 齊	12単位
	研究演習Ⅱ	1	前・後	2			上村 雄彦	
	研究演習Ⅲ	2	前・後	2			大島 誠	
	研究演習Ⅳ	2	前・後	2			乙坂 智子	
	研究演習Ⅴ	3	前・後	2			小野寺 淳	
	研究演習Ⅵ	3	前・後	2			柿崎 一郎	
	※「研究演習Ⅰ～Ⅵ」については、右記の指導教員全てが対象となります。						影山 摩子弥	
							後藤 寛	
							齊藤 広子	
							佐藤 響子	
							庄司 達也	
							鈴木 伸治	
							滝田 祥子	
							坪谷美欧子	
							中西 正彦	
							松本 郁代	
							三輪 律江	
							山田 剛史	
							山根 徹也	
							吉田 栄一	
	博士論文	3	集中	0			主指導教員	
自 由 科 目	大学院・キャリア形成実習 (横浜の産業と企業理解) ^{※4}	1・2・3	集中(前)			1	キャリア支援センター長 ・河瀬恵子	
	大学院・日本語科目 ^{※4} ※「Ⅶ 大学院日本語科目」 を確認							

※1 平成29年度以降入学者のみ履修可能です。

※2 平成31年度以降入学者のみ履修可能です。

※3 令和3年度以降入学者のみ履修可能です。

※4 留学生・帰国生のみ履修可能です。

6 担当専任教員の研究分野と課題 博士後期課程

II

氏 名	研 究 分 野	研 究 課 題
青 正澄	環境学	地域環境管理・環境政策および環境協力の取組
有馬 貴之	観光地理学、観光教育、観光政策論	都市観光地の発展過程、観光空間における観光客の移動・行動、自然観光地における適正収容力、インバウンド観光、効果的な観光教育方法論、GISを用いた観光の空間分析など
有馬 齊	倫理学	善悪の基準にかんする道德哲学の理論と、生命倫理など応用倫理の課題を扱う
石川 永子	防災まちづくり、被災者の生活再建と復興	事前復興まちづくり計画・防災・復興まちづくりに関する土地利用規制と居住者のくらしの変容に関する研究、防災・復興における参加のインクルーシブデザイン、木造密集市街地におけるエリアマネジメントに関する研究
板垣 明美	文化人類学、癒しの文化、身体論	マレーシアとベトナムの民間医療に関する文化人類学的研究、心身状態についてのコミュニケーションのとりかた、「癒しの文化領域」を通して他者の苦しみを理解し、それに対処すること、治療技法、舞踏、音楽の演奏、生業のための技術など身体・言語統合として存在する文化の創造と伝承、身体的知性と身体技法
上村 雄彦	グローバル政治論、グローバル公共政策論、グローバル・ガバナンス論	地球規模問題を解決し、持続可能なグローバル福祉社会を構築するために必要な政策とガバナンスに関する研究
浮田 徹嗣	臨床心理学、精神分析学、精神保健学	精神分析的な心理療法の治療構造、社会における精神保健の問題を心理学の視点から検討すること
大島 誠	都市財政論、公共経営論、都市政策論	①PFI方式に関する研究、②公共経営と民営化に関する研究、③地域環境政策およびエネルギー政策に関する研究
乙坂 智子	中国前近代政治史	中国前近代(元・明期)の対外政策、とくにチベットとの関係について
小野寺 淳	都市地理学、経済地理学、中国研究	中国における都市形成のメカニズム、地域開発の思想と方法
柿崎 一郎	タイ地域研究、インドシナ交通論	戦後期タイの交通政策、メコン川流域経済圏の交通開発、バンコクの都市交通史
影山摩子弥	経済システム論、地域CSR論	①障がい者雇用、②企業・NPO・行政のネットワーク型連携による地域システム形成
後藤 寛	地理情報システム(GIS)、都市計画・都市解析	GISを用いたマイクロエリアマーケティング手法の開発、都市内部の空間構造・商業機能の分布の解明とモデル化
齊藤 広子	不動産学、住環境マネジメント学、マンション管理学、すまいとまちのマネジメント	マンションの管理・建替え、住宅地の開発・企画・デザイン・管理・再生手法、消費者・生活者のための不動産取引のあり方、コミュニティデザインの実践的研究、空き家を通じたまちづくり
佐藤 響子	社会言語学	談話分析、言語とジェンダー
庄司 達也	日本近代文学	芥川龍之介の〈人〉と〈文学〉、出版メディアと作家・読者の関係、近代作家に於ける西洋音楽の受容などの研究。
鈴木 伸治	都市デザイン	我が国における景観概念の発展過程に関する研究、横浜及び新都市における都市デザインに関する研究、歴史的環境保全手法に関する研究

氏 名	研 究 分 野	研 究 課 題
滝田 祥子	社会学	集合的記憶、日系アメリカ人コミュニティに関する研究、在日外国人(とくに在日コリアン)、多文化共生に関する研究
土屋 慶子	応用言語学	ヘルスコミュニケーション、異文化コミュニケーション。共同行為のマルチモーダル分析
角田 隆一	社会学	メディア文化、ポピュラー文化、映像文化を事例とした近現代社会論。近年は「写真の社会学プロジェクト」の理論構築と実践も進行中
坪谷美欧子	社会学	地域社会とマイノリティ、在日中国人のアイデンティティ、外国人の子どもの教育
中谷 崇	現代アメリカ文学(小説 特に William FaulknerとJohn Updike)	近代原理との対峙の試みとしてのモダニズム「文学」という「制度」の政治性、編集文献学
中西 正彦	都市計画、住宅政策	良好な都市空間・住環境の計画策定技術と実現手段、都市開発・建築コントロールのあり方、都心部の居住空間の性能確保、郊外住宅地の維持・再生方策
松本 郁代	日本文化史	中世日本の歴史叙述から人間の文化構造や歴史観、文化表象をとらえる研究。近年は絵画や言説から神仏の権能と表象がもつ社会的公共性と物語的機能の分析を行っている
三輪 律江	建築・都市計画、参加型まちづくり、こどものための都市環境、環境心理学	参加型まちづくりとまちづくり教育の実践に関する研究、「居場所」としての都市空間の在り方に関する研究、コミュニティ活性化に向けた施設空間整備の実践研究、子どもの地域への「なじみ」形成に関する実践研究、魅力的な地域資源となるための公園整備に関する研究
山崎 和美	イラン近現代史(女性史、教育史) イスラーム地域研究(中東、北アフリカ、カフカス、中央アジア、バルカン半島)	イランの教育や女性・家族・子どもに関わる近現代史、女子近代教育の発展と女性運動、近代教育と欧米の宗教・文化団体、近代化とイスラームに基づく伝統的社会規範の相克などについての研究
山田 剛史	教育心理学、心理統計学、教育評価・測定	一事例実験の統計分析、項目反応理論の教育研究への応用、文系学生のための心理統計教育、反転授業などアクティブラーニングの評価
山根 徹也	西洋史	社会史。民衆文化、民衆運動、民衆に対するエリート層による社会統制など(特にドイツについて)
吉田 栄一	開発地理学、アフリカ研究、都市研究、開発援助研究	発展途上国の大都市や農村の開発課題と地域開発行政の関わりについて。対アフリカ援助研究、開発援助の思想と歴史
渡會 知子	社会学	社会理論、社会学史、社会システム理論、包摂と排除、ドイツ地方自治体における移民支援

7 履修モデル

現代都市社会の貧困問題分野の専門研究者を目指す人

授業科目	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	単位数
多分野交流演習	2						2
都市社会論攻究 1	2						2
都市社会論攻究 2		2					2
都市社会論攻究 3			2				2
研究演習 I	2						2
研究演習 II		2					2
研究演習 III			2				2
研究演習 IV				2			2
研究演習 V					2		2
研究演習 VI						2	2
合計	6	4	4	2	2	2	20

III

国際マネジメント研究科
博士前期課程・後期課程

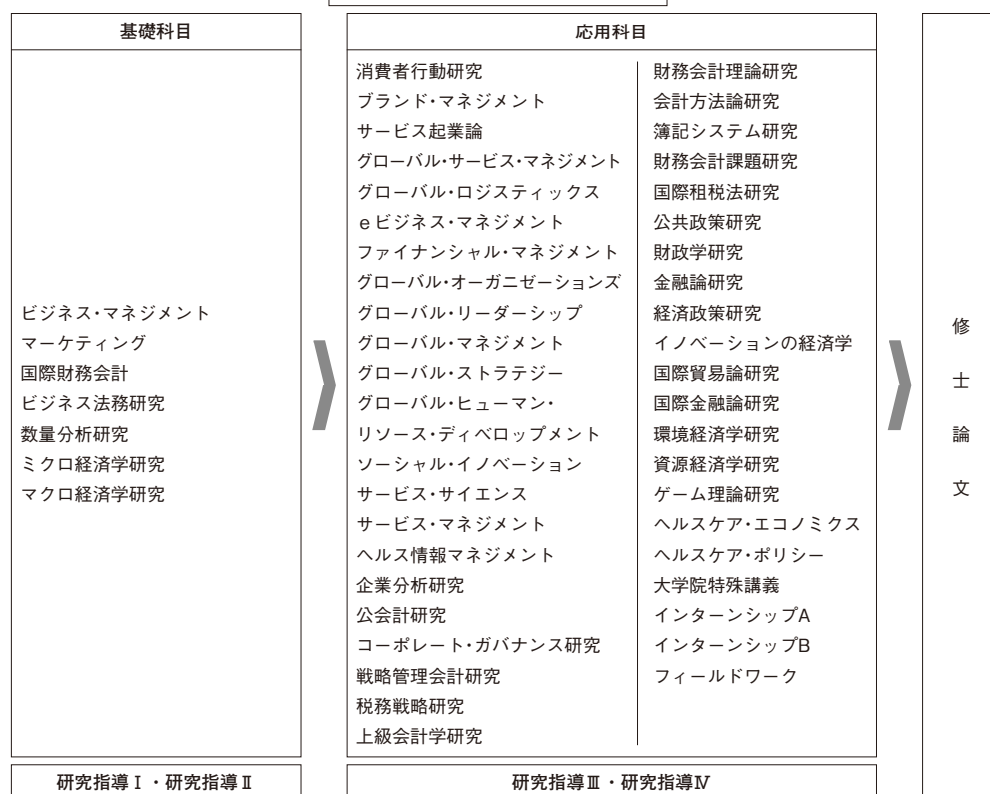
博士前期課程

1 教育研究の目的

博士前期課程においては、国際ルールに精通してこれによって市場環境や制度の変化に対応していくスキルを身につけている人材、グローバル化の中で、企業全体のクオリティを高めていける人材、および海外地域の産業集積を担っていける人材の養成を目的としています。具体的には、企業の内部から競争力の強化や海外展開を支援するCOO（最高執行責任者）、CFO（最高財務責任者）およびCIO（最高情報責任者）や国際財務部門または海外展開部門のスタッフ、またこうしたサポートを外部から行う組織およびコンサルティング会社のスタッフのリーダーとなる人材です。

また、令和3年度から、ソーシャル・イノベーションMBAプログラム（SIMBA）を開設いたしました。このSIMBAプログラムの目的は、従来のサービス・サイエンス研究プログラムを発展させ、特に経営管理手法を用いて社会課題解決をめざす社会人を対象として、経営学・経済学の知識やスキルの習得を目指すことにあります。横浜市にも社会課題が多く表出する中、社会課題の領域には、一般的なビジネス課題とともに、ヘルス領域、社会福祉領域、その他の公共サービス領域など多数が考えられます。こうした課題解決のスキルを習得し国際社会で活躍する人材を育成します。具体的には、ソーシャル・イノベーション研究プログラムが推奨する基礎科目と当該プログラム履修対象科目を一定単位取得した上で、ソーシャル・イノベーションに関わる研究課題を設定し、研究指導を経て、その成果を修士論文として結実させた場合、ソーシャル・イノベーション研究プログラム修了として認定されます。

博士前期課程のカリキュラム体系



こうした教育課程の教育目標を達成するため、博士前期課程では、履修科目群を基礎科目および応用科目の2層から構成することとし、段階的に専門知識を身につけていける体制を整えるとともに、2年間の研究指導を通じて、問題発見能力、資料収集能力、外国語能力、問題解決能力およびプレゼンテーション能力の向上を図っていきます。

2 履修方法

(1) 修了要件

授業科目表記載の学科目から30単位以上の取得、及び修士論文

研究指導……………	8単位以上
基礎科目……………	6単位以上
応用科目……………	16単位以上
※サービス・サイエンス研究プログラム修了(SS)希望者は、応用科目の中からサービス・サイエンス対象科目を8単位以上取得しなくてはなりません。	
※ソーシャル・イノベーション研究プログラム(SI)修了希望者は応用科目の中からソーシャル・イノベーション対象科目を8単位以上取得しなければなりません。	
※YCU EconMastersプログラム修了(EM)希望者は、基礎科目の中からEM対象科目を6単位以上、応用科目の中からEM対象科目を8単位以上取得しなくてはなりません。	

(2) 研究指導

[1年次]

学位論文の指導は主として研究指導教員が行います。また、学科目の履修にあたっては、予め研究指導教員の指示を受けなければなりません。研究指導教員を決めるにあたっては、各自、履修申請期間中に研究指導を希望する教員に相談してください。指導を受ける教員は入学試験時に希望した研究指導教員と異なってもかまいません。

希望する研究指導教員については、「6 研究指導担当教員の研究分野」を参考にしてください。

[2年次]

原則として1年次に志望した研究指導教員のもとで、修士論文の作成にあたります。研究指導を受ける指導教員によって授与される学位が異なりますので、注意をしてください。

高い能力を示した学生に対しては、研究科が1年次・2年次の研究指導の同時履修を認める場合があります。

(3) 基礎科目

学部教育から大学院教育への移行をスムーズに行うために、基礎科目として、ビジネス・マネジメント、マーケティング、国際財務会計、ビジネス法務研究、数量分析研究、ミクロ経済学研究およびマクロ経済学研究を基礎科目として開講しています。これらのうちから研究テーマに最も必要となる科目を履修することにより、必ずしも経営学・経済学に特化した教育を受けていない学生にとっても、応用科目の履修が無理なく進められるようになっていきます。自らの研究計画と照らし合わせ、予め研究指導教員の指示を受けた上で、6単位以上を取得しなければなりません。なお、ビジネス・マネジメント、マーケティング、ミクロ経済学研究および数量分析研究は、サービス・サイエンス研究プログラム(SS)の履修推奨科目となっています。また、ビジネス・マネジメント、マーケティング、ビジネス法務研究および数量分析研究は、ソーシャル・イノベーション研究プログラム(SI)の履修推奨科目となっています。ミクロ経済学研究、マクロ経済学研究、数量分析研究は、YCU EconMastersプログラム(EM)の履修推奨科目となっています。

(4) 応用科目

応用科目では、キャリアデザインおよび研究テーマに関係の深い科目を配置し、研究の深化を支援する体制を整えています。研究の進捗状況に応じて、予め研究指導教員の指示を受けた上で、16単位以上を取得しなければなりません。なお、サービス・サイエンス研究プログラム(SS)修了希望者は、応用科目の中からサービス・サイエンス対象科目を8単位以上取得する必要があります。ソーシャル・イノベーション研究プログラム(SI)修了希望者は、応用科目の中からソーシャル・イノベーション対象科目を8単位以上取得する必要があります。

① 研究指導教員以外が担当する研究指導科目の履修

研究指導教員以外の教員が担当する研究指導の履修を希望する場合は、研究指導教員と履修を希望する研究指導を担当する教員の承認を得た上で、4 単位を上限として研究指導教員以外の教員が担当する研究指導科目を履修することができます。取得した単位は、修了に必要な応用科目の単位として認定されます。

② 博士後期課程の専門応用科目の履修

研究指導教員と履修を希望する科目の担当教員の承認があれば、国際マネジメント研究科博士後期課程の専門応用科目を履修することもできます。取得した単位は、修了に必要な応用科目の単位として認定されます。

③ 所属の研究科以外の学科目の履修

所属の研究科以外の研究科の学科目については、研究指導教員の許可を得て履修することができます。他研究科の学科目のうちで履修できるのは、国際マネジメント研究科に関連の深い学科目として研究科教授会が指定する学科目です。取得した単位は、修了に必要な応用科目（大学院特殊講義）の単位として認定されます。

④ 履修証明プログラムの単位認定

国際マネジメント研究科博士前期課程（本学国際総合科学部・国際商学部卒業生で大学院科目早期履修者・研究生を含む）では、研究科が指定した履修証明プログラムでの取得単位が、研究科が指定した科目に限り、合計 8 単位まで、修了するための単位（応用科目（大学院特殊講義））として認定されます。

＜研究科が指定した履修証明プログラム＞

・DSリカレントプログラム

データサイエンス研究科DSリカレントプログラムで提供される科目（統計コース・8 科目、機械学習コース・8 科目、各 2 単位）を国際マネジメント研究科が指定した科目とし、他の履修証明プログラムの科目も含め、合計 8 単位まで、修了するための単位（応用科目（大学院特殊講義））として認定する。

・YCU 医療経営・政策プログラム

国際マネジメント研究科と合併開講されている科目のうち、以下の 8 科目が対象です。

＜対象科目＞

ビジネス・マネジメント^(※)、ソーシャル・イノベーション、大学院特殊講義f,g（医療イノベーション経営）、大学院特殊講義n,o（医療経営分析）、サービス・サイエンス、サービス・マネジメント、ヘルスケア・エコノミクス、ヘルスケア・ポリシー

（※）ビジネス・マネジメントは基礎科目として単位認定します。

⑤ 単位互換科目の履修

国際マネジメント研究科では、横浜国立大学国際社会学府と単位互換制度を結んでおり、同研究科の経済学専攻及び経営学専攻で専任教員が開講する科目を履修することができます。履修を希望する場合は、研究指導教員の許可を得た上で、専用の履修申請手続を教育推進課で行う必要があります。取得した単位は、修了に必要な応用科目の単位として認定されます。

⑥ 大学院産学連携教育プログラムの履修

国際マネジメント研究科では、経営の現場に生じている最先端の諸課題を研究テーマのフレームに盛り込ませることを可能にし、早くから現場における問題発見能力と経営センスを身につけた人材を育成するため、産学連携の一環として地元ビジネスリーダーを対象とした教育プログラムを企業と共催しています。研究指導教員の許可があれば、こうした教育プログラムを履修することもできます。取得した単位は、修了に必要な応用科目（大学院特殊講義）の単位として認定されます。

⑦ インターンシップ、フィールドワークの単位認定

国際マネジメント研究科では、実務を重視する立場から「インターンシップ」「フィールドワーク」の単位を認定しています。単位認定を希望する場合には、以下の手続きを経て研究科教授会の承認を得る必要があります。

インターンシップ：企業、非営利団体、官公庁へのインターンシップ

フィールドワーク：海外市場調査または海外制度調査等の活動

～インターンシップの単位認定の流れ～

	手続き	内 容	提出先
実施前	1	キャリア支援センターへの届け出	キャリア支援センター
実施	2	インターンシップ実施(※1)	—
実施後	3	報告書の提出	キャリア支援センター
	4	履修申請(※2)	教育推進課教務担当
	5	審査	—

(※1) 5日間以上かつ30時間以上でインターンシップA(1単位)又は(インターンシップAの単位を取得済の場合には)インターンシップB(1単位)の単位認定を申請することができます。(10日間以上かつ60時間以上のインターンシップについては、インターンシップA・B(合計2単位)を合わせて申請することも可能です。)

(※2) 前期に実施したインターンシップは当該年度の後期の履修申請期間、後期に実施したインターンシップは翌年度前期の履修申請期間に申請してください。(後期に実施したインターンシップは翌年度の単位認定となりますので、ご注意ください。)

～フィールドワークの単位認定の流れ～

	手続き	内 容	提出先
実施	1	フィールドワーク実施	—
実施後	2	報告書の提出	教育推進課教務担当
	3	履修申請(※1)	教育推進課教務担当
	4	審査	—

(※1) 5日間以上かつ30時間以上でフィールドワークの単位認定を申請することができます。

(※2) 前期に実施したフィールドワークは当該年度の後期の履修申請期間、後期に実施したフィールドワークは翌年度前期の履修申請期間に申請してください。(後期に実施したフィールドワークは翌年度の単位認定となりますので、ご注意ください。)

(5) プログラムについて

サービス・サイエンス研究プログラム、ソーシャル・イノベーション研究プログラム、YCU EconMastersプログラムの修了に必要な要件（必要科目・単位数の修得等）を満たしましたら、指定の期間に修了申請を行ってください。

修了申請期間（予定）：年2回（9月～10月頃、2月～3月頃）

※申請期間、申請方法等の詳細については、別途YCU-Boardに掲示しますので、各自確認してください。

※修了申請後、修了要件を満たしていることが確認された学生に対しては、大学からプログラムごとに修了証が発行されます。

※サービス・サイエンス研究プログラム、ソーシャル・イノベーション研究プログラムは、学校教育法に基づく履修証明プログラムとは異なる制度ですので、ご注意ください。

3 学位論文の審査基準および手続き

博士前期課程

<審査基準>

- ① 研究テーマの妥当性：研究科の学位授与方針に照らして、適切なテーマが設定され、研究目的が明確であること。
- ② 研究方法の適切性：研究テーマに関連する先行研究が十分レビューされており、それと関連づけて論旨が展開されていること。研究目的に合致した適切な方法・手法によって研究が進められていること。
- ③ 論述・論旨の妥当性：論文の構成と体裁が整っていること。
- ④ 論文作成能力：論旨の展開が論理的であり、整合的な結論が得られていること。また、文章表現、図表、データ等が、適切に用いられていること。
- ⑤ 新規性：学術的な新規性が認められること。
- ⑥ 学内中間審査：研究成果が複数の研究科専任教員の前で発表され、修士論文執筆が研究科教授会によって認められていること。

<修士論文提出及び学位申請ができる者>

- ① 本学大学院学則に定める修業年限を充足（見込を含む）し、かつ修了に必要な単位を修得（見込を含む）していること。
- ② 中間発表を行っていること。
- ③ 学位の申請について、研究指導教員の承認を得ていること。

<審査体制及び手続き>

- ① 学位申請者は、研究科が指定する期間内に、修士論文及び所定様式を提出する。
- ② 申請者は、研究科主催の公開発表会で内容を発表し、最終試験を受ける。
- ③ 学位審査部会の中に審査委員会を設け、3名以上の教員で構成される審査委員会により審査を行う。
- ④ 学位審査部会は、審査委員会から提出された評価判定により合否判定を行い、研究科長に提出する。研究科長は、研究科教授会の議を経て学位授与に値すると判定したときは、学位論文審査の結果を学長に報告する。

4 学位論文提出までの流れおよび学位申請

修士論文の審査及び最終試験以外の修了要件を満たしている学生は、以下に説明する流れに沿って修士論文を提出しなければなりません。ここでは、その流れに加えて学位の申請、学位論文の保管、修士論文作成要領について説明します。

(1) 修士論文提出までの流れ

各項目については、必ず主研究指導教員の承諾を受けてください。

1	修士論文・研究計画書提出／題目届提出	修了予定年度 4月下旬	博士前期課程2年
2	中間報告書の提出	(報告書及び要旨各3部) 9月下旬	
3	修士論文中間発表会	9月下旬～10月上旬	
4	修士論文提出	1月中旬	
5	学位申請	1月中旬	
6	修士論文発表会	1月下旬～2月上旬	
7	学位授与 [※]	修了(卒業)式 3月25日	

※ 前期末(9月21日付)での修了及び学位申請手続きについては、5月頃に掲示で案内します。

(2) 学位の申請

申請する際に、下表に挙げる書類を修士論文提出時に教育推進課(金沢八景キャンパスは教務担当)に提出してください。詳細は別途掲示します。

提出票(本学所定)	1通
学位申請書(本学所定)	1通
学位申請論文(修士論文)	部数は別途掲示
論文要旨(日本語)	部数は別途掲示
履歴書	1通
修了見込証明書	1通
(学術情報センター提出用)学位論文公開・複写許諾書	1通
研究倫理教育eラーニング「APRIN eラーニングプログラム(eAPRIN)」修了証	1通

(3) 学位論文の保管

学位申請に合格した学生の修士論文は、本学学術情報センターで保管・公開します。保管・公開用論文の製本は、教育推進課で一括して行います。

(4) 修士論文作成要領

修士論文および修士論文要旨の作成要領を下表に示します。

	作成規定	注 意
修士論文	①用紙：A4判縦方向 ②使用言語：日本語または英語（パソコン使用） ③ページ設定 （日本語）40字・40行、10.5ポイント マージン：上下各30mm、左右各25mm ページ番号：下部中央 （英語）70字・40行、12ポイント マージン：上下各30mm、左右各25mm ページ番号：下部中央	①使用言語については、事前に主研究指導教員と相談すること。
修士論文 要 旨	修士論文と同じ。	①表紙をつけずに、冒頭に論文題目、所属、学籍番号、氏名を記入。 ②字数は4,000字程度。

* 中間報告書の作成においても上記修士論文の作成要領に準じてください。

5 授業科目表 博士前期課程 国際マネジメント専攻

科目 区分	授業科目の名称	SS	SI	EM	履修 年次	期間	単位数		担当教員	備考
		(注1)	(注2)	(注3)			必修	選択		
基礎 科目	ビジネス・マネジメント	SS ²	SI ²		1	前		2	伊藤 智明	英語での授業
	ビジネス・マネジメント	SS ²	SI ²		1			2	今年度休講	
	ビジネス・マネジメント	SS ²	SI ²		1	集中(前)		2	原 広司	
	マーケティング	SS ²	SI ²		1	前		2	柴田 典子	
	マーケティング	SS ²	SI ²		1	集中(前)		2	松田 憲(非常勤)	
	Japanese Business Management and Marketing	SS ²			1			2	今年度休講	
	国際財務会計				1	前		2	張 櫻馨	英語での授業
	ビジネス法務研究		SI ²		1	前		2	大澤 正俊	
	数量分析研究	SS ²	SI ²	EM	1	集中(前)		2	加藤 弘隆	
	数量分析研究	SS ²	SI ²	EM	1	後		2	坂口 利裕	
	数量分析研究	SS ²	SI ²	EM	1	前		2	白石小百合	
	ミクロ経済学研究	SS ²		EM	1	前		2	茨木 瞬(非常勤)	
	ミクロ経済学研究	SS ²		EM	1			2	今年度休講	
	ミクロ経済学研究	SS ²		EM	1			2	今年度休講	
	マクロ経済学研究			EM	1	前		2	相馬 尚人(非常勤)	
応用 科目	ヘルスケア・マネジメント	SS ¹	SI ¹		1・2			2	今年度休講	英語での授業
	リスク・マネジメント	SS ¹	SI ¹		1・2			2	今年度休講	
	消費者行動研究	SS ¹			1・2			2	今年度休講	
	ブランド・マネジメント	SS ¹			1・2			2	今年度休講	
	サービス起業論	SS ¹	SI ¹		1・2	後		2	藤井 享(非常勤)	
	グローバル・サービス・マネジメント	SS ¹	SI ¹		1・2			2	今年度休講	
	グローバル・ロジスティックス	SS ¹			1・2			2	今年度休講	
	eビジネス・マネジメント	SS ¹	SI ¹		1・2			2	今年度休講	
	ファイナンシャル・マネジメント	SS ¹			1・2			2	今年度休講	
	グローバル・オーガニゼーションズ	SS ¹	SI ¹		1・2	前		2	吉永 崇史	
	グローバル・リーダーシップ	SS ¹			1・2			2	今年度休講	
	グローバル・マネジメント		SI ¹		1・2			2	今年度休講	
	グローバル・ストラテジー				1・2	後		2	高木 俊雄	
	グローバル・ヒューマンリソース・ディベロップメント		SI ¹		1・2			2	今年度休講	
	ソーシャル・イノベーション		SI ¹		1・2	集中(前)		2	原 広司	
	サービス・サイエンス	SS ¹	SI ¹		1・2			2	今年度休講	
	サービス・マネジメント(※1)	SS ¹	SI ¹		1・2	前		2	根本裕太郎	
	ヘルス情報マネジメント	SS ¹	SI ¹		1・2	集中(後)		2	中部 貴央	
	企業分析研究	SS ¹			1・2			2	今年度休講	
	公会計研究	SS ¹	SI ¹		1・2	前		2	若林 利明(非常勤)	
	コーポレート・ガバナンス研究	SS ¹			1・2	前		2	長畑 周史	
	戦略管理会計研究	SS ¹	SI ¹		1・2	後		2	藤崎 晴彦	
	税務戦略研究				1・2			2	今年度休講	
	上級会計学研究				1・2	前		2	高須 悠介(非常勤)	
	財務会計理論研究				1・2			2	今年度休講	
	会計方法論研究				1・2	前		2	前山 政之(非常勤)	
	簿記システム研究				1・2	後		2	三浦 敬	
	財務会計課題研究				1・2	後		2	高須 悠介(非常勤)	
	国際租税法研究				1・2	前		2	高橋 隆幸	
	公共政策研究			EM	1・2	後		2	和田淳一郎	

(※1) 令和4年度以前の入学者で「グローバル・サービス・マネジメント」を修得済みの学生は履修できません。

科目 区分	授業科目の名称	SS (注1)	SI (注2)	EM (注3)	履修 年次	期間	単位数 必修 選択	担当教員	備考
応用 科目	財政学研究	SS ¹		EM	1・2	前	2	鞠 重鎬	
	金融論研究	SS ¹		EM	1・2	前	2	随 清遠	
	経済政策研究	SS ¹		EM	1・2	前	2	大塚 章弘	
	イノベーションの経済学	SS ¹			1・2	前	2	岩佐 朋子	
	国際貿易論研究			EM	1・2	後	2	太田 壘(非常勤)	
	国際金融論研究			EM	1・2	前	2	永野 護(非常勤)	
	環境経済学研究			EM	1・2	後	2	大西 暁生(兼任)	
	資源経済学研究			EM	1・2		2	今年度休講	
	ゲーム理論研究			EM	1・2	前	2	中村 祐太	
	ヘルスケア・エコノミクス		SI ¹	EM	1・2		2	今年度休講	
	ヘルスケア・ポリシー		SI ¹	EM	1・2	集中(後)	2	加藤 弘陸	
	アジア社会論				1・2		2	今年度休講	
	大学院特殊講義 a,b(よこはま経営塾)				1・2	集中(前)	1	吉永 崇史	a,b合併
	大学院特殊講義 c(インターンシップ・フィードバック講座)				1・2		1	今年度休講	
	大学院特殊講義 d,e(経済倫理研究)			EM	1・2		1	今年度休講	d,e合併 令和4年度以前入学者対象
	大学院特殊講義 d,e(経済学原理Ⅲ)			EM	1・2		1	今年度休講	d,e合併 令和5年度以降入学者対象
	大学院特殊講義 f,g(医療イノベーション経営)		SI ¹		1・2	集中(前)	1	田中 利樹(非常勤)	f,g合併
	大学院特殊講義 h,i(社会科学方法論)		SI ¹		1・2	集中(後)	1	根本裕太郎	h,i合併
	大学院特殊講義 j,k(Economic Analysis I)			EM	1・2	後	1	Craig Parsons(非常勤)	J,k合併/英語での授業
	大学院特殊講義 l,m(Economic Analysis II)			EM	1・2	後	1	Craig Parsons(非常勤)	l,m合併/英語での授業
	大学院特殊講義 n,o(医療経営分析)		SI ¹		1・2		1	今年度休講	n,o合併
	大学院特殊講義 p,q(経済学原理)			EM	1・2	後	1	虞 朝聞(非常勤)	p,q合併/学部開放
	大学院特殊講義 r,s(経済学原理Ⅱ)			EM	1・2		1	今年度休講	r,s合併
	大学院特殊講義 t,u(Sustainable Urban Development)				1・2	集中(前)	1	GCIセンター長	t,u合併/英語での授業
	大学院特殊講義 v,w(調査方法論)		SI ¹	EM	1・2	前	1	土屋 隆裕(兼任)	v,w合併
	大学院特殊講義 x,y(Economic Analysis Ⅲ)			EM	1・2	後	1	上田 雅夫(兼任)	x,y合併
	インターンシップA				1・2	集中	1	白石小百合	
	インターンシップB				1・2	集中	1	白石小百合	
	フィールドワーク				1・2	集中	1	白石小百合	
研究 指導 科目	研究指導Ⅰ				1	前・後	2	岩佐 朋子	
	研究指導Ⅱ				1	前・後	2	大澤 正俊	
	研究指導Ⅲ				2	前・後	2	大塚 章弘	
	研究指導Ⅳ				2	前・後	2	加藤 弘隆	
								鞠 重鎬	
								坂口 利裕	
								白石小百合	
								柴田 典子	
								随 清遠	
								高木 俊雄	
								高橋 隆幸	
								張 櫻馨	
								中條 祐介	
								中園 善行	
								長畑 周史	
								中村 祐太	

科目 区分	授業科目の名称	SS	SI	EM	履修 年次	期間	単位数		担当教員	備考
		(注1)	(注2)	(注3)			必修	選択		
研究指導科目									根本裕太郎 原 広司 藤崎 晴彦 三浦 敬 吉永 崇史 和田淳一郎	
自由科目	大学院・キャリア形成実習 (横浜の産業と企業理解) [*] 大学院・日本語科目 [*] ※「Ⅶ 大学院日本語科目」を確認				1・2	集中(前)		1	キャリア支援センター長 ・河瀬恵子	

注1 SS²：サービス・サイエンス研究プログラム履修推奨科目→基礎科目

SS¹：サービス・サイエンス研究プログラム履修対象科目→応用科目

注2 SI²：ソーシャル・イノベーション研究プログラム履修推奨科目→基礎科目

SI¹：ソーシャル・イノベーション研究プログラム履修対象科目→応用科目

注3 EM：YCU EconMasters研究プログラム修了要件対象科目

※留学生・帰国生のみ履修可能です。

6 研究指導担当教員の研究分野

博士前期課程

教 員 名	教育研究内容	(授与学位)	教 員 名	教育研究内容	(授与学位)
岩佐 朋子	イノベーション	(経営学)	大塚 章弘	都市経済学	(経済学)
大澤 正俊	ビジネス法務	(経営学)	加藤 弘隆	医療経済学	(経済学)
柴田 典子	マーケティング	(経営学)	鞠 重鎬	財政学	(経済学)
高木 俊雄	経営戦略論	(経営学)	坂口 利裕	数量分析	(経済学)
高橋 隆幸	国際租税法	(経営学)	白石小百合	数量分析	(経済学)
張 櫻馨	国際財務会計	(経営学)	随 清遠	金融論	(経済学)
中條 祐介	企業分析	(経営学)	中園 善行	マクロ経済学	(経済学)
長畑 周史	コーポレート・ガバナンス	(経営学)	中村 祐太	ゲーム理論	(経済学)
根本裕太郎	サービス・サイエンス	(経営学)	和田淳一郎	公共政策	(経済学)
原 広司	ソーシャル・イノベーション	(経営学)			
藤崎 晴彦	戦略管理会計	(経営学)			
三浦 敬	簿記システム	(経営学)			
吉永 崇史	グローバル・オーガニゼーションズ	(経営学)			

7 履修モデル

以下に典型的な履修モデルを示しておきます。(1)はサービス・サイエンス研究プログラムを修了する場合、(2)はソーシャル・イノベーション研究プログラムを修了する場合、(3)は両プログラムを履修せずに修了する場合のモデルです。ただし、これらは、履修の一例で、これらを参考にして各自の研究目的にあわせて、研究指導教員と充分相談の上、履修する科目を決めてください。

(1) サービス・サイエンス研究プログラムを修了する場合

【履修例1】 グローバルな視点を持って、情報、流通、製造、ヘルスケア、行政などのサービス分野全般における、専門的な知識とスキルを発揮できる人材の育成

学年	科目区分	授業科目	単位数
1 年次	基礎科目	ビジネス・マネジメント	2
		マーケティング	2
		数量分析研究	2
	応用科目	サービス・サイエンス	2
		ヘルスケア・マネジメント	2
		ヘルス情報マネジメント	2
		グローバル・オーガニゼーションズ	2
		サービス起業論	2
	研究指導I・II		4
2 年次	応用科目	サービス・マネジメント	2
		公会計研究	2
		消費者行動研究	2
	研究指導III・IV		4

修了後の進路：グローバル企業、シンクタンクの研究員、ITコンサルタント

研究テーマの例：製品メンテナンスにおけるサービス設計、コンビニエンスストアの業務プロセス改善

【履修例2】 進出国の企業会計のメカニズム、企業分析の手法と国際会計の知識を駆使して、資金調達と海外事業展開部門に会計サービスを提供できる人材の養成

学年	科目区分	授業科目	単位数
1 年次	基礎科目	国際財務会計	2
		数量分析研究	2
		ビジネス・マネジメント	2
	応用科目	簿記システム研究	2
		会計方法論研究	2
		財務会計理論研究	2
		戦略管理会計研究	2
		サービス・サイエンス	2
	研究指導I・II		4
2 年次	応用科目	サービス・マネジメント	2
		公会計研究	2
		企業分析研究	2
	研究指導III・IV		4

修了後の進路：国際財務部門担当者、財務・会計コンサルタント、アナリスト、CFO

研究テーマの例：M&A実施後における収益性の分析

(2) ソーシャル・イノベーション研究プログラムを修了する場合

【履修例 3】 社会人履修モデル

学年	修了要件	24年度予定時限	科 目 名
1 年 次	基礎科目	集中（土）	ビジネス・マネジメント
		平日（夜）	マーケティング
		集中（土）	数量分析研究
	応用科目	集中（土）	ソーシャル・イノベーション
		集中（土）	大学院特殊講義 f,g（医療イノベーション経営）
		平日（夜）	大学院特殊講義 n,o（医療経営分析）
		集中（土）	ヘルス情報マネジメント
		集中（土）	サービス・マネジメント
		集中（土）	大学院特殊講義 h,i（社会科学方法論）
		平日（夜）	ヘルスケア・ポリシーまたはヘルスケア・エコノミクス
	研究指導Ⅰ・Ⅱ		
2 年 次	応用科目	集中（土）	サービス・サイエンスまたはヘルスケア・エコノミクス
	研究指導Ⅲ・Ⅳ		

修了後の進路：病院・介護施設経営、政策立案者、コンサルタント、非営利組織

研究テーマの例：サービス利用者数予測を踏まえた病院リソースの最適配置

【履修例 4】 院生履修モデル

学年	修了要件	24年度予定時限	科 目 名
1 年 次	基礎科目	平日	ビジネス・マネジメント
		平日	数量分析研究
		平日	マーケティング
	応用科目	集中（土）	ソーシャル・イノベーション
		集中（土）	大学院特殊講義 f,g（医療イノベーション経営）
		平日（夜）	大学院特殊講義 n,o（医療経営分析）
		集中（土）	ヘルス情報マネジメント
		平日	公会計研究
		平日	グローバル・サービス・マネジメント
		平日	グローバル・マネジメント
		平日	グローバル・ヒューマンリソース・ディベロップメント
		平日	グローバル・オーガニゼーションズ
		平日	戦略管理会計研究
		集中（土）	大学院特殊講義 h,i（社会科学方法論）
	研究指導Ⅰ・Ⅱ		
2 年 次	応用科目	集中（土）	サービス・サイエンスまたはヘルスケア・エコノミクス
	研究指導Ⅲ・Ⅳ		

修了後の進路：医療・福祉、国際非営利組織、地方・政府機関

研究テーマの例：わが国におけるメディカル・ツーリズムの確立における課題と「おもてなし医療」の潜在的可能性

(3) 両プログラムを履修せずに修了する場合

【履修例5】 在外子会社(支店)の販売管理、市場調査、社内の情報技術や財務に精通し、在外子会社(支店)の業務を統括して、グローバル・ビジネスを展開できる人材の育成

学年	科目 区分	授業科目	単位数
1 年次	基礎 科目	ビジネス・マネジメント	2
		マーケティング	2
		数量分析研究	2
	応用 科目	グローバル・マネジメント	2
		グローバル・ストラテジー	2
		ファイナンシャル・マネジメント	2
		ヘルス情報マネジメント	2
		グローバル・オーガニゼーションズ	2
	研究指導I・II		4
2 年次	応用 科目	財務会計理論研究	2
		グローバル・ヒューマン・リソース・ディベロップメント	2
		大学院特殊講義	1
		大学院特殊講義	1
	研究指導Ⅲ・Ⅳ		4

修了後の進路: 在外子会社(支店)統括マネージャー、本社在外子会社(支店)管理部門スタッフ、CIO

研究テーマの例: アジアにおける生産拠点の確立から販売拠点確立へむけた課題

【履修例6】 ミクロ経済学、マクロ経済学を基礎に、統計データに基づいた市場分析が行えるアナリスト、費用対効果に基づいた事業運営が行える行政官を育成

学年	科目 区分	授業科目	単位数
1 年次	基礎 科目	ミクロ経済学研究	2
		マクロ経済学研究	2
		数量分析研究	2
	応用 科目	ゲーム理論研究	2
		財政学研究	2
		金融論研究	2
		公共政策研究	2
		大学院特殊講義	2
	研究指導I・II		4
2 年次	応用 科目	経済政策研究	2
		国際貿易論研究	2
		ヘルスケア・エコノミクス	2
	研究指導Ⅲ・Ⅳ		4

修了後の進路: 大学院博士後期課程への進学、シンクタンクの研究員、行政官

研究テーマの例: 非伝統的な金融政策と銀行の収益

博士後期課程

1 教育研究の目的

博士後期課程においては、博士前期課程で身につけた知識を前提に、隣接諸科学の分析手法を徹底的に教育し、多角的な分析能力を備えた研究者の養成を行うことにより、研究機関としての本研究科の知識の継承および発展を行います。こうした知識と分析手法を備えた研究者は全国的に見てもユニークで、本研究科では海外展開企業の現場で生じているこれまで未着手の課題について、斬新な接近法で取り組むことのできる人材の養成を全国に先駆けて行うことを目指しています。

こうした複数領域にまたがる研究課題に果敢に挑戦できる研究者を養成するため、多様な分析手法に関する科目群、グローバルな視点から効率的な企業経営を達成するために必要となる知識を扱う科目群、実践なテーマや喫緊の経営課題を扱う科目群および学内外の研究者が集って最先端の議論を交わす総合演習などが用意されています。

2 履修方法

(1) 修了要件

授業科目表記載の学科目から20単位以上の取得、及び博士論文

特殊研究指導……………12単位以上

専門応用科目……………8単位以上

(2) 特殊研究指導の履修

①特殊研究指導教員の選択

学位論文の主導は主として研究指導教員が行います。また、学科目の履修にあたっては、予め研究指導教員の指示を受けなければなりません。研究指導教員を決めるにあたっては、各自、履修申請期間中に研究指導を希望する教員に相談してください。指導を受ける教員は入学試験時に希望した研究指導教員と異なってもかまいません。

希望する研究指導教員については、「6 研究指導担当教員の研究分野」を参考にしてください。原則として1年次に志望した研究指導教員のもとで、博士論文の作成にあたります。研究指導を受ける指導教員によって授与される学位が異なりますので注意してください。

②特殊研究指導の履修

国際マネジメント研究科博士後期課程の2年次履修の特殊研究指導Ⅳについては中間報告を行わなければ単位を取得できません。また、特殊研究指導Ⅳの単位を取得していなければ、3年次の特殊研究指導ⅤおよびⅥの履修申請はできません。

3年次履修の特殊研究指導Ⅵについては、単位修得論文を提出しなければ、単位を取得できません。

高い能力を示した学生に対しては、研究科が2年次・3年次の特殊研究指導の同時履修を認める場合があります。

(3) 専門応用科目の履修

学生は専門応用科目の履修にあたり、予め研究指導教員の指示を受けてください。

3 学位論文の審査基準および手続き

博士後期課程

<審査基準>

- ① 研究テーマの妥当性：研究科の学位授与方針に照らして、適切なテーマが設定され、研究目的が明確であること。
- ② 研究方法の適切性：研究テーマに関連する先行研究が十分レビューされており、それと関連づけて論旨が展開されていること。研究目的に合致した、適切な方法・手法によって研究が進められていること。
- ③ 論述・論旨の妥当性：論文の構成と体裁が整っていること。
- ④ 論文作成能力：論旨の展開が論理的であり、整合的な結論が得られていること。また、文章表現、図表、データ等が、適切に用いられていること。
- ⑤ 独創性：学術的な新規性と独創性が認められること。
- ⑥ 学会等への公表：研究成果が学会等で発表され、かつ学術雑誌において公刊される形で当該専門分野の学会等から評価を受けていること。

<課程博士学位審査論文提出及び学位申請ができる者>

- ① 本学大学院学則に定める修業年限を充足(見込を含む)し、かつ修了に必要な単位を修得(見込を含む)していること、または単位修得満期退学後2年以内であること。
- ② 予備審査に合格していること。
- ③ 学位の申請について、研究指導教員の承認を得ていること。
- ④ 少なくとも学術論文1編が、審査委員制度が設けられている学術雑誌に、申請者の単著又は第一著者として発表されているか、又は発表が決定されていること。

<課程博士学位審査体制及び手続き>

- ① 課程博士学位申請者は、研究科が指定する期間内に、論文及び所定様式を提出する。
- ② 申請者は、研究科主催の公開発表会で内容を発表する。発表後、学位論文に関する専門分野の科目、関連分野の科目及び外国語科目について最終試験を行う。
- ③ 学位審査部会の中に審査委員会を設け、主研究指導教員を除く4名以上の学位審査資格を持つ専任教員で構成される審査委員会により審査を行う。また、研究科が必要と認めたときは、外部委員を2名まで審査会に加えることができる。
- ④ 学位審査部会は、審査委員会から提出された評価判定により合否判定を行い、研究科長に提出する。研究科長は、研究科教授会の議を経て学位授与に値すると判定したときは、学位論文審査の結果を学長に報告する。

<論文博士学位審査の審査体制及び手続き>

- ① 学位申請は随時受け付ける。
- ② 論文博士については、課程博士の学位論文の要件を越える業績を必要とする。
- ③ 審査委員会は、5名以上の学位審査資格を持つ専任教員で構成する。
- ④ 研究科主催の公開発表会に先立ち予備審査を行い、以降の審査については課程博士学位審査と同様に行う。

4 学位論文提出までの流れおよび学位申請

博士論文の審査及び最終試験以外の修了要件を満たしている学生は、以下に説明する流れに沿って博士論文を提出しなければなりません。

ここでは、(1)提出までの時間的流れ、(2)・(3)各種提出物、(4)博士論文の内容となる公表学術論文の要件及び博士論文作成要領、(5)博士論文の製本及び公開を説明します。

(1) 博士論文提出までの流れ〈日程〉

		国際マネジメント研究科	
1	中間報告申請	修了予定前年度 1月下旬 ^{※1}	修了予定前年度 6月下旬 ^{※1}
2	中間報告会	修了予定前年度 2月	修了予定前年度 7月
3	予備発表申請	修了予定年度 5月下旬	修了予定前年度 10月下旬
4	予備発表／審査	6月～7月	11月～12月
5	学位申請	11月下旬	4月下旬
6	博士論文発表会	12月～1月	5月～6月
7	博士論文審査	12月～1月	5月～6月
8	学位授与	修了(卒業)式 3月25日	8月末日

※1 国際マネジメント研究科における中間報告では、次の審査・判定を行います。

(イ)学位論文を申請できる (ロ)単位修得論文を提出 (ハ)不合格

※ 具体的な提出日や申請日については、巻末の「学位申請、発表会申込及び論文提出スケジュール」をご確認ください。

(2) 中間発表、予備発表審査に必要な提出物

1	中間報告申請	①中間報告論文 (A4判、左とじ、縦長横書、和文または英文) ②中間報告書要旨 (3,000字程度) ※各4部
2	予備発表申請	①学位申請論文 ②論文内容要旨：別紙様式1号(学位申請と同じ) 5,000字程度 ③論文目録：別紙様式2号(学位申請と同じ) ④履歴書 ※各6部

提出先：教育推進課（金沢八景キャンパスは教務担当）

※予備発表/中間報告申請書（所定様式1部）を添付すること

(3) 学位申請に必要な提出物

	各6部ずつ
提出票(所定)	1通
学位申請書(所定)	1通
学位論文	A4判左とじ： 和文あるいは英文
論文内容要旨	所定様式(別紙様式1号 5,000字程度)
論文目録	所定様式(別紙様式2号)
履歴書	写真添付
修了見込証明書	1通
eラーニング修了証 ※	1通 ※研究倫理教育eラーニング「APRIN eラーニングプログラム(eAPRIN)」修了証のこと。
その他	学位論文の元となる論文が共著の場合は連名発表者の承諾書等

*投稿中の論文に関しては、1年以内に論文完了報告書(完了しない場合には、経過報告書)を提出しなければなりません。

(4) 博士論文の内容となる公表学術論文の要件及び博士論文の作成要領

学位論文の内容は、少なくとも、学術論文1編が審査委員制度が設けられている学術雑誌に、学位申請者の単著または第一著者として発表されているか、発表が決定されていること。

※ただし、必要と認められるときは研究科教授会の議を経て審査委員制度のない学術雑誌に代えることができます。なお、学術雑誌の性格上、第一著者とならない場合(氏名をアルファベット順に並べる場合など)、研究科教授会にその旨を報告し、第一著者でなくてもよいという承認を必要とします。

※公表学術論文として要件を満たしているか不明な場合は事前に指導教員に相談してください。

作成規定	注意事項
①用紙：A4判縦方向 ②使用言語：日本語または英語(パソコン原稿) ③ページ設定 (日本語)40字・40行、10.5ポイント マージン：上下各30mm、左右各25mm (英語)70字・40行、12ポイント マージン：上下各30mm、左右各25mm ページ番号：下部中央	使用言語については、事前に主研究指導教員と相談すること。

5 授業科目表 博士後期課程 国際マネジメント専攻

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位数			担当教員	備考
				必修	選択	自由		
専門応用科目	財務会計特殊研究	1・2・3	後		2		三浦 敬	
	ビジネス法務特殊研究	1・2・3	前		2		大澤 正俊	
	計量経済学特殊研究	1・2・3	後		2		白石小百合	
	理論経済学特殊研究	1・2・3			2		休講	
	グローバル・マネジメント特殊研究	1・2・3			2		休講	
	グローバル・アカウンティング特殊研究	1・2・3	後		2		中條 祐介	
	金融論特殊研究	1・2・3	前		2		随 清遠	
	国際経済学特殊研究	1・2・3			2		休講	
	eビジネス・マネジメント特殊研究	1・2・3			2		休講	
	経済政策特殊研究	1・2・3	後		2		大塚 章弘	
	ファイナンシャル・マネジメント特殊研究	1・2・3			2		休講	
	グローバル・オーガニゼーションズ特殊研究	1・2・3	後		2		吉永 崇史	
	ゲーム理論特殊研究	1・2・3			2		休講	
	財政学特殊研究	1・2・3	前		2		鞠 重鎬	
	情報の経済学特殊研究	1・2・3	前		2		阿部 修人(非常勤)	
	グローバル・ヒューマン・リソース・ディベロップメント特殊研究	1・2・3			2		休講	
	ワークショップ(経済)Ⅰ	1・2・3	集中		2		白石小百合	オムニバス
	ワークショップ(経済)Ⅱ	1・2・3	集中		2		白石小百合	オムニバス
	経営学特殊研究(A)	1・2・3	前		2		柴田 典子	
	経営学特殊研究(B)	1・2・3	前		2		高木 俊雄	
	経営学特殊研究(C)	1・2・3	後		2		原 広司	
	経営学特殊研究(D)	1・2・3			2		休講	
	経済学特殊研究(A)	1・2・3	前		2		坂口 利裕	
	経済学特殊研究(B)	1・2・3	前		2		和田淳一郎	
	経済学特殊研究(C)	1・2・3	後		2		中園 善行	
	会計学特殊研究(A)	1・2・3	後		2		張 櫻馨	
	会計学特殊研究(B)	1・2・3	後		2		高橋 隆幸	
	会計学特殊研究(C)	1・2・3			2		休講	
特殊研究指導		1・2・3			2		休講	
		1・2・3			2		休講	
		1・2・3			2		休講	
		1・2・3			2		休講	
		1・2・3			2		休講	
	特殊研究指導Ⅰ	1	前・後	2			大澤 正俊	
	特殊研究指導Ⅱ	1	前・後	2			大塚 章弘	
	特殊研究指導Ⅲ	2	前・後	2			鞠 重鎬	
	特殊研究指導Ⅳ	2	前・後	2			坂口 利裕	
	特殊研究指導Ⅴ	3	前・後	2			柴田 典子	
	特殊研究指導Ⅵ	3	前・後	2			白石小百合	
							随 清遠	
							高木 俊雄	
							高橋 隆幸	
							張 櫻馨	
							中條 祐介	
							中園 善行	
							原 広司	
							三浦 敬	
							吉永 崇史	
							和田淳一郎	

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位数			担当教員	備考
				必修	選択	自由		
自由科目	インターンシップ※ ¹	1・2・3	集中			2	白石小百合 キャリア支援センター長・河瀬恵子	
	大学院・キャリア形成実習(横浜の産業と企業理解)※ ²	1・2・3	集中(前)			1		
	大学院・日本語科目※ ² ※「Ⅶ 大学院日本語科目」を確認							

※1 博士後期課程においては、10日間以上かつ60時間以上のインターンシップの実施で単位認定を申請することができます。単位認定の流れについては、博士前期課程と同じとなりますので、P.46を参照してください。

※2 留学生・帰国生のみ履修可能です。

6 研究指導担当教員の研究分野

博士後期課程

教 員 名	教育研究内容 (授与学位)	教 員 名	教育研究内容 (授与学位)
大澤 正俊	ビジネス法務 (経営学)	大塚 章弘	都市経済学 (経済学)
柴田 典子	マーケティング (経営学)	鞠 重鎬	財政学 (経済学)
高木 俊雄	経営戦略論 (経営学)	坂口 利裕	数量分析 (経済学)
高橋 隆幸	国際租税法 (経営学)	白石小百合	計量経済学 (経済学)
張 櫻馨	国際財務会計 (経営学)	随 清遠	金融論 (経済学)
中條 祐介	企業分析 (経営学)	中園 善行	マクロ経済学 (経済学)
原 広司	ソーシャル・イノベーション (経営学)	和田淳一郎	公共経済学 (経済学)
三浦 敬	簿記システム (経営学)		
吉永 崇史	グローバル・オーガニゼーションズ (経営学)		

7 履修モデル

以下に履修モデルを示しておきますが、これらは履修の一例で、これらを参考にして各自の研究目的にあわせて、研究指導教員と充分相談の上、履修する科目を決めてください。

【履修例1】 会計情報、国際会計基準に関する知識をさらに深化させ、これに国際経営および国際財務に関する知識を併せ持つことで、海外進出企業の会計情報開示戦略と資本コストとの関係を分析できる人材を養成

授 業 科 目	学年			単位数
	1	2	3	
財務会計特殊研究	2			
グローバル・アカウンティング特殊研究		2		
グローバル・マネジメント特殊研究	2			
ファイナンシャル・マネジメント特殊研究		2		
特殊研究指導	4	4	4	
合 計	8	8	4	20

修了後の進路：研究職、金融機関系シンクタンク、
多国籍企業の財務マネージャー

【履修例2】 データ分析手法、eビジネスに関する知識をさらに深化させ、これに多国籍企業の組織マネジメントおよび国際経営に関する知識を併せ持つことで、eビジネスのグローバルな展開モデルを構築できる人材を養成

授 業 科 目	学年			単位数
	1	2	3	
財務会計特殊研究	2			
グローバル・オーガニゼーションズ特殊研究		2		
eビジネス・マネジメント特殊研究	2			
グローバル・マネジメント特殊研究		2		
特殊研究指導	4	4	4	
合 計	8	8	4	20

修了後の進路：研究職、情報系コンサルタント、
流通系コンサルタント

IV

生命ナノシステム科学研究科 博士前期課程・後期課程

生命ナノシステム科学研究科

1 研究科の編成

生命ナノシステム科学研究科は、物質システム科学専攻、生命環境システム科学専攻の2専攻から構成されています。この2専攻は、「生命の持つ複雑な機能・組織を物質要素の組み合わせ（システム化）により発現すると考える、ボトムアップの立場から生命システムを解明する」と言う研究科の共通した理念のもと、各専攻固有の階層的研究を対象に教育研究を行っています。

また、国内の国立研究開発法人（理化学研究所、海洋研究開発機構、物質・材料研究機構）や企業（NTT物性科学基礎研究所）との連携や国外の研究教育機関とのネットワークにより、グローバルな視点から研究教育を行っています。

(a)物質システム科学専攻：計測・情報科学に基づき電子・原子・分子レベルからのナノスケールシステム構築の理解

(b)生命環境システム科学専攻：ゲノム科学に基づき遺伝子・タンパク質レベルからの細胞システム構築の理解

2 研究科の教育研究の目標

ゲノム科学、タンパク質科学、細胞生物学、計算科学、物質科学を基盤にした新しい統合生命科学を基に、複雑な生命システムの探索を単なる現象論に止まるのではなく論理的に解明できる人材を育成することを目指しています。言い換えると、生命システムの機能を物質に働く法則と原理に基づく合理的な理解の基に解明することにより、生命システムを応用した新たなシステムデザインを経験的な現象論から導くのではなく合理的な理解の基に導き出せる人材を育成することを目指しています。したがって、次世代の薬品開発、食品開発、環境問題を解決する環境保全生物開発、環境改善物質開発、情報・エネルギーに関連する有機デバイス開発、などの幅広い分野で主導的役割を担う人材が育ってくれるものと期待しています。

また、国内の独立行政法人および民間研究所との密接な連携に加え、海外の研究者との交流や学生の交換交流などを通して、国際的な人材の育成を目指しています。これに加え、科学技術者の社会との融合を計るため、特許や知的財産管理の知識、起業に関する知識を修得するための講義科目を設け、社会的なキャリアの構築や次世代を担うグローバルな人間形成の構築が出来るよう支援します。

3 学位論文の審査基準および手続き

博士前期課程

<審査基準>

- ① 未解明で意義のある研究課題に主体的に取り組んだか。
- ② 研究計画、方法が適切、かつ十分であったか。
- ③ 研究課題について、意義のある成果が得られたか。
- ④ 研究内容周辺における学識が十分であったか。
- ⑤ 修士論文が論理的かつ明解に記述されているか。
- ⑥ 修士論文発表会での発表と質疑に対する応答が論理的かつ明解に行われたか。
- ⑦ 理学修士に値する研究能力、論文作成能力、学識を有しているか。

※上記①から⑦の要件に加えて、研究内容を学会等で発表することを推奨する。

<修士論文提出及び学位申請ができる者>

- ① 本学大学院学則に定める修業年限を充足(見込を含む)し、かつ修了に必要な単位を修得(見込を含む)していること。
- ② 中間発表を行っていること。
- ③ 学位の申請について、研究指導教員の承認を得ていること。

<審査体制及び手続き>

- ① 学位申請者は、研究科が指定する期間内に、修士論文及び所定様式を提出する。
- ② 申請者は、研究科主催の公開発表会で内容を発表し、最終試験を受ける。
- ③ 学位審査部会の中に審査委員会を設け、3名以上の教員で構成される審査委員会により審査を行う。
- ④ 学位審査部会は、審査委員会から提出された評価判定により合否判定を行い、研究科長に提出する。研究科長は、研究科教授会の議を経て学位授与に値すると判定したときは、学位論文審査の結果を学長に報告する。

博士後期課程

＜審査基準＞

- ① 未解明で意義のある研究課題に主体的に取り組んだか。
- ② 研究計画、方法が適切、かつ十分であったか。
- ③ 研究課題について、意義のある成果が得られたか。
- ④ 研究内容周辺および理学一般における学識が十分であったか。
- ⑤ 博士論文が論理的かつ明解に記述されているか。
- ⑥ 博士論文発表会での発表と質疑に対する応答が論理的かつ明解に行われたか。
- ⑦ 理学博士に値する研究能力、論文作成能力、学識を有しているか。

＜課程博士学位審査論文提出及び学位申請ができる者＞

- ① 本学大学院学則に定める修業年限を充足(見込を含む)し、かつ修了に必要な単位を修得(見込を含む)していること、または単位修得満期退学後2年以内であること。
- ② 予備審査に合格していること。
- ③ 学位の申請について、研究指導教員の承認を得ていること。
- ④ 博士学位審査論文の主要部分が、審査委員制度が設けられている国際学術誌に、申請者を第一著者として英文で発表されているか、発表が決定されていること。

＜課程博士学位審査体制及び手続き＞

- ① 課程博士学位申請者は、研究科が指定する期間内に、論文及び所定様式を提出する。
- ② 申請者は、研究科主催の公開発表会で内容を発表する。発表後、学位論文に関する専門分野の科目、関連分野の科目及び外国語科目について最終試験を行う。
- ③ 学位審査部会の中に審査委員会を設け、主研究指導教員を除く4名以上の学位審査資格を持つ専任教員で構成される審査委員会により審査を行う。また、研究科が必要と認めたときは、外部委員を2名まで審査会に加えることができる。
- ④ 学位審査部会は、審査委員会から提出された評価判定により合否判定を行い、研究科長に提出する。研究科長は、研究科教授会の議を経て学位授与に値すると判定したときは、学位論文審査の結果を学長に報告する。

＜論文博士学位審査の審査体制及び手続き＞

- ① 学位申請は随時受け付ける。
- ② 論文博士については、課程博士の学位論文の要件を越える業績を必要とする。
- ③ 審査委員会は、5名以上の学位審査資格を持つ専任教員で構成する。
- ④ 研究科主催の公開発表会に先立ち予備審査を行い、以降の審査については課程博士学位審査と同様に行う。

4 博士前期課程 学位論文提出までの流れおよび学位申請

修士論文の審査及び最終試験以外の修了要件（2 ページ参照）を満たしている学生は、以下に説明する流れに沿って修士論文を提出しなければなりません。ここでは、その流れに加えて学位の申請、学位論文の保管、修士論文作成要領について説明します。

(1) 修士論文提出までの流れ

各項目については、必ず主研究指導教員の承諾を受けてください。

1	修士論文題目届提出	5 月上旬(修了予定年度)	博士前期課程 2 年
2	修士論文中間発表会	8 月初旬※	
3	修士論文題目／修士論文要旨提出	1 月下旬～2 月上旬	
4	修士論文提出	1 月末日	
5	学位申請	2 月上旬	
6	修士論文発表会	2 月上旬	
7	学位授与※ 1	修了(卒業)式 3 月25日	

※具体的な申請日や提出日については、巻末の「学位申請、発表会申込及び論文提出スケジュール」を確認してください。

(2) 学位の申請

申請する際に、下表に挙げる書類を修士論文提出時に教育推進課（金沢八景キャンパスは教務担当）に提出してください。詳細は別途YCU-Boardでお知らせします。

提出票(本学所定)	1 通
学位申請書(本学所定)	1 通
学位申請論文(修士論文)	1 通
論文要旨(日本語)	1 通
履歴書	1 通
修了見込証明書	1 通
(学術情報センター提出用)学位論文公開・複写許諾書	1 通
研究倫理教育eラーニング「APRIN eラーニングプログラム(eAPRIN)」修了証	1 通

(3) 学位論文の保管

学位申請に合格した学生の修士論文は、本学学術情報センターで保管・公開します。

(4) 修士論文作成要領

修士論文要旨と修士論文の作成要領を下表に示します。

	作成規定	内容と注意
修士論文 要 旨	①用紙：A4判2～4枚。 ②文字：日本語または英語(パソコン使用)、10～12ポイント。 ③マージン：上下各30mm、左右各25mm。 ④字数：約35字／行。 (注) 英語で作成する場合には、日本語の概要(A4判1枚程度)を添付すること。	①研究課題：左詰め。 ②専攻名・部門名・氏名・指導教員名：すべてセンタリング。 ③本文：【研究の背景と目的】、【方法】、【結果と考察】などの項目に分け、次項目に移るときには、1行空ける。 ④重要語句：本文の最初のページに枠でくくってまとめる。 (注) 【研究の背景と目的】には、専門外の人にも研究内容を理解できるように、専門的なキーワードなどは本文中下線を引き、重要語句としてまとめて説明する。 【結果と考察】については、必要に応じて結果を1)、2)、3)などに分けてまとめる。 ※論文要旨は審査会等で公表されるため、特許を含む場合は注意すること。
修士論文	修士論文要旨と同じ。 ただし、文字については英語も可とするが事前に主研究指導員と相談すること。	①表紙 タ イ ト ル (元号)●●年度 修士論文 横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科 ●●専攻 氏 名 ②目次 ③内表紙：研究課題名・本人氏名・主・副研究指導教員名 ④本文：要旨、序論、材料と方法、結果、考察、文献、表、図、謝辞、研究発表実績(論文、学会発表など)の順に記入。 英語で書いた場合には、日本語の要旨を最後に加えること。

5 博士後期課程 学位論文提出までの流れおよび学位申請

博士論文の審査及び最終試験以外の修了要件（2ページ参照）を満たしている学生は、以下に説明する流れに沿って博士論文を提出しなければなりません。

なお、3年の在学期間を超えている場合は、指導教員、教務委員、および専攻長と相談の上、随時実施できます。

ここでは、(1)・(2)提出までの時間的流れ、(3)・(4)各種提出物、(5)博士論文の内容となる公表学術論文の要件及び博士論文作成要領、(6)博士論文の製本及び公開を説明します。

(1) 予備発表までの流れ

1	予 備 発 表 申 請	修了予定 前年度 11月末日	修了予定 前年度 2月末日※	修了予定年度 8月末日
2	予 備 発 表 / 審 査	12月中旬	3月中旬	9月中旬
3	予備発表修了判定	1月中旬	4月中旬	10月中旬

※2年次（修了予定前年度2月末日）から申請可です。

(2) 博士論文提出までの流れ

1	学 位 申 請	11月末日	2月末日	8月末日
2	博士論文発表会	12月	3月	9月
3	博 士 論 文 審 査	12月～1月	5月～6月	9月～10月
4	学 位 授 与	3月25日	8月末日	12月末日

(3) 予備発表審査に必要な提出物

予備発表申請書(所定様式)	1 通
論文要旨(修士論文要旨と同様：頁数は制限なし)	1 通

(4) 学位申請に必要な提出物

提出票(所定)	1 通
学位申請書(所定)	1 通
学位論文	※生命ナノシステム科学研究科は学位審査論文 ・A4判左とじ：英文は標準ピッチでシングルスペース ・PDFファイル(提出方法は別途YCU-Boardにて通知)
論文内容要旨	日本語または英語で図表を入れて、論文の独創的な点を中心に専攻に所属する全員に理解できるように記載。 英語で作成する場合は日本語の概要(A4判1枚程度)を添付すること。 ※論文要旨は審査会等で公表されるため、特許を含む場合は注意すること。
論文目録	学位論文の主要な章が欧文学術誌に公表された、印刷中、投稿中であることを明示(別途、ウェブページ等の写しも添付)。印刷中、投稿中の場合にはそれを証明できる資料を添付*。
履歴書	写真添付
修了見込証明書	1 通(単位修得満期退学者は単位取得証明書)
eラーニング修了証※	1 通 ※研究倫理教育eラーニング「APRIN eラーニングプログラム(eAPRIN)」修了証のこと。
その他	学位審査論文の主要な章における連名共著者などの承諾書、論文印刷中・投稿中を証明する書類及びその論文のコピーを添付。

*投稿中の論文に関しては、1年以内に論文完了報告書(完了しない場合には、経過報告書)を提出しなければなりません。

(5) 博士論文の内容となる公表学術論文の要件及び博士論文の作成要領

学位審査論文の主要部分が、審査委員制度が設けられている国際学術誌に、申請者を第一著者として英文で発表されているか、または発表することが決定されていなければなりません。ただし、発表論文に申請者を含め、第一著者が複数名いる場合には、研究科教授会にその旨を報告し、承認を必要とします。

申請者が第一著者ではない論文は、すべて参考論文として扱うこととなります。なお、国際学術誌の性格上、第一著者とならない場合(氏名をアルファベット順に並べる場合など)、研究科教授会にその旨を報告し、第一著者でなくともよいという承認を必要とします。

章の構成	内容注意
General Introduction	研究の背景、以下に記載する各章の内容を総合化して研究目的を明確に記載する。
Chapter 1 Chapter 2 ・ ・	発表論文あるいは発表する論文の内容をそのまま記載してよい。
General Discussion and Conclusion	研究内容を総合化して、研究内容の独創性・新規性などをまとめ、その根拠などを示し、結論をまとめる。
References	各章の後につけてもよい。
Acknowledgements	

(6) 博士論文の製本及びインターネットによる公開

平成25年4月1日以降に博士の学位を授与された者の博士論文は、インターネットの利用により公開することになりました。学位申請者は、博士論文の製本1部を作成し、論文の全文及び要旨の電子ファイルとともに学位授与日までに教育推進課（金沢八景キャンパスは教務担当）へ提出してください。製本された論文は本学学術情報センター、電子データはインターネットで保管・公開します。

IV-1

生命ナノシステム科学研究科
物質システム科学専攻
博士前期課程・後期課程

博士前期課程

1 教育研究の目的

基礎科学から生れた知識・科学技術は現在ではナノ科学として開花し、生命現象を解き明かす計測原理や情報解析原理のイノベーションを創出しています。大学院博士前期課程では、生命システムの構造と機能をナノレベルで理解するために、“創製・計測・評価”を主体とした「計測科学」および“計算・情報・予測”を主体とした「知識科学」に基づいた高度専門教育及び実践教育を行います。そして先端的研究開発を担って行ける、実験科学と計算科学にバランスのとれた人材を育成します。また、従来と比べて幅広い専門教育を目指した科目構成を特徴とします。

IV-1

2 履修方法

(1) カリキュラムの構成

- ①各専攻の共通科目として「生命ナノシステム科学総論」を設け、専攻を超えた教員によるオムニバス授業を開講します。電子・原子・分子レベルから生命現象を理解するナノシステム科学における多種多様な原理・計測法・実践方法を習得するために必修科目「物質システム科学序説」、導入科目として「ナノ物質創製科学概説」「ナノバイオ物質科学概説」「予測・感覚情報科学概説」及び専任教員による特論科目が開講されています。
- ②生命システムの構造と機能を理解するための計測科学及び自然現象・生命現象を予測・解析するための知識科学を実践的に習得するために、3つの実習科目「ナノ物質創製評価実習」「ナノ構造分析実習」「情報計算実習」が開講されています。
- ③研究計画を立案し、研究成果を英語と日本語でプレゼンテーションできる能力を養うための「英語プレゼンテーション技術」が必修科目として開講されています。また、その成果を発表するための「国際リトリート」が選択科目として開講されています。
- ④グローバルな先端的研究機関を行う研究者育成のために物質・材料研究機構（NIMS）との連携科目「量子表面科学特論」及び「ナノ物質科学特論」が開講されています。
- ⑤計測科学と知識科学を融合させた先端研究への展開を図るためにNTT物性科学基礎研究所と連携した科目「計算物質科学特論」が開講されています。
- ⑥科学技術と社会との関わりや科学技術を活かしたキャリアデザインに有用な選択科目及び知材関連科目として「科学技術コミュニケーション序論」「サイエンスマネジメント論」「特許出願の実際」及び「応用倫理学」を開講しています。
- ⑦「物質システム科学特別研究」では学位論文（修士論文）完成のための研究指導を行います。研究テーマに従い研究指導教員から指導を受けると共に、副指導教員からもアドバイスを受けることにより研究における多角的な視野を養います。また、2年次前期に中間発表会を開催し、修士論文の進捗状況を把握し、フィードバックすることで修士論文の質の向上を図ります。
- ⑧「物質システム科学特別演習」では、英文科学雑誌のレビューや輪読などによりプレゼンテーシ

ョンや外国語能力を養うと共に、国際的な観点から研究の動向や進展を把握し研究人としての視野を広めます。さらに、自らの研究テーマと世の中の関連性や位置づけなども学びます。

(2) 修了に必要な単位数

所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。修了者には、修士（理学）を授与します。

開講科目を次の表のように区分し、合計30単位以上の科目を必修あるいは選択して履修します。

科目区分	科目名	単位数	備考
必修科目	生命ナノシステム科学総論	2 単位	合計18単位以上
	物質システム科学特別研究	8 単位	
	物質システム科学特別演習	4 単位	
	物質システム科学序説	2 単位	
	英語プレゼンテーション技術	2 単位	
選択必修科目A (概説)	ナノ物質創製科学概説	2 単位	合計 4 単位以上
	ナノバイオ物質科学概説	2 単位	
	予測・感覚情報科学概説	2 単位	
選択必修科目B (実習)	ナノ物質創製評価実習	1 単位	合計 1 単位以上
	ナノ構造分析実習	1 単位	
	情報計算実習	1 単位	
選択必修科目C (集中)	科学技術コミュニケーション序論	1 単位	合計 1 単位以上
	サイエンスマネジメント論	1 単位	
	特許出願の実際	1 単位	
	応用倫理学	1 単位	
選択科目	物質システム科学専攻特論科目	各 1 単位	6 単位以上 ※本学その他研究科(他専攻を含む)の授業を履修し、修得した場合、8単位を上限として算入できます。 単位互換制度・交換講義により認められている単位を含めることができます。

3 授業科目表 博士前期課程 物質システム科学専攻

科目 区分	授業科目の名称	教 職 マ ーク	履 修 年 次	期 間	単位数			担当教員	備 考
					必 修	選 択	自 由		
必 修 科 目	生命ナノシステム科学総論	専修	1	前(前)	2			立川(仁)、橘、山田、石川、坂、足立、木下、三輪、関	必修科目 18単位
	物質システム科学特別研究		1~2	集中	8			横山、橘、高見澤、立川(仁)、島崎、篠崎、山田、野々瀬、本多、吉本、ミケレット、及川、金、石川、北、立川(正)、谷本、関本、大竹、板倉、荒船、若原、佐々木	
	物質システム科学特別演習	専修	1~2	集中	4			横山、橘、木下、高見澤、立川(仁)、島崎、篠崎、山田、野々瀬、本多、吉本、ミケレット、及川、金、石川、北、立川(正)、谷本、関本、大竹、板倉、荒船、若原、佐々木	
	物質システム科学序説	専修	1	前(後)	2			立川(仁)、及川、横山、吉本	
	英語プレゼンテーション技術		1	後	2			野々瀬、金、ミケレット、関本	
選 択 必 修 科 目	A	ナノ物質創製科学概説	専修	1	後		2	本多、高見澤、島崎、木下	選択必修A 4単位以上
		ナノバイオ物質科学概説	専修	1	後		2	野々瀬、石川、立川(正)、谷本	
		予測・感覚情報科学概説	専修	1	後		2	金、ミケレット、北、吉本	
	B	ナノ物質創製評価実習	専修	1	前		1	木下、橘、高見澤、関本、横山、野々瀬、谷本	選択必修B 1単位以上
		ナノ構造分析実習	専修	1	前		1	本多、篠崎、及川、山田、立川(正)、石川	
		情報計算実習	専修	1	前		1	北、ミケレット、吉本、島崎、金	
	C	科学技術コミュニケーション序論		1・2	前(後)		1	高山(非常勤)	選択必修C 1単位以上
		サイエンスマネジメント論		1・2	集中		1	赤池(非常勤)	
		特許出願の実際		1・2	集中		1	水谷(非常勤)	
		応用倫理学		1・2	前(前)		1	小館(非常勤)	
選 択 科 目	量子表面科学特論Ⅰ	専修	1・2			1	1	休講	選択科目 6単位以上
	量子表面科学特論Ⅱ	専修	1・2	前(後)		1	1	横山	
	量子表面科学特論Ⅲ	専修	1・2	集中		1	1	大竹、板倉、荒船(*客員教授)	
	量子表面科学特論Ⅳ		1・2	前(後)		1	1	藪原(非常勤)	

科目 区分	授業科目の名称	教職 マーク	履修 年次	期間	単位数			担当教員	備 考
					必修	選択	自由		
選 択 科 目	ナノ物質科学特論Ⅰ	専修	1・2	前(前)		1		橘	選択科目 6単位以上
	ナノ物質科学特論Ⅱ	専修	1・2	後(前)		1		木下	
	ナノ物質科学特論Ⅲ	専修	1・2			1		休講	
	ナノ物質科学特論Ⅳ	専修	1・2	後(後)		1		高見澤	
	ナノ物質科学特論Ⅴ	専修	1・2	集中		1		若原(*客員教授)	
	光物質科学特論Ⅰ	専修	1・2			1		休講	
	光物質科学特論Ⅱ	専修	1・2	前(後)		1		篠崎	
	光物質科学特論Ⅲ	専修	1・2	前(後)		1		山田	
	物質計測科学特論Ⅰ	専修	1・2			1		関本	
	物質計測科学特論Ⅱ	専修	1・2	後(前)		1		野々瀬	
	物質計測科学特論Ⅲ	専修	1・2	後(前)		1		本多	
	有機物質科学特論Ⅰ	専修	1・2			1		休講	
	有機物質科学特論Ⅱ	専修	1・2	前(後)		1		及川	
	有機物質科学特論Ⅲ	専修	1・2	前(後)		1		石川	
	計算物質科学特論Ⅰ	専修	1・2	後(前)		1		立川(仁)	
	計算物質科学特論Ⅱ	専修	1・2	後(後)		1		北	
	計算物質科学特論Ⅲ	専修	1・2	集中		1		島崎	
	計算物質科学特論Ⅳ	専修	1・2	集中		1		佐々木(**客員教授)	
	集積情報科学特論Ⅰ	専修	1・2			1		休講	
	集積情報科学特論Ⅱ	専修	1・2	後(前)		1		金	
	知覚情報科学特論Ⅰ	専修	1・2	前(後)		1		ミケレット	
	知覚情報科学特論Ⅱ		1・2	後(後)		1		岡嶋(非常勤)	
	知覚情報科学特論Ⅲ		1・2	集中		1		蟻川(非常勤)	
	生物物理学特論Ⅰ		1・2	後(前)		1		谷本	
	生物物理学特論Ⅱ ^{※1}		1・2	後(前)		1		立川(正)	
	大学院特別講義(物質システム科学特別講義Ⅰ)		1・2	集中		1		Hannes Raebiger(非常勤)	
	大学院特別講義(物質システム科学特別講義Ⅱ)		1・2	集中		1		Ankur Baliyan(非常勤)	
	大学院特別講義(物質システム科学特別講義Ⅲ)		1・2	集中		1		入江(非常勤)	
	インターンシップ		1・2	集中		1		立川(仁)	
	国際リトリート		1・2	集中		1		立川(仁)	
	マテリアルインフォマティクス ^{※1}		1・2	前(前)		1		島崎、立川(仁)	
	バイオインフォマティクス		1・2	集中		1		ラミロフスキー・ジョーダン	医学研究科 開講科目
	修士論文		2	集中	0			主指導教員	

科目 区分	授業科目の名称	教職 マーク	履修 年次	期間	単位数			担当教員	備 考
					必修	選択	自由		
自由 科目	教科指導の研究	専修	1・2	後			2	田中(非常勤)	15回開講
	理科教育ケーススタディ	専修	1・2	後			2	田中(非常勤)	15回開講
	大学院・キャリア形成実習 (横浜の産業と企業理解) ^{※2}		1・2	集中(前)			1	キャリア支援センター長・ 河瀬恵子	
	大学院・日本語科目 ^{※2} ※「Ⅶ 大学院日本語科目」を 確認								

* 物質・材料研究機構 **NTT 物性科学基礎研究所

※1 令和4年度以降入学者のみ履修可能です。

※2 留学生・帰国生のみ履修可能です。

4 担当教員の研究分野と研究課題 博士前期課程 物質システム科学専攻

教 員 名	研 究 分 野	研 究 課 題
荒船 竜一* (大学院客員教授) Arafune.Ryuichi@nims.go.jp	表 面 分 光	①レーザー光電子分光を用いた表面におけるスピン軌道相互作用のダイナミクス ②高分解能表面ダイナミクス測定を目指した仕事関数測定法の開発 ③表面を用いた非相反応の研究
石川 裕一 yu_iskw@yokohama-cu.ac.jp	天然物有機化学	①社会的に有用な生物活性を持つ天然有機化合物の合成 ②天然有機化合物の持つ機能を超える人工生物活性物質の創製
板倉 明子* (大学院客員教授) ITAKURA.Akiko@nims.go.jp	表 面 科 学	①有機薄膜の機械特性 ②光、電子線照射下の構造解析と弾性特性 ③超薄膜機械特性測定装置の開発
及川 雅人 moikawa@yokohama-cu.ac.jp http://oiklab.sci.yokohama-cu.ac.jp/	生 物 有 機 化 学	①中枢神経系の受容体に特異的に作用する天然物および類縁体のライフサイエンス指向型有機合成 ②抗体作製を目指した海産毒の有機合成
大竹 晃浩* (大学院客員教授) OHTAKE.Akihiro@nims.go.jp	表 面 科 学	①化合物半導体表面の構造解析 ②半導体ヘテロ接合界面の構造評価 ③量子ドット自己形成機構の解明
北 幸海 ykita@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~tachi/	理 論 物 理 化 学	①多成分量子多体系に対する第一原理法の開発と応用 ②確率論的手法に基づく非調和振動状態理論の開発と応用 ③陽電子の反応素過程に関する理論的研究
金 亜伊 ahyik@yokohama-cu.ac.jp http://ahyik4.wixsite.com/namazu	固体地球物理学	①地震発生の物理(震源過程、発震機構、その他震源パラメータに関する研究) ②家庭用地震動計測器とネットワークの開発 ③機械学習を用いた地球科学的諸現象の解明
佐々木健一** (大学院客員教授) ke.sasaki@ntt.com http://www.brl.ntt.co.jp/people/sasaki.kenichi/public_html/index.html	物 性 理 論	①グラフェンにおける電子物性、シミュレーション
篠崎 一英 shino@yokohama-cu.ac.jp http://in_photo.sci.yokohama-cu.ac.jp/	無 機 光 化 学	①高効率発光材料の開発と発光性分子を用いたセンシング ②光などの刺激によって駆動する分子バネ ③均一系・不均一系光触媒の反応機構の解明
島崎 智実 tshima@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~tachi/	理論計算化学・情報化学	①シミュレーションを用いた(特に『ものづくり』に必要とされる)有機材料の物性解析 ②材料の物性解析に必要とされる理論・シミュレーション技術の研究・開発 ③材料開発に役立つ情報科学的手法の研究
関本 奏子 sekimoto@yokohama-cu.ac.jp http://masspecs.sci.yokohama-cu.ac.jp/	大気イオン化学	①大気圧プラズマの基礎過程の解明と質量分析用イオン源への応用 ②大気中イオン分子反応の解析 ③大気中揮発性有機化合物の環境動態解析

教 員 名	研 究 分 野	研 究 課 題
高見澤 聡 staka@yokohama-cu.ac.jp http://nanochem.sci.yokohama-cu.ac.jp	無 機 化 学	①遷移金属化合物の合成と物性研究 ②ガス包接結晶の構造化学的研究 ③超分子固体の多重物性の探索
立川 正志 tachikawa.mas.ba@yokohama-cu.ac.jp	理論生物物理学	①細胞内構造の形成シミュレーション ②物理に基づく生体機能発現のメカニズムの理解 ③生き物が生み出す『かたち』の研究
立川 仁典 tachi@yokohama-cu.ac.jp http://tachi.sci.yokohama-cu.ac.jp/	量 子 物 理 化 学	①高精度な第一原理計算手法の開発 ②水素系量子シミュレーション手法の開発 ③生体分子シミュレーション、機能性材料の理論設計 ④陽電子化合物の理論研究
橘 勝 tachiban@yokohama-cu.ac.jp http://nanomate.sci.yokohama-cu.ac.jp/	材 料 物 性 科 学	①ナノカーボンの生成と物性 ②分子性有機結晶(タンパク質を含む)の育成と物性 ③X線トポグラフィとラマン分光法による構造評価
谷本 博一 tanimoto@yokohama-cu.ac.jp	細胞生物物理学	①細胞内における秩序構造形成の物理的原理 ②細胞の変形・運動の動力学
野々瀬真司 nonose@yokohama-cu.ac.jp http://cluster.sci.yokohama-cu.ac.jp/	物 理 化 学・ クラスターサイエンス	①エレクトロスプレーイオン化法を用いた生体分子クラスター生成方法の開発 ②生体分子クラスターの衝突反応 ③クラスターの構造と反応動力学
本多 尚 hhonda@yokohama-cu.ac.jp http://honda.sci.yokohama-cu.ac.jp/	物 性 物 理 化 学	①柔粘性結晶や液晶中の分子運動と分子間相互作用 ②機能性高分子の物性評価と固体材料への応用 ③多孔性材料に吸着したゲスト分子の吸着状態 ④水素結合におけるH/D同位体効果と固体物性
山田 重樹 shigeki@yokohama-cu.ac.jp http://syamada.sci.yokohama-cu.ac.jp/index.html	固 体 物 理 学・ 電 磁 気 学	①強相関電子系材料の探索および結晶育成 ②①の磁性および電子物性の測定
横山 崇 tyoko@yokohama-cu.ac.jp http://nano.sci.yokohama-cu.ac.jp/	表面・ナノ構造 物 性 科 学	①表面上での分子ナノ構造制御 ②極低温STMを用いた表面量子ナノ物性計測 ③分子ナノ構造からのトンネル電子励起発光計測
吉本 和生 k_yoshi@yokohama-cu.ac.jp http://quake.sci.yokohama-cu.ac.jp/	固体地球物理学	①地震波の伝播過程における減衰と散乱 ②地球内部構造の不均質性とその波動論的作用 ③地盤構造とその地震波の増幅特性
若原 孝次* (大学院客員教授) WAKAHARA.Takatsugu@nims.go.jp http://www.nims.go.jp/fullerene/index/index.html	有 機 材 料 科 学	①ナノ炭素材料の化学 ②有機ナノ結晶の合成と物性解明 ③ナノサイズの有機デバイスの作製
Ruggero Micheletto ruggero@yokohama-cu.ac.jp http://ruggero.sci.yokohama-cu.ac.jp	光・知覚情報科学	①半導体材料の光学特性(近接場走査型顕微鏡) ②光学バイオセンサー ③知覚情報科学

* 物質・材料研究機構 **NTT 物性科学基礎研究所

1 教育研究の目的

生命現象に代表される自然科学をナノスケールシステムとして捉え、これらを計測科学及び知識科学に基づき電子・原子・分子レベルから理解するために8つの部門「量子表面科学」「ナノ物質科学」「光物質科学」「物質計測科学」「有機物質科学」「計算物質科学」「集積情報科学」「知覚情報科学」を置き、教育・研究を行います。また、計測科学・知識科学の産業界への展開・応用も視野に入れ、積極的に産学連携を見据えた教育・研究を行い、高い社会性を持つ研究者を育成します。

2 履修方法

(1) カリキュラム構成

- ①生命ナノシステム科学のハード面である物質的基盤となる計測科学の習得とそれらを社会・産業へ応用できる人材育成のために「量子表面科学講究」「ナノ物質科学講究」「光物質科学講究」「物質計測科学講究」「有機物質科学講究」を開講しています。
- ②生命ナノシステム解明のためソフト面である情報計算基盤となる知識科学の習得のために「計算物質科学講究」「集積情報科学講究」「知覚情報科学講究」を開講しています。
- ③特許取得・知的財産管理など実践的なテーマを習得したい場合には、博士前期課程開講の知財関連科目「科学技術コミュニケーション序論」「サイエンスマネジメント論」「特許出願の実際」「応用倫理学」「国際リトリート」を自由科目として取得することも可能です。
- ④先端的研究開発における計測科学・知識科学の実践として、光情報処理テクノロジー、地震ネットワーク科学、ヒューマン知識情報科学に関連する「集積情報科学講究」「知覚情報科学講究」が開講されています。
- ⑤物質システム科学に関する幅広い視野を持った研究者を育成するために、複数指導教員制（主指導教員1名、副指導教員2名）をとっています。
- ⑥「物質システム科学特別研究」では、博士論文完成のための研究指導を行います。研究テーマに従い研究指導教員から指導を受けると共に、副指導教員からもアドバイスを受けることにより研究における多角的な視野を養います。また2年次3月以降に、審査付論文一報が受理されていることを条件に、博士論文予備発表会を開催します。それにより、博士論文の進捗状況を把握し、所定の審査を合格した者に対して博士論文作成の資格を与え、審査結果をフィードバックすることで博士論文の質の向上を図ります。
- ⑦「物質システム科学特別演習」では、国際的にも質の高い研究論文・著書を数多く読みこなし、世界の研究の進展を把握し研究者としての視野を広げます。国内や国際学会への参加・研究発表を通じ、自らの研究発信とディスカッションからグローバルに活躍できる研究者としての資質を養います。

(2) 修了に必要な単位数

所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。修了者には博士（理学）の学位を授与します。

開講科目を次の表のように区分し、合計20単位以上の科目を必修あるいは選択して履修します。

科目区分	科目名	単位数	備考
必修科目	物質システム科学特別研究	8単位	合計18単位
	物質システム科学特別演習	6単位	
	物質システム科学研究序説Ⅰ	2単位	
	物質システム科学研究序説Ⅱ	2単位	
選択科目	物質システム科学専攻講究科目	各科目2単位	合計2単位以上 ※本学の他研究科(他専攻を含む)の授業科目を履修し、修得した場合2単位を上限として算入できます。

IV-1

3 授業科目表 博士後期課程 物質システム科学専攻

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位数			担当教員	備考
				必修	選択	自由		
必修科目	物質システム科学特別研究	1～3	集中	8			横山、橘、高見澤、篠崎、立川(仁)、島崎、ミケレット、及川、吉本、山田、本多、立川(正)、関本、大竹、板倉、荒船、若原、佐々木	必修科目 18単位
	物質システム科学特別演習	1～3	集中	6			横山、橘、高見澤、篠崎、立川(仁)、島崎、ミケレット、及川、吉本、山田、本多、立川(正)、関本、大竹、板倉、若原、佐々木、荒船	
	物質システム科学研究序説Ⅰ	1	前	2			横山、橘、高見澤、山田、吉本、大竹、板倉、荒船、若原	
	物質システム科学研究序説Ⅱ	1	後	2			本多、篠崎、島崎、ミケレット、及川、立川(正)、関本、佐々木	
選択科目	量子表面科学講究Ⅰ	1・2・3	前		2		休講	選択科目 2単位以上
	量子表面科学講究Ⅱ	1・2・3			2		横山	
	量子表面科学講究Ⅲ	1・2・3			2		大竹、板倉、荒船(*客員教授)	
	ナノ物質科学講究Ⅰ	1・2・3	前		2		橘	
	ナノ物質科学講究Ⅱ	1・2・3			2		休講	
	ナノ物質科学講究Ⅲ	1・2・3			2		休講	
	ナノ物質科学講究Ⅳ	1・2・3	後		2		高見澤	
	ナノ物質科学講究Ⅴ	1・2・3			2		若原(*客員教授)	
	光物質科学講究Ⅰ	1・2・3			2		休講	
	光物質科学講究Ⅱa	1・2・3	後		2		篠崎	

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位数			担当教員	備 考
				必修	選択	自由		
選択科目	光物質科学講究Ⅱb	1・2・3	前		2		山田	選択科目 2単位以上
	物質計測科学講究Ⅰa	1・2・3	後		2		関本	
	物質計測科学講究Ⅰb	1・2・3	前		2		本多	
	有機物質科学講究Ⅰ	1・2・3			2		休講	
	有機物質科学講究Ⅱ	1・2・3	後		2		及川	
	計算物質科学講究Ⅰ	1・2・3	後		2		立川(仁)	
	計算物質科学講究Ⅱ	1・2・3	集中		2		島崎	
	計算物質科学講究Ⅲ	1・2・3	集中		2		佐々木(**客員教授)	
	集積情報科学講究Ⅰ	1・2・3	後		2		吉本	
	知覚情報科学講究Ⅰ	1・2・3	後		2		ミケレット	
	生物物理学講究Ⅰ ^{※1}	1・2・3	後		2		立川(正)	
	マテリアルインフォマティクス ^{※1}	1・2・3	前(前)		1		島崎、立川(仁)	医学研究科 開講科目
	バイオインフォマティクス	1・2・3	集中		1		ラミロフスキー・ジョーダン	
	博士論文	3	集中	0			主指導教員	
自由科目	科学技術コミュニケーション序論	1・2・3	前(後)			1	高山(非常勤)	
	サイエンスマネジメント論	1・2・3	集中			1	赤池(非常勤)	
	特許出願の実際	1・2・3	集中			1	水谷(非常勤)	
	応用倫理学	1・2・3	前(前)			1	小館(非常勤)	
	国際リトリート	1・2・3	集中			1	立川(仁)	
	インターンシップ	1・2・3	集中			2	立川(仁)	
	大学院・キャリア形成実習 (横浜の産業と企業理解) ^{※2}	1・2・3	集中(前)			1	キャリア支援センター長・河瀬	
	大学院・日本語科目 ^{※2}							
	※「Ⅶ 大学院日本語科目」を確認							

* 物質・材料研究機構 **NTT 物性科学基礎研究所

※1 令和4年度以降入学者のみ履修可能です。

※2 留学生・帰国生のみ履修可能です。

4 担当教員の研究分野と研究課題 博士後期課程 物質システム科学専攻

教 員 名	研 究 分 野	研 究 課 題
荒船 竜一* (大学院客員教授) Arafune.Ryuichi@nims.go.jp	表 面 分 光	①レーザー光電子分光を用いた表面におけるスピン軌道相互作用のダイナミクス ②高分解能表面ダイナミクス測定を目指した仕事関数測定法の開発 ③表面を用いた非相反応の研究
板倉 明子* (大学院客員教授) ITAKURA.Akiko@nims.go.jp	表 面 科 学	①有機薄膜の機械特性 ②光、電子線照射下の構造解析と弾性特性 ③超薄膜機械特性測定装置の開発
及川 雅人 moikawa@yokohama-cu.ac.jp http://oiklab.sci.yokohama-cu.ac.jp/	生 物 有 機 化 学	①中枢神経系の受容体に特異的に作用する天然物および類縁体の多様性指向型有機合成 ②抗体作製を目指した海産毒の有機合成
大竹 晃浩* (大学院客員教授) OHTAKE.Akihiro@nims.go.jp	表 面 科 学	①化合物半導体表面の構造解析 ②半導体ヘテロ接界面の構造評価 ③量子ドット自己形成機構の解明
佐々木 健一** (大学院客員教授) ke.sasaki@ntt.com http://www.brl.ntt.co.jp/people/sasaki.kenichi/public_html/index.html	物 性 理 論	①グラフェンにおける電子物性、シミュレーション
篠崎 一英 shino@yokohama-cu.ac.jp http://in_photo.sci.yokohama-cu.ac.jp/	無 機 光 化 学	①高効率発光材料の開発と発光性分子を用いたセンシング ②光などの刺激によって駆動する分子バネ ③均一系・不均一系光触媒の反応機構の解明
島崎 智実 tshima@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~tachi/	理 論 計 算 化 学・ 情 報 化 学	①シミュレーションを用いた(特に『ものづくり』に必要とされる)有機材料の物性解析 ②材料の物性解析に必要とされる理論・シミュレーション技術の研究・開発 ③材料開発に役立つ情報科学的手法の研究
関本 奏子 sekimoto@yokohama-cu.ac.jp http://masspecs.sci.yokohama-cu.ac.jp/	大 気 イ オン 化 学	①大気圧プラズマの基礎過程の解明と質量分析用イオン源への応用 ②大気中イオン分子反応の解析 ③大気中揮発性有機化合物の環境動態解析
高見澤 聡 staka@yokohama-cu.ac.jp http://nanochem.sci.yokohama-cu.ac.jp	無 機 化 学	①遷移金属化合物の合成と物性研究 ②ガス包接結晶の構造化学的研究 ③超分子固体の多重物性の探索
立川 正志 tachikawa.mas.ba@yokohama-cu.ac.jp	理 論 生 物 物 理 学	①細胞内構造の形成シミュレーション ②物理に基づく生体機能発現のメカニズムの理解 ③生き物が生み出す『かたち』の研究

IV-1

教 員 名	研 究 分 野	研 究 課 題
立川 仁典 tachi@yokohama-cu.ac.jp http://tachi.sci.yokohama-cu.ac.jp/	量子物理化学	①高精度な第一原理計算手法の開発 ②水素系量子シミュレーション手法の開発 ③生体分子シミュレーション、機能性材料の理論設計 ④陽電子化合物の理論研究
橘 勝 tachiban@yokohama-cu.ac.jp http://nanomate.sci.yokohama-cu.ac.jp/	材料物性科学	①ナノカーボンの生成と物性 ②分子性有機結晶(タンパク質を含む)の育成と物性 ③X線トポグラフィとラマン分光法による構造評価
本多 尚 hhonda@yokohama-cu.ac.jp http://honda.sci.yokohama-cu.ac.jp/	物性物理化学	①柔粘性結晶や液晶中の分子運動と分子間相互作用 ②機能性高分子の物性評価と固体材料への応用 ③多孔性材料に吸着したゲスト分子の吸着状態 ④水素結合におけるH/D同位体効果と固体物性
山田 重樹 shigeki@yokohama-cu.ac.jp http://syamada.sci.yokohama-cu.ac.jp/index.html	固体物理学・ 電磁気学	①強相関電子系材料の探索および結晶育成 ②①の磁性および電子物性の測定
横山 崇 tyoko@yokohama-cu.ac.jp http://nano.sci.yokohama-cu.ac.jp/	表面・ ナノ構造物性科学	①表面上での分子ナノ構造制御 ②極低温STMを用いた表面量子ナノ物性計測 ③分子ナノ構造からのトンネル電子励起発光計測
吉本 和生 k_yoshi@yokohama-cu.ac.jp http://quake.sci.yokohama-cu.ac.jp/	固体地球物理学	①地震波の伝播過程における減衰と散乱 ②地球内部構造の不均質性とその波動論的作用 ③地盤構造とその地震波の増幅特性
若原 孝次* (大学院客員教授) WAKAHARA.Takatsugu@nims.go.jp http://www.nims.go.jp/fullerene/index/index.html	有機材料科学	①ナノ炭素材料の化学 ②有機ナノ結晶の合成と物性解明 ③ナノサイズの有機デバイスの作製
Ruggero Micheletto ruggero@yokohama-cu.ac.jp http://ruggero.sci.yokohama-cu.ac.jp	光・知覚情報科学	①半導体材料の光学特性(近接場走査型顕微鏡) ②光学バイオセンサー ③知覚情報科学

* 物質・材料研究機構 **NTT 物性科学基礎研究所

IV-2

**生命ナノシステム科学研究科
生命環境システム科学専攻
博士前期課程・後期課程**

博士前期課程

1 教育研究の目的

生命の基本設計図であるゲノムを基盤として、多様な生命現象を生体物質の構造と機能から理解する教育を行います。基礎的理論を理解すると共に、先端的技術を習得できる教育を行います。また知識・手法を融合的な生命システム科学として統合した教育を進めます。ミクロからマクロにおよぶ地球規模の幅広い生命科学に対応できる人材の育成をめざします。また、基本原理を積極的に社会に応用できる人材を輩出するために、科学行政論・知的財産論などの教育を行い、技術応用や起業化への実際の展開を教育します。

2 履修方法

(1) カリキュラム構成

- ①各専攻の共通科目として「生命ナノシステム科学総論」を設け、専攻を超えた教員によるオムニバス授業を開講します。また、研究計画を立案し、得られた研究成果をわかりやすく英語でプレゼンテーションする能力を身につけるため、選択必修科目B「英語プレゼンテーション技術」を開講します。
- ②分子生物学、分子生理学、形態学、生態学、情報生物学の基礎的な実験技術を習得するために、4つの実習科目「生物機能実習」「生体解析実習」「生命情報実習」「極限環境実習」を選択必修科目Bとして開講します。
- ③生命環境システム科学を理解する基礎となる「生命環境システム科学概説（Ⅰ）～（Ⅱ）」を必修科目、「生命環境システム科学概説（Ⅲ）～（Ⅳ）」を選択必修科目Aとして開講します。
また、先端的研究への展開をはかるため、理化学研究所、海洋研究開発機構と連携した科目が開講されています。さらに生命科学における倫理規範を教授するために「応用倫理学」を、また科学技術行政、バイオ知財管理やキャリアデザインを教授するために「科学技術行政特論」「バイオ知財管理特論」「科学技術コミュニケーション序論」をそれぞれ開講します。
- ④選択科目として、各部門から複数の生命環境システム科学特論を開講します。
- ⑤「生命環境システム科学特別研究」では学位論文（修士論文）完成のための研究指導を行います。研究テーマに従い研究指導教員から指導を受けると共に、副指導教員からもアドバイスを受けることにより、研究における多角的な視野を養います。また、2年次前期に中間発表会を開催し、修士論文の進捗状況を把握し、フィードバックすることで修士論文の質の向上を図ります。
- ⑥「生命環境システム科学特別演習」では、英文科学雑誌のレビューや輪読などによりプレゼンテーションや外国語能力を養うと共に、国際的な観点から研究の動向や進展を把握し研究人としての視野を広めます。さらに、自らの研究テーマとの関連性や位置づけなども学びます。
- ⑦グローバルな先端的研究に対応できる人材の育成のため「国際リトリート」を開講し、海外での研究発表、能力の向上を図ります。
- ⑧科学指導を広く社会で行うために、「教科指導の研究」「理科教育ケーススタディ」を自由科目として開講します。

(2) 修了に必要な単位数

所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。修了者には、修士（理学）を授与します。

開講科目を次の表のように区分し、合計30単位以上の科目を必修あるいは選択して履修します。

科目区分	科目名	単位数	備 考
必修科目	生命ナノシステム科学総論	2 単位	合計18単位
	生命環境システム科学特別研究	8 単位	
	生命環境システム科学特別演習	4 単位	
	生命環境システム科学概説Ⅰ	2 単位	
	生命環境システム科学概説Ⅱ	2 単位	
選択必修科目A	生命環境システム科学概説Ⅲ	2 単位	2 単位以上
	生命環境システム科学概説Ⅳ	2 単位	
選択必修科目B	英語プレゼンテーション技術Ⅰ・Ⅱ	各 2 単位	2 単位以上
	生物機能実習	1 単位	1 単位以上
	生体解析実習	1 単位	
	生命情報実習	1 単位	
	極限環境実習	1 単位	
選択必修科目C	科学技術コミュニケーション序論	1 単位	2 単位以上
	科学技術行政特論	1 単位	
	バイオ知財管理特論	1 単位	
	応用倫理学	1 単位	
選択科目	生命環境システム科学専攻特論科目	各 1 単位	5 単位以上 ※選択必修科目Aのうち必要単位数を超えて修得した科目を含めることができます。 ※本学の他研究科(他専攻を含む)の授業科目を履修し、修得した場合、8単位を上限として算入できます。単位互換制度・交換講義により認められている単位を含めることができます。

3 授業科目表 博士前期課程 生命環境システム科学専攻

科目区分	授業科目の名称	教職 マーク	履修 年次	期間	単位数				担当教員	備 考
					必修	選択 必修	選択	自由		
必修科目	生命ナノシステム科学総論	専修	1	前(前)	2				立川(仁)、橘、山田、石川、坂、足立、木下、三輪、関	18単位必修
	生命環境システム科学特別研究		1～2	集中	8				足立、内山、大関、カナリー、川浦、木下、杳名、小島、佐藤、塩田、嶋田、辻、坂、東、藤井、丸山、関、布浦、岡本、三輪、持田、林、車、山本、リンズィー、萩原	
	生命環境システム科学特別演習	専修	1～2	集中	4				足立、一色、内山、大関、カナリー、川浦、木下、杳名、小島、佐藤、塩田、嶋田、辻、坂、東、藤井、丸山、関、布浦、岡本、三輪、持田、林、山本、リンズィー、車、萩原	
	生命環境システム科学概説Ⅰ	専修	1	前(前)	2				○川浦、一色、足立、木下、辻、坂、岡本	
	生命環境システム科学概説Ⅱ	専修	1	前(前)	2				○大関、杳名、塩田、車、布浦、持田、萩原	
選択必修科目A	生命環境システム科学概説Ⅲ	専修	1	前(前)	2				○藤井、カナリー、嶋田、丸山、関、三輪、林	2単位以上
	生命環境システム科学概説Ⅳ	専修	1	前(前)	2				○佐藤、内山、小島、東、山本、リンズィー	
選択必修科目B	英語プレゼンテーション技術Ⅰ		1	集中	2				○嶋田、一色、川浦、木下、辻、坂、丸山、関、岡本、持田、林、萩原	2単位以上
	英語プレゼンテーション技術Ⅱ		1	集中	2				○佐藤、足立、内山、大関、カナリー、小島、杳名、車、塩田、東、藤井、布浦、三輪、山本、リンズィー	
	生物機能実習		1	集中	1				○川浦、一色、辻、丸山、殿崎	1単位以上
	生体解析実習		1	集中	1				○塩田、杳名、守、中島	
	生命情報実習		1	集中	1				○関、岡本、持田、林、萩原	
	極限環境実習		1	集中	1				○三輪、車、布浦、山本、リンズィー	
選択必修科目C	科学技術コミュニケーション序論 ^{*1}		1・2	前(後)	1				高山 光男(非常勤)	2単位以上
	科学技術行政特論		1・2	集中	1				赤池 伸一(非常勤)	
	バイオ知財管理特論		1・2	集中	1				隅藏 康一(非常勤)	
	応用倫理学		1・2	前(前)	1				小館 貴幸(非常勤)	

科目区分	授業科目の名称	教職 マーク	履修 年次	期間	単位数				担当教員	備 考
					必 修	選 択 必 修	選 択	自 由		
選 択 科 目	ゲノム科学特論Ⅰ	専修	1・2				1		休講	5 単位以上 ※選択必修科目 Aのうち必要単位 数を超えて修得し た科目を含めるこ とができます。 ※本学の他研究 科(他専攻を含 む)の授業科目を 履修し、修得した 場合、8 単位を上 限として算入でき ます。単位互換制 度・交換講義によ り認められている 単位を含めること ができます。
	ゲノム科学特論Ⅱ	専修	1・2	集中			1		岡本 昌憲(**客員教授)	
	ゲノム科学特論Ⅲ	専修	1・2	集中			1		関 原明(**客員教授) 上田 実(非常勤) 内海 好規(非常勤)	
	ゲノム科学特論Ⅳ	専修	1・2	後(前)			1		川浦香奈子	
	遺伝資源科学特論Ⅰ	専修	1・2	前(後)			1		坂 智広	
	遺伝資源科学特論Ⅱ	専修	1・2	集中			1		萩原 伸也(**客員教授)	
	遺伝資源科学特論Ⅲ	専修	1・2	前(後)			1		辻 寛之	
	応用ゲノム科学特論Ⅰ	専修	1・2	後(前)			1		嶋田 幸久	
	応用ゲノム科学特論Ⅱ	専修	1・2	集中			1		持田 恵一(**客員教授)	
	応用ゲノム科学特論Ⅲ	専修	1・2	後(前)			1		木下 哲	
	応用ゲノム科学特論Ⅳ ^{※1}	専修	1・2	集中			1		林 誠(**客員教授)	
	応用ゲノム科学特論Ⅴ ^{※1}		1・2	前(後)			1		丸山 大輔	
	極限環境ゲノム科学特論Ⅰ	専修	1・2	集中			1		三輪 哲也(*客員教授)	
	極限環境ゲノム科学特論Ⅱ	専修	1・2	集中			1		山本 正浩(*客員准教授)	
	極限環境ゲノム科学特論Ⅲ	専修	1・2	集中			1		布浦 拓郎(*客員教授)	
	極限環境ゲノム科学特論Ⅳ	専修	1・2	集中			1		リンズー デュガル J. (*客員教授)	
	極限環境ゲノム科学特論Ⅴ	専修	1・2	集中			1		車 兪澈(*客員准教授)	
	バイオプロダクト科学特論Ⅰ	専修	1・2	後(前)			1		大関 泰裕	
	バイオプロダクト科学特論Ⅱ	専修	1・2	後(前)			1		カナリー ロバート	
	バイオプロダクト科学特論Ⅲ	専修	1・2				1		休講	
	バイオプロダクト科学特論Ⅳ		1・2				1		休講	
	環境システム科学特論Ⅰ	専修	1・2				1		休講	
	環境システム科学特論Ⅱ	専修	1・2				1		休講	
	環境システム科学特論Ⅲ	専修	1・2	前(後)			1		東 昌市	
	環境システム科学特論Ⅳ	専修	1・2	後(前)			1		藤井 道彦	
	発生システム制御科学特論Ⅰ	専修	1・2	前(後)			1		佐藤 友美	
	発生システム制御科学特論Ⅱ	専修	1・2	後(前)			1		内山 英穂	
	発生システム制御科学特論Ⅲ	専修	1・2	後(前)			1		小島 伸彦	
	発生システム制御科学特論Ⅳ		1・2				1		休講	
	分子細胞ネットワーク科学特論Ⅰ	専修	1・2	前(後)			1		足立 典隆	
	分子細胞ネットワーク科学特論Ⅱ	専修	1・2	前(後)			1		塩田 肇	
	分子細胞ネットワーク科学特論Ⅲ	専修	1・2	後(前)			1		杳名 伸介	
	分子細胞ネットワーク科学特論Ⅳ		1・2				1		休講	
	大学院特別講義		1・2				1		休講	
	インターンシップ		1・2	集中			1		足立 典隆	
	国際リトリート		1・2	集中			1		足立 典隆	
	マテリアルインフォマティクス ^{※1}		1・2	前(前)			1		島崎、立川(仁)	
	バイオインフォマティクス		1・2	集中			1		ラミロフスキー・ジョーダン	

科目区分	授業科目の名称	教職 マーク	履修 年次	期間	単位数				担当教員	備 考
					必修	選択 必修	選択	自由		
	修士論文		2	集中		0			主指導教員	
自由 科目	教科指導の研究	専修	1・2	後				2	田中 保樹(非常勤)	15回開講
	理科教育ケーススタディ	専修	1・2	後				2	田中 保樹(非常勤)	15回開講
	大学院・キャリア形成実習 (横浜の産業と企業理解) ^{※2}		1・2	集中(前)				1	キャリア支援センター長・ 河瀬恵子	
	大学院・日本語科目 ^{※2} ※「Ⅶ 大学院日本語科目」を確認									

* 海洋研究開発機構 ** 理化学研究所

※1 令和4年度以降入学者のみ履修可能です。

※2 留学生・帰国生のみ履修可能です。

4 担当教員の研究分野と研究課題 博士前期課程 生命環境システム科学専攻

教 員 名	研 究 分 野	研 究 課 題
足立 典隆 nadachi@yokohama-cu.ac.jp http://dnar.sci.yokohama-cu.ac.jp	分子生物学・生命薬学	①ゲノム損傷と修復の分子機構 ②疾患モデルヒト細胞の構築と解析 ③高効率ヒト遺伝子破壊技術の開発
内山 英穂 hideho@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~lifeenv/index.php?id=10	再生発生学	①動物胚における分化・器官形成機構 ②未分化細胞や胚性幹細胞の分化制御 ③in vitroにおける器官形成
大関 泰裕 ozeki@yokohama-cu.ac.jp https://researchmap.jp/1124/	糖鎖生物学	①レクチンと糖鎖の多様な細胞調節 ②海棲無脊椎動物レクチンの改変 ③レクチンの医・農利用技術
岡本 昌憲** (大学院客員教授) okamo@riken.jp http://www.csr.s.riken.jp/jp/labs/pcgrt/index.html	植物化学遺伝学	①植物ホルモン作用の分子機構解明 ②コムギの耐乾性および耐病性の分子機構解明 ③植物分子育種
川浦 香奈子 kawaura@yokohama-cu.ac.jp http://pgenome.sci.yokohama-cu.ac.jp/	植物ゲノム科学	①コムギを中心とした植物の遺伝子発現制御機構の解析 ②種子貯蔵タンパク質遺伝子のゲノム解析
木下 哲 tkinoshi@yokohama-cu.ac.jp http://epigenome.jp/	植物エピゲノム科学	①植物におけるゲノムインプリンティングの制御機構 ②穀類胚乳の生殖隔離機構
杓名 伸介 kutsuna@yokohama-cu.ac.jp http://rhythms.sci.yokohama-cu.ac.jp/	時間生物学	①ラン藻の生物時計タンパク質 ②花卉運動突然変異体の遺伝子解析
車 兪澈* (大学院客員准教授) ykuruma@jamstec.go.jp https://members.elsi.jp/%7Ekuruma/reserch.html	合成生物学・生化学	①人工細胞の構築 ②生命の起源 ③試験管内膜タンパク質合成系による創薬基盤研究
小島 伸彦 nobuhiko@yokohama-cu.ac.jp http://regenbio.sci.yokohama-cu.ac.jp/	再生生物学	①ヒトiPS細胞などを用いた創薬用ミニチュア臓器の作製 ②再生医療に適した臓器デザインの開発
佐藤 友美 tomomi@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~lifeenv/index.php?id=18	内分泌学	①マウス生殖腺に対する性ホルモン、環境ホルモンの作用機構 ②生殖腺附属器官の組織分化機構
塩田 肇 hshiota@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~lifeenv/index.php?id=20	植物発生生理学	①植物の胚発生と休眠の生理機構 ②植物の水分調節機構 ③海草の種子休眠と発芽の生理機構

教 員 名	研 究 分 野	研 究 課 題
嶋田 幸久 yshimada@yokohama-cu.ac.jp http://pbitech.sci.yokohama-cu.ac.jp	植 物 生 理 学 (植物ホルモン、環境応答) 植 物 ゲ ノ ム 科 学	①植物ホルモン(オーキシンとブラシノステロイド)の機能解析 ②植物の環境応答制御機構 ③モデル植物シロイヌナズナのトランスクリプトーム解析
関 原明** (大学院客員教授) motoaki.seki@riken.jp http://www.csr.s.riken.jp/jp/labs/pgnrt/index.html	植物ゲノム科学・植物分子生物学	①植物の環境ストレス適応に関与するエピゲノム・RNA・ペプチド・化学制御機構の解明 ②化合物などの活用による新たな有用植物(環境ストレス耐性など)の創出法の開発 ③キャッサバにおける塊根形成制御ネットワークの解明および生産性向上などの有用植物の創出法の開発
辻 寛之 tsujih@yokohama-cu.ac.jp http://pgsource.sci.yokohama-cu.ac.jp http://hiroyukitsuji.tumblr.com	植物分子遺伝学・分子発生学	①花芽分化の決定因子・フロリゲンの分子機能を解明し植物改良へ展開する ②植物遺伝資源の多様性を分子レベルで理解・応用する
布浦 拓郎* (大学院客員教授) takuron@jamstec.go.jp http://www.jamstec.go.jp/rcmb/j/member/nunoura_takuro.html	微 生 物 生 態 学	①海洋及び地下環境における微生物・ウイルス生態研究
萩原 伸也** (大学院客員教授) hagi@riken.jp http://molecular-bioregulation.riken.jp/index.html	化 学 生 物 学	①植物育種を迅速化する化合物の探索 ②植物生理機能の精密制御 ③植物材料を用いた物質生産
林 誠** (大学院客員教授) makoto.hayashi@riken.jp http://www.csr.s.riken.jp/jp/labs/psrt/index.html	植 物 共 生 科 学	①根粒共生の分子機構 ②共生の進化におけるゲノム機能 ③根粒共生能の穀物への賦与
坂 智広 tban@yokohama-cu.ac.jp http://pgsource.sci.yokohama-cu.ac.jp	植 物 遺 伝 育 種 学	①植物遺伝資源の多様性解析と育種的利用 ②コムギ病害抵抗性の遺伝育種学研究及び病原菌との相互作用メカニズムの解析 ③国際農業研究機関との連携による国際共同研究ネットワークの推進
東 昌市 shigashi@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~lifeenv/index.php?id=24	生化学・タンパク質化学・酵素学	①癌細胞が分泌するタンパク質分解酵素(プロテアーゼ)の活性調節機構の解明 ②プロテアーゼの作用機序を応用した癌の抗転移剤の開発
藤井 道彦 mifuji@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~lifeenv/index.php?id=26	分 子 生 物 学	①酸化ストレス防御機構の解析 ②細胞老化誘導機構の解析
丸山 大輔 dmaru@yokohama-cu.ac.jp	植 物 生 殖 細 胞 生 物 学	①花粉管における細胞核輸送機構の研究 ②重複受精時の細胞骨格や膜構造の動態解析 ③被子植物の細胞核や細胞膜の融合の研究

教 員 名	研 究 分 野	研 究 課 題
三輪 哲也* (大学院客員教授) miwat@jamstec.go.jp http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/ems/miwa.html	極 限 環 境 生 物 学・ 生 物 電 気 化 学・ コ ロ イ ド 界 面 化 学・ 生 物 物 理 学	①深海生物の飼育と捕獲装置開発 ②多細胞生物の深海環境応答機構の解析 ③深海環境の生物電気化学
持田 恵一** (大学院客員教授) keiichi.mochida@riken.jp http://www.riken.jp/bmep/teams/biomass_research_platform/index.html	ゲ ノ ム 情 報 科 学	①オミックス情報を活用した植物の有用遺伝子探索と作物育種への応用 ②バイオマス植物の研究基盤の構築と利用による植物バイオマス生産性の向上 ③バイオマス生産に関する細胞システムの理解による植物バイオマス利用性の向上
山本 正浩* (大学院客員准教授) myama@jamstec.go.jp http://www.jamstec.go.jp/sugar/j/members/personal/MasahiroYamamoto.html	微 生 物 生 化 学 微 生 物 電 気 化 学 宇 宙 生 物 学	①深海環境の微生物代謝学 ②地球-生命間の電氣的相互作用 ③生命の起源
Robert A. Kanaly kanaly@yokohama-cu.ac.jp	環境微生物学・分子毒性学	①環境毒物分解微生物の探索とバイオレメディエーション応用 ②環境汚染物質が起こす細胞内DNA修飾異とその網維解析
Dhugal Lindsay* (大学院客員教授) dhugal@jamstec.go.jp https://www.researchgate.net/profile/Dhugal_Lindsay	深 海 浮 遊 生 物 生 態 学	①深海の浮遊性生物の採捕と分類 ②深海浮遊性生物の生態解析 ③中深層の構造解析と食物連鎖

* 海洋研究開発機構 ** 理化学研究所

博士後期課程

1 教育研究の目的

博士後期課程では、生命環境システム科学研究をさらに発展させ、社会に展開できる指導的人材を育成します。アカデミックな活動ばかりでなく、企業の研究職や自らベンチャー起業できる人材の育成をめざします。生命の設計図である生命環境に立脚し、設計図に基づいて生合成された生体物質の構造と機能を深く理解し、融合的な生命科学分野に展開する優れた研究人を育成します。国際的な研究機関との連携のもと外国人留学生を積極的に受け入れ、産学連携および国際共同研究や院生の交流を活発化し、国際的にも活躍できる優れた研究者人材を育成します。

2 履修方法

(1) カリキュラム構成

- ①生命環境システム科学研究の基盤となる生命科学の修得とそれらを社会・産業へ応用できる人材育成のために、「生命環境システム科学特別講義」を必修科目として開講しています。
- ②大学や企業における研究戦略、それに基づいた研究成果をマネージするための基礎知識を習得することを目的とした、「科学技術行政特論」「バイオ知財管理特論」「応用倫理学」「科学技術コミュニケーション序論」を自由科目として開講します。
- ③また、海外の大学や研究所の研究者との学術交流を図ることを目的とした「国際リトリート」を自由科目として開講します。
- ④高度に専門化した選択科目として、複数の生命環境システム科学講義を開講します。
- ⑤生命環境システム科学に関する幅広い視野を持った研究者を育成するために、複数指導教員制(主指導教員1名、副指導教員2名)により、すべての学生が市大専任教員と連携大学院からの客員教員のいずれかからも指導を受けられる体制となっています。
- ⑥「生命環境システム科学特別研究」では、博士論文完成のための研究指導を行います。研究テーマに従い研究指導教員から指導を受けると共に、副指導教員からもアドバイスを受けることにより研究における多角的な視野を養います。また2年次3月以降に、審査付論文一報が受理されていることを条件に、博士論文予備発表会を開催します。それにより、博士論文の進捗状況を把握し、所定の審査を合格した者に対して博士論文作成の資格を与え、審査結果をフィードバックすることで博士論文の質の向上を図ります。
- ⑦「生命環境システム科学特別演習」では、国際的にも質の高い研究論文・著書を数多く読みこなし、世界の研究の進展を把握し研究者としての視野を広げます。国内や国際学会への参加・研究発表を通じ、自らの研究発信とディスカッションからグローバルに活躍できる研究者としての資質を養います。

(2) 修了に必要な単位数

開講科目を次の表のように区分し、合計20単位以上の科目を必修あるいは選択して履修します。

科目区分	科 目 名	単 位 数	備 考
必修科目	生命環境システム科学特別研究	8 単位	合計18単位
	生命環境システム科学特別演習	6 単位	
	生命環境システム科学特別講義Ⅰ	2 単位	
	生命環境システム科学特別講義Ⅱ	2 単位	
選択科目	生命環境システム科学専攻講究科目	各科目 2 単位	合計 2 単位以上 ※本学その他研究科(他専攻を含む)の 授業科目を履修し、修得した場合、 2 単位を上限として算入できます。

3 授業科目表 博士後期課程 生命環境システム科学専攻

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位数			担当教員	備考
				必修	選択	自由		
必修科目	生命環境システム科学特別講義Ⅰ	1	集中	2			川 浦、岡 本、関、嶋 田、木下、辻、坂、丸山、持田、林、萩原	18単位必修
	生命環境システム科学特別講義Ⅱ	1	集中	2			川浦、佐藤、大関、カナリー、内山、足立、小島、東、藤井、三輪、布浦、山本、リンズイー	
	生命環境システム科学特別研究	1～3	集中	8			足立、内山、大関、カナリー、川浦、木下、小島、佐藤、嶋田、辻、坂、東、藤井、関、布浦、林、岡本、丸山、三輪、持田、山本、リンズイー、萩原	
	生命環境システム科学特別演習	1～3	集中	6			足立、内山、大関、カナリー、川浦、木下、杳名、小島、佐藤、塩田、嶋田、辻、坂、東、藤井、関、布浦、丸山、林、岡本、三輪、持田、山本、リンズイー、萩原	
選択科目	ゲノム科学講究Ⅰ	1・2・3			2		休講	2 単位以上
	ゲノム科学講究Ⅱ	1・2・3	集中		2		岡本 昌憲(**客員教授)	
	ゲノム科学講究Ⅲ	1・2・3	集中		2		関 原明(**客員教授)	
	ゲノム科学講究Ⅳ	1・2・3	前		2		川浦香奈子	
	遺伝資源科学講究Ⅰ	1・2・3	後		2		坂 智広	
	遺伝資源科学講究Ⅱ	1・2・3	集中		2		萩原 伸也(**客員教授)	
	遺伝資源科学講究Ⅲ	1・2・3	前		2		辻 寛之	
	応用ゲノム科学講究Ⅰ	1・2・3	後		2		嶋田 幸久	
	応用ゲノム科学講究Ⅱ	1・2・3	集中		2		持田 恵一(**客員教授)	
	応用ゲノム科学講究Ⅲ	1・2・3	前		2		木下 哲	
	応用ゲノム科学講究Ⅳ	1・2・3	集中		2		林 誠(**客員教授)	
	応用ゲノム科学講究Ⅴ	1・2・3	後		2		丸山 大輔	
	極限環境ゲノム科学講究Ⅰ	1・2・3	集中		2		三輪 哲也(*客員教授)	
	極限環境ゲノム科学講究Ⅱ	1・2・3	集中		2		山本 正浩(*客員准教授)	
	極限環境ゲノム科学講究Ⅲ	1・2・3	集中		2		布浦 拓郎(*客員教授)	
	極限環境ゲノム科学講究Ⅳ	1・2・3	集中		2		リンズイー デュガル J. (*客員教授)	
	極限環境ゲノム科学講究Ⅴ	1・2・3			2		休講	
	バイオプロダクト科学講究Ⅰ	1・2・3	後		2		大関 泰裕	
	バイオプロダクト科学講究Ⅱ	1・2・3	前		2		カナリー ロバート	
	バイオプロダクト科学講究Ⅲ	1・2・3			2		休講	
	バイオプロダクト科学講究Ⅳ	1・2・3			2		休講	
	環境システム科学講究Ⅰ	1・2・3			2		休講	
	環境システム科学講究Ⅱ	1・2・3			2		休講	
	環境システム科学講究Ⅲ	1・2・3	前		2		東 昌市	

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位数			担当教員	備 考
				必修	選択	自由		
選択科目	環境システム科学講究Ⅳ	1・2・3	前		2		藤井 道彦	2 単位以上
	発生システム制御科学講究Ⅰ	1・2・3	前		2		佐藤 友美	
	発生システム制御科学講究Ⅱ	1・2・3	後		2		内山 英穂	
	発生システム制御科学講究Ⅲ	1・2・3	後		2		小島 伸彦	
	発生システム制御科学講究Ⅳ	1・2・3			2		休講	
	分子細胞ネットワーク科学講究Ⅰ	1・2・3	後		2		足立 典隆	
	分子細胞ネットワーク科学講究Ⅱ	1・2・3			2		休講	
	分子細胞ネットワーク科学講究Ⅲ	1・2・3			2		休講	
	分子細胞ネットワーク科学講究Ⅳ	1・2・3			2		休講	
	マテリアルインフォマティクス	1・2・3	前(前)		1		島崎、立川(仁)	
	バイオインフォマティクス	1・2・3	集中		1		Jordan Ramilowski	医学研究科 開講科目
	博士論文	3	集中	0			主指導教員	
自由科目	国際リトリート	1・2・3	集中			1	足立 典隆	
	科学技術コミュニケーション序論	1・2・3	前(後)			1	高山 光男(非常勤)	
	科学技術行政特論	1・2・3	集中			1	赤池 伸一(非常勤)	
	バイオ知財管理特論	1・2・3	集中			1	隅藏 康一(非常勤)	
	応用倫理学	1・2・3	前(前)			1	小館 貴幸(非常勤)	
	インターンシップ	1・2・3	集中			2	足立 典隆	
	大学院・キャリア形成実習 (横浜の産業と企業理解) ^{※1}	1・2・3	集中(前)			1	キャリア支援センター長・ 河瀬恵子	
	大学院・日本語科目 ^{※1} ※「Ⅶ 大学院日本語科目」を確認							

* 海洋研究開発機構 ** 理化学研究所

※1 留学生・帰国生のみ履修可能です。

4 担当教員の研究分野と研究課題 博士後期課程 生命環境システム科学専攻

教 員 名	研 究 分 野	研 究 課 題
足立 典隆 nadachi@yokohama-cu.ac.jp http://dnar.sci.yokohama-cu.ac.jp	分子生物学・ 生 命 薬 学	①ゲノム損傷と修復の分子機構 ②疾患モデルヒト細胞の構築と解析 ③高効率ヒト遺伝子破壊技術の開発
内山 英穂 hideho@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~lifeenv/index.php?id=10	再 生 発 生 学	①動物胚における分化・器官形成機構 ②未分化細胞や胚性幹細胞の分化制御 ③in vitroにおける器官形成
大関 泰裕 ozeki@yokohama-cu.ac.jp https://researchmap.jp/1124/	糖 鎖 生 物 学	①レクチンと糖鎖の多様な細胞調節 ②海棲無脊椎動物レクチンの改変 ③レクチンの医・農利用技術
岡本 昌憲** (大学院客員教授) okamo@riken.jp http://www.csr.s.riken.jp/jp/labs/pcgrt/index.html	植物化学遺伝学	①植物ホルモン作用の分子機構解明 ②コムギの耐乾性および耐病性の分子機構解明 ③植物分子育種
川浦 香奈子 kawaura@yokohama-cu.ac.jp http://pgenome.sci.yokohama-cu.ac.jp/	植物ゲノム科学	①コムギを中心とした植物の遺伝子発現制御機構の解析 ②種子貯蔵タンパク質遺伝子のゲノム解析
木下 哲 tkinoshi@yokohama-cu.ac.jp http://epigenome.jp/	植物エピゲノム科学	①植物におけるゲノムインプリンティングの制御機構 ②穀類胚乳の生殖隔離機構
小島 伸彦 nobuhiko@yokohama-cu.ac.jp http://regenbio.sci.yokohama-cu.ac.jp/	再 生 生 物 学	①ヒトiPS細胞などを用いた創薬用ミニチュア臓器の作製 ②再生医療に適した臓器デザインの開発
佐藤 友美 tomomi@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~lifeenv/index.php?id=18	内 分 泌 学	①マウス生殖腺に対する性ホルモン、環境ホルモンの作用機構 ②生殖腺附属器官の組織分化機構
嶋田 幸久 yshimada@yokohama-cu.ac.jp http://pbiotech.sci.yokohama-cu.ac.jp	植 物 生 理 学 (植物ホルモン、 環 境 応 答) 植物ゲノム科学	①植物ホルモン(オーキシンとブラシノステロイド)の機能解析 ②植物の環境応答制御機構 ③モデル植物シロイヌナズナのトランスクリプトーム解析
関 原明** (大学院客員教授) motoaki.seki@riken.jp http://www.csr.s.riken.jp/jp/labs/pgnrt/index.html	植物ゲノム科学・ 植物分子生物学	①植物の環境ストレス適応に関与するエピゲノム・RNA・ペプチド・化学制御機構の解明 ②化合物などの活用による新たな有用植物(環境ストレス耐性など)の創出法の開発 ③キャッサバにおける塊根形成制御ネットワークの解明および生産性向上などの有用植物の創出法の開発
辻 寛之 tsujih@yokohama-cu.ac.jp http://pgsource.sci.yokohama-cu.ac.jp http://hiroyukitsuji.tumblr.com	植物分子遺伝学・ 分 子 発 生 学	①花芽分化の決定因子・フロリゲンの分子機能を解明し植物改良へ展開する ②植物遺伝資源の多様性を分子レベルで理解・応用する

教 員 名	研 究 分 野	研 究 課 題
布浦 拓郎* (大学院客員教授) takuron@jamstec.go.jp http://www.jamstec.go.jp/rcmb/j/member/nunoura_takuro.html	微生物生態学	①海洋及び地下環境における微生物・ウイルス生態研究
萩原 伸也** (大学院客員教授) hagi@riken.jp http://molecular-bioregulation.riken.jp/index.html	化 学 生 物 学	①植物育種を迅速化する化合物の探索 ②植物生理機能の精密制御 ③植物材料を用いた物質生産
林 誠** (大学院客員教授) makoto.hayashi@riken.jp http://www.csr.riken.jp/jp/labs/psrt/index.html	植物共生科学	①根粒共生の分子機構 ②共生の進化におけるゲノム機能 ③根粒共生能の穀物への賦与
坂 智広 tban@yokohama-cu.ac.jp http://pgsource.sci.yokohama-cu.ac.jp	植物遺伝育種学	①植物遺伝資源の多様性解析と育種利用 ②コムギ病害抵抗性の遺伝育種学研究及び病原菌との相互作用メカニズムの解析 ③国際農業研究機関との連携による国際共同研究ネットワークの推進
東 昌市 shigashi@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~lifeenv/index.php?id=24	生 化 学・ タンパク質化学・ 酵 素 学	①癌細胞が分泌するタンパク質分解酵素(プロテアーゼ)の活性調節機構の解明 ②プロテアーゼの作用機序を応用した癌の抗転移剤の開発
藤井 道彦 mifuji@yokohama-cu.ac.jp http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~lifeenv/index.php?id=26	分 子 生 物 学	①酸化ストレス防御機構の解析 ②細胞老化誘導機構の解析
丸山 大輔 dmaru@yokohama-cu.ac.jp	植物生殖細胞生物学	①花粉管における細胞核輸送機構の研究 ②重複受精時の細胞骨格や膜構造の動態解析 ③被子植物の細胞核や細胞膜の融合の研究
三輪 哲也* (大学院客員教授) miwat@jamstec.go.jp http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/ems/miwa.html	極限環境生物学 生物電気化学 コロイド界面化学 生 物 物 理 学	①深海生物の飼育と捕獲装置開発 ②多細胞生物の深海環境応答機構の解析 ③深海環境の生物電気化学
持田 恵一** (大学院客員教授) keiichi.mochida@riken.jp http://www.riken.jp/bmep/teams/biomass_research_platform/index.html	ゲノム情報科学	①オミックス情報を活用した植物の有用遺伝子探索と作物育種への応用 ②バイオマス植物の研究基盤の構築と利用による植物バイオマス生産性の向上 ③バイオマス生産に関する細胞システムの理解による植物バイオマス利用性の向上
山本 正浩* (大学院客員准教授) myama@jamstec.go.jp http://www.jamstec.go.jp/sugar/j/members/personal/MasahiroYamamoto.html	微生物生化学 微生物電気化学 宇 宙 生 物 学	①深海環境の微生物代謝学 ②地球-生命間の電氣的相互作用 ③生命の起源
Robert A. Kanaly kanaly@yokohama-cu.ac.jp	環境微生物学・ 分 子 毒 性 学	①環境毒物分解微生物の探索とバイオレメディエーション応用 ②環境汚染物質が起こす細胞内DNA修飾異とその網維解析
Dhugal Lindsay* (大学院客員教授) dhugal@jamstec.go.jp https://www.researchgate.net/profile/Dhugal_Lindsay	深海浮遊生物生態学	①深海の浮遊性生物の採捕と分類 ②深海浮遊性生物の生態解析 ③中深層の構造解析と食物連鎖

* 海洋研究開発機構 ** 理化学研究所

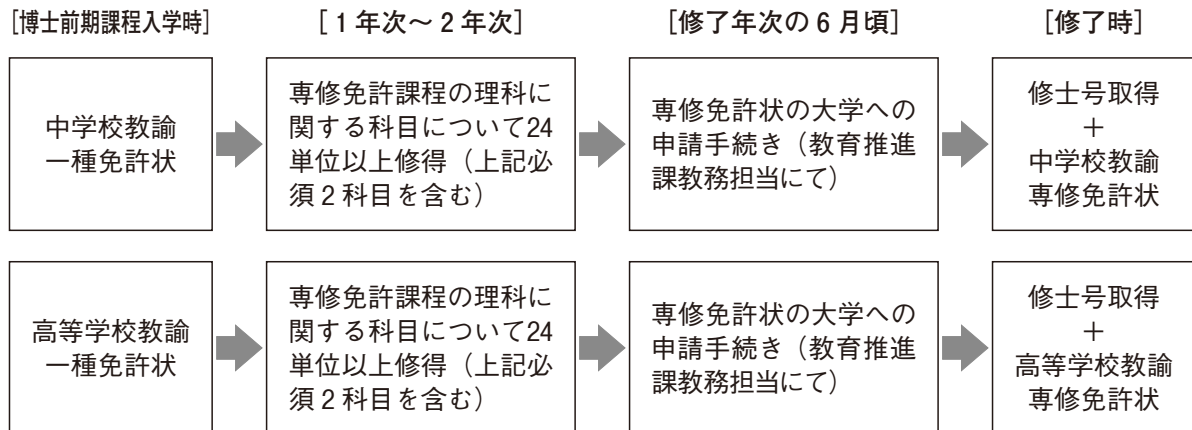
V

教職課程（専修免許状）について
生命ナノシステム科学研究科
物質システム科学専攻・生命環境システム科学専攻

教育職員養成課程

本研究科博士前期課程物質システム科学専攻（平成25年度以降入学者）、生命環境システム科学専攻（平成25年度以降入学者）の在学者は、以下の条件を満たせば、中学校及び高等学校教諭の専修免許状（理科）を取得できます。

- (1) 原則として、専修免許状申請時に、中学校又は高等学校の教諭一種免許状（理科）を取得しているか、又は同免許状の授与を受ける資格を有していること。
 - (2) 本研究科博士前期課程在学中に、専修免許課程の理科の教科に関する科目を24単位以上取得すること。
 - (3) 専修免許課程の理科の教科に関する科目は、授業科目表に「専修」と示してあります。
- ※【平成28年度以降入学者】「教科指導の研究」「理科教育ケーススタディ」は、専修免許状を取得するための必須科目です。



注意事項

- ①博士前期課程入学前に、中学校と高等学校の一種免許状を取得した（又は授与を受ける資格を得た）者は、専修免許課程の理科に関する科目を24単位取得すれば、中学校と高等学校の両方の専修免許状を申請することができます。
- ②専修免許状を得るためには、専修免許状申請時にその教科についての一種免許状を取得していなければなりません。（例えば、数学の一種免許状をもっている、理科の免許状をもっていなければ、理科の専修免許状を得ることはできません。）
- ③理科の専修免許状を取得しようとする場合、専修免許課程の理科に関する科目のうち、どの分野の科目であっても、修得した単位を合算して24単位以上になれば免許状を取得できます。ただし、平成28年度以降の入学者は「教科指導の研究」「理科教育ケーススタディ」を必ず含み、24単位以上を修得する必要があります。
- ④免許状の授与は神奈川県教育委員会が行っています。申請は、個人でもできますが、希望者には大学が代わって一括して申請しています。個人での申請ではなく、大学の一括申請で専修免許状取得希望者は修了年次の6月頃、教育推進課教務担当の窓口で申請・手続きを行う必要があります。

VI

データサイエンス研究科
博士前期課程・後期課程

1 学位論文の審査基準および手続き

博士前期課程（データサイエンス専攻・ヘルスデータサイエンス専攻）

<学位論文 審査基準>

1. 研究テーマの妥当性 学術的・社会的意義が認められる研究テーマが設定され、研究目的が明確であること。
2. 研究方法の適切性 研究方法が研究テーマ・目的に合致しており、データサイエンスにおける適切な手法を用いて資料や情報の収集、理論的展開や分析等が行われていること。
3. 論述・論旨の妥当性 既存の研究との関連性を明確に示し、データサイエンスの知見を生かした議論を論理的に展開した上で、説得力のある結論を導いていること。
4. 論文作成能力 学位論文の体裁、文章と数式の表現、図表を含むデータの示し方が適切であること。
5. 学識 データサイエンスに関する学識が十分であること。
6. 論文発表会における
内容・質疑応答 論文発表会での発表と質疑に対する応答が論理的かつ明解に行われること。

<学位申請ができる者>

1. 本学大学院学則に定める修業年限を満たし、かつ修了に必要な単位を修得していること（見込みを含む）。
2. 中間報告書を提出し、中間発表を行っていること。
3. 学位の申請について、研究指導教員の承認を得ていること。

<審査体制及び手続き>

1. 学位申請者は、研究科が指定する期間内に学位論文及び所定様式を提出する。
2. 申請者は、研究科主催の公開発表会で内容を発表し、最終試験を受ける。
3. 学位審査部会に審査委員会を設け、3名以上の本研究科教員で構成される審査委員会により審査を行う。
4. 学位審査部会は審査委員会から提出された評価判定に基づき合否判定を行い、研究科長に提出する。研究科長は研究科教授会の議を経て学位授与に値すると判定したときは、学位論文審査の結果を学長に報告する。

博士後期課程（データサイエンス専攻・ヘルスデータサイエンス専攻）

<学位論文 審査基準>

1. 研究テーマの妥当性 研究科の学位授与方針に照らして適切な、かつ学術的・社会的意義が認められる研究テーマが設定され、研究目的が明確であること。
2. 研究方法の適切性 研究方法が研究テーマ・目的に合致しており、適切な手法を用いて研究が行われていること。
3. 論述・論旨の妥当性 既存の研究との関連性を明確に示し、データサイエンスの知見を生かした議論を論理的に展開した上で、説得力のある結論を導いていること。
4. 論文作成能力 学位論文の体裁、文章と数式の表現、図表を含むデータの示し方が適切であること。
5. 独創性・新規性 研究成果に独創性・新規性があり、学術的・社会的意義が認められること。
6. 学会等への公表 研究成果が学会等で発表され、かつ学術雑誌において公刊される形で当該専門分野の専門家から評価を受けていること。
7. 学識 データサイエンスに関する学識が十分であること。
8. 論文発表会における内容・質疑応答 論文発表会での発表と質疑に対する応答が論理的かつ明解に行われること。

<課程博士 学位申請ができる者>

1. 本学大学院学則に定める修業年限を満たし、かつ修了に必要な単位を修得していること（見込みを含む）、または単位修得満期退学後2年以内であること。
2. 予備審査に合格していること。
3. 学位の申請について、研究指導教員の承認を得ていること。

<課程博士 学位論文の要件>

学位論文の主要部分が、審査委員制度が設けられている国際学術雑誌に、申請者を第一著者として英文で発表又は発表が決定されていること。

<課程博士 学位審査体制及び手続き>

1. 課程博士学位申請者は、研究科が指定する期間内に学位論文及び所定様式を提出する。
2. 申請者は、研究科主催の公開発表会で内容を発表する。
3. 学位審査部会の中に審査委員会を設け、4名以上(研究指導教員を含む場合は5名以上)の学位審査資格を持つ本研究科教員で構成される審査委員会により審査を行う。また、研究科が必要と認めたときは、外部委員を2名まで審査委員会に加えることができる。ただし原著論文の共同執筆者、親族その他関係者は審査委員となることができない。
4. 学位審査部会は、審査委員会から提出された評価判定により合否判定を行い、研究科長に提出する。研究科長は、研究科教授会の議を経て学位授与に値すると判定したときは、学位審査の結果を学長に報告する。

<論文博士 学位審査体制及び手続き>

1. 学位申請は随時受け付ける。
2. 論文博士については、課程博士の学位論文の要件を越える業績を必要とする。
3. 審査委員会は、5名以上の学位審査資格を持つ本研究科教員で構成する。
4. 研究科主催の公開発表会に先立ち、学位論文に関連する専門分野の科目及び英語について試験を行い、以降の審査については課程博士学位審査と同様に行う。

2 学位論文提出までの流れおよび学位申請

2-1 博士前期課程（データサイエンス専攻・ヘルスデータサイエンス専攻）

修士学位論文の審査及び最終試験以外の修了要件（2頁参照）を満たしている学生は、以下に説明する流れに沿って学位論文を提出してください。ここでは、その流れに加えて学位の申請、学位論文の保管、学位論文作成要領について説明します。

(1) 修士学位論文提出までの流れ

各項目については、必ず研究指導教員の承諾を受けてください。

2 年次	1 学位論文題目届の提出	4 月下旬
	2 中間報告書の提出	9 月下旬
	3 中間発表会	9 月下旬～10月上旬
	4 修士学位申請／学位論文の提出	1 月上旬
	5 修士学位論文発表会	2 月上旬
	6 学位授与(修了式)	3 月25日

※上記日程は予定となります。

※具体的な提出日や申請日については、巻末の「学位申請、発表会申込及び論文提出スケジュール」をご確認ください。

※対象：データサイエンス専攻

前期末（9月21日付）での修了及び学位申請手続きについては、5月頃にYCU-Boardより通知します。

(2) 学位の申請

下表に挙げる書類を学位論文提出時に教育推進課教務担当に提出してください。

詳細及び所定様式は別途、YCU-Boardより周知・配布します。

学位論文	審査用 3 部 学術情報センター用 1 部
論文内容要旨(日本語又は英語)	3 部
履歴書	1 通
提出票(所定様式)	1 通
学位申請書(所定様式)	1 通
修了見込証明書	1 通
「APRIN eラーニングプログラム」修了証	1 通
学位論文公開・複写許諾書(学術情報センター提出用)	1 通
研究指導教員の承認書	1 通

(3) 学位論文の保管

学位審査に合格した学生の学位論文は、本学金沢八景キャンパス学術情報センターで保管・公開します。

保管・公開用論文の製本は、教育推進課で一括して行う予定です。

(4) 学位論文作成要領

学位論文と論文内容要旨の作成要領を下表に示します。

修了年度の11月下旬に学位申請の詳細に関して改めて周知するので、あわせて確認してください。

	作成規定	内容と注意
学位論文	①用紙：A4 ②言語：日本語又は英語(研究指導教員と相談して決める) ③マージン：上下各30mm、左右各25mm ④字数：日本語の場合、約40字/行、約35行/ページ。詳細は研究指導教員と相談すること。 英語の場合、字数行数の指定はありません。マージンに収まるようにお願いします。ダブルスペースでも構いません。	①表紙 タイトル 令和〇〇年度 修士学位論文 横浜市立大学大学院 データサイエンス研究科 〇〇〇〇専攻 氏名 ②内表紙：タイトル、本人氏名、主および副研究指導教員名、目次 ③本文：要旨(英語で150から200words程度。要旨の下に英語によるキーワードを5つ示すこと)、序論、材料と方法、結果、考察、文献、表、図、謝辞、研究発表(論文、学会発表等があれば)などに分けて記述する。
論文内容要旨	①用紙：A4(2～4枚) ※カラー可、ファイルサイズ上限は5MB ②言語：日本語又は英語(研究指導教員と相談して決める) 日本語10～12ポイント、英語12ポイント ③マージン：上下各30mm、左右各25mm ④字数：日本語の場合、約40字/行、約35行/ページ。詳細は研究指導教員と相談すること。 英語の場合、字数行数の指定はありません。マージンに収まるようにお願いします。ダブルスペースでも構いません。	①タイトル・専攻名・氏名・研究指導教員名：すべてセンタリング ②重要語句：本文の最初のページに枠でくくってまとめる。 ③本文： 【研究の背景と目的】、【方法】、【結果と考察】などの項目に分け、次項目に移るときには、1行あける。 ※論文内容要旨は審査会等で公表されるため、特許を含む場合は注意する。

2-2 博士後期課程（データサイエンス専攻・ヘルスデータサイエンス専攻）

博士学位論文の審査及び最終試験以外の修了要件（2頁参照）を満たしている学生は、以下に説明する流れに沿って学位論文を提出してください。

ここでは、（1）学位論文提出までの時間的流れ（2）学位論文作成要領、（3）・（4）申請に必要な提出物、（5）学位論文の内容となる公表学術論文の要件、（6）学位論文の製本及びインターネットによる公開、を説明します。

（1）学位論文提出までの時間的流れ

①予備審査

原則として修了予定の前年度11月末日以降に予備審査申請を行い、予備発表会を行うこととします。

1 予備審査申請	修了予定前年度 11月末日	修了予定前年度 2月末日	修了予定年度 8月末日
2 予備発表会	同 12月	同 3月	同 9月
3 予備審査判定	同 1月	修了予定年度 4月	同 10月

②学位申請

4 学位申請	修了予定年度 11月末日
5 博士学位論文発表会	同 12月～1月
6 学位授与(修了式)	3月25日

（2）学位論文作成要領

作 成 規 定	内 容 と 注 意
①用紙：A4 ②言語：日本語又は英語（研究指導教員と相談して決める） ③マージン：上下各30mm、左右各25mm ④字数：日本語の場合、約40字/行、約35行/ページ。詳細は研究指導教員と相談すること。 英語の場合、字数行数の指定はありません。マージンに収まるようにお願いします。ダブルスペースでも構いません。	LaTeXなどを用いる場合、主研究指導教員と相談し、作成規定を参考にして作成すること。

（3）予備審査申請に必要な提出物

提出物	部数等
予備審査申請書(所定様式)	1 通
予備審査論文要旨(修士論文内容要旨と同様：頁数は制限なし)	1 部
論文目録	1 部

(4) 学位申請に必要な提出物

提 出 物	部 数 等
提出票(所定)	1 通
学位申請書(所定)	1 通
学 位 論 文	6 部：A 4 判左とじ(日本語又は英語)
論文内容要旨	7 部：日本語又は英語で論文の独創的な点を中心に専攻に所属する全員に理解できるように記載。 英語で作成する場合は日本語の概要(A 4 判 1 枚程度)を添付すること。 ※論文内容要旨は審査会等で公表されるため、生データを含む場合は注意すること。
論 文 目 録	7 部：学位論文の主要な章が学術誌に公表された、印刷中、投稿中であることを明示。印刷中、投稿中の場合、acceptされていることを証明できる資料を添付。
履 歴 書	原本 1 通(写真添付) + コピー 6 通
修了見込証明書	1 通
eラーニング 修了証※	1 通：※研究倫理教育eラーニング「APRIN eラーニングプログラム(eAPRIN)」 修了証のこと。
そ の 他	学位論文の主要な章における連名共著者などの承諾書、論文印刷中・投稿中を証明する書類及びその論文のコピーを添付。

* 投稿中の論文に関しては、1 年以内に論文完了報告書（完了しない場合には、経過報告書）の提出が必要。

VI

(5) 学位論文の内容となる公表学術論文の要件

学位論文は、その主要部分が学会等で発表され、かつ国際学術雑誌において英文で公刊される形で当該専門分野の専門家から評価を受けていることが必要となります。

(6) 学位論文の製本及びインターネットによる公開

学位申請者は、学位論文の製本 1 部（やむを得ない場合によりインターネット公開できない場合は 2 部）を作成し、電子ファイルとともに学位授与日までに教育推進課教務担当へ提出してください。

製本された論文は本学学術情報センター（インターネットの利用により公開できない場合は、本学学術情報センターと国立国会図書館）で保管・公開します。

VI-1

データサイエンス研究科
データサイエンス専攻
博士前期課程・後期課程

博士前期課程（データサイエンス専攻）

1 教育研究の目的

データサイエンス専攻では、データ解析の理論や手法に関わる「データアナリティクス力」、データを意味ある形に変換し、活用できるようにする「データエンジニアリング力」を有し、課題背景を理解し、分析から社会実装までの一連の流れを可能にする「社会展開力」に収れんさせ、新たな価値を創造する能力、すなわち「データサイエンス力」を身につけた人材を育成することを目的としています。

学問領域としてのデータサイエンスは、統計科学や情報科学、計算科学に基盤を置き、自然科学、人文・社会科学のさまざまな関連学問領域を対象とする文理融合の性質を持っています。本専攻では、データサイエンス力を培う基盤科目や統計データを扱う際の倫理教育の科目を必修科目としているほか、データサイエンス力を構成する3つの力に関わる選択科目や外部講師による講義及び他専攻・他研究科が提供する科目も配置しています。さらに、現実社会との対話から課題を発見し、データを収集・解析し、その結果を社会に還元・実装する一連のプロセスを学ぶ「実践的データサイエンス演習」を必修科目として配置し、教育研究を行っています。

2 履修方法

(1) カリキュラムの構成

①修了要件

課程修了に要する単位数は、必修科目から22単位(研究指導8単位、演習6単位、講義科目8単位)、選択科目から8単位以上、合計30単位以上の修得が必要です。加えて、学位論文の審査に合格することが要件となります。

②必修科目

ア 必修科目として、統計学特論、機械学習特論、データマニング特論、デザイン思考特論、応用倫理学を開講しています。データサイエンスの研究では個人情報や企業情報、社会インフラ情報を日常的に取り扱うため、例えば応用倫理学を必修科目として履修することで、安全・安心なデータ利活用のあり方を身につける必要があります。

イ さらに、データサイエンス研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、実践的データサイエンス演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲも必修科目となります。前者では課程の2年間を通じてゼミ形式での文献講読や研究報告を中心に研究能力とコミュニケーション能力を養い、後者では1年次前期から2年次前期までの1年半をかけて課題設定、データ収集と分析、取りまとめと報告という一連の流れを通じて、データサイエンティストとしての素養を実践的に演習するものです。

③選択科目

データサイエンス研究指導や実践的データサイエンス演習で必要とされる知識・技能を修得するためにも複数の選択科目を開講しています。研究指導教員等からの助言により、必要な科目を履修してください。

④選択科目のうち他研究科・他専攻の科目(上限8単位)

他研究科・他専攻で開講する関連科目も履修できます。当該科目を履修することによって、データエンジニアリング力や社会展開力を培うことを目的としています。

⑤研究指導

学位論文の指導は、主として研究指導教員が行います。主・副研究指導教員の決定にあたっては、各自、研究指導を希望する教員に相談してください。

(2) 修了に必要な単位数

所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。修了者には、修士（データサイエンス）を授与します。

開講科目を次の表のように区分し、合計30単位以上の科目を必修あるいは選択して履修します。

科目区分	科目名	単位数	備 考
必修科目	統計学特論	2 単位	合計22単位 (研究指導 8 単位、 演習 6 単位、 講義科目 8 単位)
	機械学習特論	2 単位	
	データマニング特論	2 単位	
	デザイン思考特論	1 単位	
	応用倫理学	1 単位	
	実践的データサイエンス演習Ⅰ	2 単位	
	実践的データサイエンス演習Ⅱ	2 単位	
	実践的データサイエンス演習Ⅲ	2 単位	
	データサイエンス研究指導Ⅰ	2 単位	
	データサイエンス研究指導Ⅱ	2 単位	
	データサイエンス研究指導Ⅲ	2 単位	
	データサイエンス研究指導Ⅳ	2 単位	
	修士論文	0 単位	
選択科目	多変量統計解析特論	2 単位	合計 8 単位以上
	最適化の基礎と応用特論	2 単位	
	時系列データ解析特論	2 単位	
	計算機統計学特論	2 単位	
	データ可視化特論	2 単位	
	自然言語処理特論	2 単位	
	クラウドコンピューティング特論	2 単位	
	プログラミング特論	2 単位	
	実験とシミュレーション特論	2 単位	
	ビッグデータ処理基盤特論	2 単位	
	非構造化データ特論	2 単位	
	標本調査特論	2 単位	
	実験計画と因果推論特論	2 単位	
	都市環境データ解析特論	2 単位	
	データサイエンス展開特別講義	1 単位	
	データエンジニアリング特別講義	1 単位	
	データアナリティクス特別講義	1 単位	
選択科目のうち 他研究科・ 他専攻開講科目	機械学習概論	1 単位	
	臨床試験方法論	1 単位	
	バイオインフォマティクス	1 単位	
	ビジネス・マネジメント	2 単位	
	eビジネス・マネジメント	2 単位	
	知覚情報科学特論Ⅰ	1 単位	
	知覚情報科学特論Ⅱ	1 単位	
	知覚情報科学特論Ⅲ	1 単位	
	計算物質科学特論Ⅰ	1 単位	
	計算物質科学特論Ⅱ	1 単位	
	計算物質科学特論Ⅲ	1 単位	
リメディアル科目	統計モデリングⅡ	0 単位	
	データマイニング	0 単位	
	計算機数理	0 単位	
	情報倫理	0 単位	

3 授業科目表 データサイエンス専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位	担当教員	備考
必修科目	統計学特論	1	前	2	岡村 寛	
	機械学習特論	1	後	2	末廣 大貴(非常勤)	
	データマニング特論	1	後	2	戸田 浩之	
	デザイン思考特論	1	集中(前)	1※1	佐藤 彰洋	
	応用倫理学	1	前期前半	1※1	土屋 隆裕	
	実践的データサイエンス演習Ⅰ	1	集中	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 鈴木 雅智 竹内 由則 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也 森山 卓	
	実践的データサイエンス演習Ⅱ	1	集中	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 鈴木 雅智 竹内 由則 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也 森山 卓	
	実践的データサイエンス演習Ⅲ	2	集中	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 鈴木 雅智 竹内 由則 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也 森山 卓 山崎 眞見	

科目 区分	授業科目の名称	履修 年次	期間	単位	担当教員	備考
必修科目	データサイエンス研究指導Ⅰ	1	集中	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 鈴木 雅智 竹内 由則 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也 森山 卓	
	データサイエンス研究指導Ⅱ	1	集中	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 鈴木 雅智 竹内 由則 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也 森山 卓	
	データサイエンス研究指導Ⅲ	2	集中	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 鈴木 雅智 竹内 由則 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也 森山 卓 山崎 眞見	
	データサイエンス研究指導Ⅳ	2	集中	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 鈴木 雅智 竹内 由則 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也 森山 卓 山崎 眞見	
	修士論文	2	集中	0	主研究指導教員	
選択科目	多変量統計解析特論	1	前	2	森山 卓	
	最適化の基礎と応用特論	1	前	2	藤田 慎也	
	時系列データ解析特論	1	後	2	上田 雅夫	

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位	担当教員	備考
選択科目	計算機統計学特論	1	前	2	上田 雅夫	
	データ可視化特論	1	後	2	鈴木 雅智	
	自然言語処理特論	1	後	2	越仲 孝文	
	クラウドコンピューティング特論	1	前	2	佐藤 彰洋	
	プログラミング特論	1	後	2	小屋 良祐	
	実験とシミュレーション特論	1		2	今年度休講	
	ビッグデータ処理基盤特論	1	集中(後)	2	大里 隆也(非常勤)	
	非構造化データ特論	1	後	2	山崎 眞見	
	標本調査特論	1	前	2	土屋 隆裕	
	実験計画と因果推論特論	1	前	2	竹内 由則	
	都市環境データ解析特論	1	後	2	大西 暁生	
	データサイエンス展開特別講義	1・2		1※1	今年度休講	
	データエンジニアリング特別講義	1・2		1※1	今年度休講	
	データアナリティクス特別講義	1・2		1※1	今年度休講	
	機械学習概論	2	後	1※1	清水 沙友里(兼任)	HDS専攻
	臨床試験方法論	2	集中(後)	1※1	植田 真一郎(兼任)	HDS専攻
	バイオインフォマティクス	2	集中(後)	1※1	ラミロフスキー ジョーダン(兼任)	HDS専攻
	ビジネス・マネジメント	1	前	2	伊藤 智明(兼任)	国際マネジメント研究科(同時開講)
	eビジネス・マネジメント	1・2		2	今年度休講	
	知覚情報科学特論Ⅰ	1・2	前期後半	1※1	ミケレット ルジェロ(兼任)	生命ナノシステム科学研究科(物質)(同時開講)
	知覚情報科学特論Ⅱ	1・2	後期後半	1※1	岡嶋 克典(非常勤)	
	知覚情報科学特論Ⅲ	1・2	集中前期	1※1	蟻川 謙太郎(非常勤)	
	計算物質科学特論Ⅰ	1・2	後期前半	1	立川 仁典(兼任)	
	計算物質科学特論Ⅱ	1・2	後期後半	1	北 幸海(兼任)	
	計算物質科学特論Ⅲ	1・2	集中	1	島崎 智実(兼任)	
	大学院・キャリア形成実習(横浜の産業と企業理解)※2	1・2	集中(前)	1	キャリア支援センター長・河瀬恵子	
自由科目	大学院・日本語科目※2 ※「Ⅶ 大学院日本語科目」を確認					

※1 1単位の科目は全8回の授業となります。

※2 留学生・帰国生のみ履修可能です。

4 担当教員の研究分野と研究課題（データサイエンス専攻 博士前期課程）

教員氏名	研究分野	研究課題
上田 雅夫	ビジネス・サイエンス、 ビジネス・アナリティクス	マーケティングにおける消費者の行動・態度の定量的な理解に関する研究、並びに、消費者の幸福感に関する実証研究
大西 暁生	都市環境解析	持続可能な都市や社会を構築するため、時空間データをもとに、環境問題などを研究
岡村 寛	生物統計学	生物・生態学や環境問題、SDGsに関連したデータを解析するための統計モデル・計算アルゴリズムの開発
越仲 孝文	パターン認識・機械学習	人間理解、環境理解のための知能情報処理。音声、音響、言語等の時系列データを対象とした機械学習及び信号処理
小屋 良祐	整数論	リーマンのゼータ関数に関するunconditional problemの研究ならびにRobin型不等式の研究
佐藤 彰洋	多くの要素(エージェント)の相互作用の結果生じる共同現象の理解、社会・経済システムの分析、モデリング、シミュレーション、設計に関する研究	リスク推計・リスク分析。メッシュ統計に関する数理モデルの構築、メッシュ統計の可視化・定量化アルゴリズムの開発、データ利活用のためのシステム構築、計算機科学に基づく並列分散処理システムの開発
鈴木 雅智	都市・不動産経済学、 都市解析・都市計画	都市・地域の社会課題に関する経済分析・政策評価。特に、人口減少社会における不動産市場・家計行動に関する実証分析
竹内 由則	医療統計学、薬剤疫学、 統計的因果推論	大規模医療情報データを利用した薬剤疫学・臨床疫学研究における統計的因果推論についての方法論研究
土屋 隆裕	統計調査法	統計調査を設計し、調査データを取得するための各種手法の研究。さらに調査データの分析手法に関する研究
戸田 浩之	データマイニング、情報検索、 機械学習	データ工学や機械学習等の計算論的なアプローチに行動科学の知見を組み合わせ、ライフログや移動軌跡、SNS等のデータを活用した人の行動や社会現象のモデル化、予測、最適化に関する研究
藤田 慎也	離散数学、理論計算機科学	組合せ論、グラフ理論、アルゴリズム
森山 卓	数理統計学、応用統計学	ノンパラメトリック法の精度改良に関する理論研究や、購買行動や電力消費などの諸現象を記述する統計モデルを開発する応用研究
山崎 眞見	現象の数理モデル	機械学習技術などを用いたデータの背後にある現象のモデル化とビッグデータ処理に必要な情報インフラの方式開発

1 教育研究の目的

学術的好奇心とデータサイエンス研究を通じた社会貢献を意識しつつ、新たな解析方法を提案するための十分な自然科学、人文・社会科学のさまざまな関連学問領域の高度な知識、または現実社会における諸現象の裏に潜む新たな解析方法を提案するために十分な先端的知識を学びます。またグローバルな視点からの情報収集及び研究成果の発信を通じ、発展の著しいデータサイエンス分野における社会的、技術的潮流を確認・評価し、さらに牽引できる高度な研究開発能力を涵養します。

さらに、課題に対して高度に学術的な考究を加えて一般化して、新たな価値創造を伴う自立した研究活動を遂行できる人材を育成することを目的としています。

2 履修方法

(1) カリキュラムの構成

①修了要件

課程修了に要する単位数は、必修科目から18単位(特別講義4単位、特別演習6単位、特別研究指導8単位)、選択科目から2単位以上、合計20単位以上の修得が必要です。加えて学位論文の審査に合格することが要件となります。

②必修科目

必修科目として、データサイエンス特別講義Ⅰ・Ⅱ、データサイエンス特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、データサイエンス特別研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを開講しています。ゼミ形式の特別演習及び特別研究指導においては先端的な研究論文を講読し、自らの研究成果を逐次報告し、研究指導教員等からのレビューを恒常的に受けることにより、社会性を踏まえた高度な研究能力を醸成します。

③選択科目(上限8単位)

データサイエンス特別講義A,B,C,Dの4科目を開講しています。研究指導教員等からの助言により、必要な科目を履修してください。

④研究指導

学位論文の指導は、主として研究指導教員が行います。主・副研究指導教員の決定にあたっては、各自、研究指導を希望する教員に相談してください。

外部から招聘した研究者によるセミナー参加や、学生自らも学内外でのセミナー・学会等での研究報告等を通じて、研究内容を見つめ直し、研究成果の新規性や客観性、一般性を確認しながら学位論文を取りまとめていきます。

(2) 修了に必要な単位数

所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。修了者には博士（データサイエンス）の学位を授与します。

開講科目を次の表のように区分し、合計20単位以上の科目を必修あるいは選択して履修します。

科目区分	科目名	単位数	備 考
必修科目	データサイエンス特別講義Ⅰ	2単位	合計18単位
	データサイエンス特別講義Ⅱ	2単位	
	データサイエンス特別演習Ⅰ	2単位	
	データサイエンス特別演習Ⅱ	2単位	
	データサイエンス特別演習Ⅲ	2単位	
	データサイエンス特別研究指導Ⅰ	2単位	
	データサイエンス特別研究指導Ⅱ	2単位	
	データサイエンス特別研究指導Ⅲ	2単位	
	データサイエンス特別研究指導Ⅳ	2単位	
	博士論文	0単位	
選択科目※	データサイエンス特別講究A	2単位	合計 2 単位以上
	データサイエンス特別講究B	2単位	
	データサイエンス特別講究C	2単位	
	データサイエンス特別講究D	2単位	
リメディアル科目	博士前期課程開講科目のうち、実践的データサイエンス演習Ⅰ～Ⅲ及びデータサイエンス研究指導Ⅰ～Ⅳを除く全科目	0単位	
自由科目	長期インターンシップ	2単位	

※ 他研究科の授業を履修し、修得した場合 2 単位を上限として「選択科目」へ算入できます。

3 授業科目表 データサイエンス専攻 博士後期課程

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位	担当教員	備考
必修科目	データサイエンス特別講義Ⅰ	1	前	2	専任全員	
	データサイエンス特別講義Ⅱ	1	後	2	専任全員	
	データサイエンス特別演習Ⅰ	1	集中(前)	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也	
	データサイエンス特別演習Ⅱ	1	集中(後)	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也	
	データサイエンス特別演習Ⅲ	2	集中(前)	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也	
	データサイエンス特別研究指導Ⅰ	2	集中(前)	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也	
	データサイエンス特別研究指導Ⅱ	2	集中(後)	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也	

科目 区分	授業科目の名称	履修 年次	期間	単位	担当教員	備考
必修 科目	データサイエンス特別研究指導Ⅲ	3	集中 (前)	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也 山崎 眞見	
	データサイエンス特別研究指導Ⅳ	3	集中 (後)	2	上田 雅夫 大西 暁生 岡村 寛 越仲 孝文 佐藤 彰洋 土屋 隆裕 戸田 浩之 藤田 慎也 山崎 眞見	
	博士論文	3	後	0	主研究指導教員	
	データサイエンス特別講究A	1・2・3	前	2	藤田 慎也	
選択 科目	データサイエンス特別講究B	1・2・3	後	2	山崎 眞見 岡村 寛 越仲 孝文 戸田 浩之	オムニバス
	データサイエンス特別講究C	1・2・3	前	2	大西 暁生 佐藤 彰洋 土屋 隆裕 上田 雅夫	オムニバス
	データサイエンス特別講究D	1・2・3	後	2	今年度休講	
	長期インターンシップ 大学院・キャリア形成実習 (横浜の産業と企業理解) [※] 大学院・日本語科目 [※] ※「Ⅶ 大学院日本語科目」を確認	1・2・3 1・2・3	集中 集中 (前)	2 1	データサイエンス専攻長 キャリア支援センター長・ 河瀬恵子	

※ 留学生・帰国生のみ履修可能です。

4 担当教員の研究分野と研究課題（データサイエンス専攻 博士後期課程）

教員氏名	研究分野	研究課題
上田 雅夫	ビジネス・サイエンス、 ビジネス・アナリティクス	マーケティングにおける消費者の行動・態度の定量的な理解に関する研究、並びに、消費者の幸福感に関する実証研究
大西 暁生	都市環境解析	持続可能な都市や社会を構築するため、時空間データをもとに、環境問題などを研究
岡村 寛	生物統計学	生物・生態学や環境問題、SDGsに関連したデータを解析するための統計モデル・計算アルゴリズムの開発
越仲 孝文	パターン認識・機械学習	人間理解、環境理解のための知能情報処理。音声、音響、言語等の時系列データを対象とした機械学習及び信号処理
佐藤 彰洋	多くの要素(エージェント)の相互作用の結果生じる共同現象の理解、社会・経済システムの分析、モデリング、シミュレーション、設計に関する研究	リスク推計・リスク分析。メッシュ統計に関する数理モデルの構築、メッシュ統計の可視化・定量化アルゴリズムの開発、データ利活用のためのシステム構築、計算機科学に基づく並列分散処理システムの開発
土屋 隆裕	統計調査法	統計調査を設計し、調査データを取得するための各種手法の研究。さらに調査データの分析手法に関する研究
戸田 浩之	データマイニング、情報検索、 機械学習	データ工学や機械学習等の計算論的なアプローチに行動科学の知見を組み合わせ、ライフログや移動軌跡、SNS等のデータを活用した人の行動や社会現象のモデル化、予測、最適化に関する研究
藤田 慎也	離散数学、理論計算機科学	組合せ論、グラフ理論、アルゴリズム
山崎 眞見	現象の数理モデル	機械学習技術などを用いたデータの背後にある現象のモデル化とビッグデータ処理に必要な情報インフラの方式開発

VI-2

データサイエンス研究科
ヘルスデータサイエンス専攻
博士前期課程・後期課程

博士前期課程（ヘルスデータサイエンス専攻）

1 教育研究の目的

ヘルスデータサイエンス専攻では、データサイエンスにかかる基礎理論と技術に習熟し、人類の抱える健康や医療の諸課題を解決するための論理の定式化を行い、データサイエンスの手法を駆使して諸課題を解決する研究について、立案・施行・評価・改善するプロセス（PDCA）を実行できる人材を育成することを目的としています。本課程では、ICTの進展によって蓄積されるヘルス情報を集約し活用するための方法論として、ヘルスビッグデータを用いてリサーチクエスチョンを解決するための知識、技能、思考法を備えられる「基礎教育」と「実践教育」からなる体系的な教育課程を編成しています。

また、本課程で養成された専門人材として、データサイエンスの幅広い理論と技術に習熟し、膨大なデータから個々の疾病発症・治療反応性や医療資源消費量などを推定して、最適・効率的なヘルスサービスを提供することを可能とするほか、人工知能（AI）やInternet of Medical Things（IoMT）を駆使した医療デジタル革命により生み出されるデータを利活用して新たな価値を創造できるよう目指します。

2 履修方法

(1) カリキュラムの構成

①修了要件

課程修了に要する単位数は、必修科目から19単位（特別研究科目 8 単位、研究演習 4 単位、講義科目 7 単位）、選択科目から11単位以上、合計30単位以上の修得が必要です。加えて、修士論文の審査に合格することが要件となります。

②必修科目

ア 「基礎教育」における必修科目として、生物統計学Ⅰ、研究デザイン学、ヘルス情報テクノロジー学、研究倫理を開講しています。本専攻の教育研究に必須の「基礎教育」として、ヘルス分野から生みだされる多様かつ複雑なデータの解析を可能にする専門領域（生物統計学）、膨大なヘルス情報を用いる研究の基本設計図の構築を可能とする専門領域（研究デザイン学）、現実の問題を解決するために、ヘルス情報の種類やデータベース技術に習熟し、その上でデータベース分析から新たな価値を創出し社会実装を図ることを可能にする専門領域（ヘルス情報テクノロジー学）、ヘルス情報の実用化をはかる上で必要となる倫理・社会規範のリテラシーや関連法規等を学ぶ専門教育（研究倫理）から成ります。

イ 「実践教育」における必修科目として、ヘルスデータサイエンス研究演習Ⅰ・Ⅱ、特別研究科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを開講しています。ヘルスデータサイエンス研究演習Ⅰ・Ⅱはヘルス分野の課題解決型学習（Project Based Learning）です。研究のデザイン・実施・実用化・発表を通して経験するアクティブラーニング方式で、教員・学生が一同に会し、互いに批判的吟味を行います。特別研究科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、ヘルスデータサイエンスの社会実装の現実についての理解を深め、かつヘルスデータサイエンス人材に必要な企画力、説明力、倫理性等を学びます。

③選択科目

学生自身のバックグラウンドに応じて関連する知見を深化させるため、多様な選択科目を開講しています。医療制度・医療技術評価Ⅰ・Ⅱ、プライマリ研究概論Ⅰ・Ⅱ、生物統計学Ⅱ、観察研究データ解析、データベース開発演習、機械学習概論、エビデンス計量評価論Ⅰ・Ⅱ、医療経営分析論、

アカデミックライティング、臨床試験方法論、臨床薬理学概論Ⅰ・Ⅱ、生物統計演習Ⅰ・Ⅱ、バイオインフォマティクスがあります。主副指導教員等からの助言により、必要な科目を履修してください。

④選択科目のうち他研究科・他専攻の科目(上限8単位)

他研究科・他専攻で開講する関連科目も履修できます。当該科目を履修することによって、データエンジニアリング力や社会展開力を培うことを目的としています。

⑤研究指導

学位論文の指導は、主として研究指導教員が行います。主副指導教員の決定にあたっては、各自、研究指導を希望する教員に相談してください。

3 医学研究科博士課程（医科学専攻）科目の早期履修について

ヘルスデータサイエンス専攻では、既に専門的な知識（ライフサイエンス等）を持ちながら当専攻に在学している方が条件を満たす場合、修士課程2年次生に医学研究科博士課程医科学専攻の科目を履修することができます。

選考方法、審査の申請に関する条件や履修できる科目などの詳細については、履修前年度の12月下旬頃にYCU-Boardよりお知らせします。

なお、単位履修した科目（単位）については、医学研究科博士課程進学後、修了要件の単位数に含むことができます。

令和4（2022）年度以降入学者

(2) 修了に必要な単位数

所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。修了者には、修士（ヘルスデータサイエンス）を授与します。

開講科目を次の表のように区分し、合計30単位以上の科目を必修あるいは選択して履修します。

科目区分	科目名	単位数	備 考
必修科目	生物統計学Ⅰ 研究デザイン学 ヘルス情報テクノロジー学 研究倫理 ヘルスデータサイエンス研究演習Ⅰ ヘルスデータサイエンス研究演習Ⅱ 特別研究科目Ⅰ 特別研究科目Ⅱ 特別研究科目Ⅲ 特別研究科目Ⅳ 修士論文	2単位 2単位 2単位 1単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 0単位	合計19単位 （特別研究科目8単位、 研究演習4単位、 講義科目7単位）
選択科目	生物統計学Ⅱ 医療制度・医療技術評価Ⅰ 医療制度・医療技術評価Ⅱ プライマリ・ケア研究概論Ⅰ プライマリ・ケア研究概論Ⅱ 臨床計量学 観察研究データ解析 機械学習概論 データベース開発演習 エビデンス計量評価論Ⅰ エビデンス計量評価論Ⅱ 臨床予測モデル入門 医療経営分析論 アカデミックライティング 臨床試験方法論 バイオインフォマティクス 臨床薬理学概論Ⅰ 臨床薬理学概論Ⅱ 生物統計演習Ⅰ 生物統計演習Ⅱ	2単位 2単位 2単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 2単位 2単位 2単位 1単位 2単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位 1単位	合計11単位以上
選択科目のうち 他研究科・ 他専攻開講科目	データ可視化特論 プログラミング特論 実験計画と因果推論特論 ビジネス・マネジメント eビジネス・マネジメント 知覚情報科学特論Ⅰ 知覚情報科学特論Ⅱ 知覚情報科学特論Ⅲ	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 1単位 1単位 1単位	
リメディアル科目	統計学基礎(e-learning) データマイニング 情報倫理	0単位 0単位 0単位	

4 授業科目表 ヘルスデータサイエンス専攻 博士前期課程

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位	担当教員	備考
必修科目	生物統計学Ⅰ	1	前	2	富田 誠	
	研究デザイン学	1	前	2	桑原 恵介 後藤 温	
	ヘルス情報テクノロジー学	1	前	2	水原 敬洋 北原 秀治(非常勤)	
	研究倫理	1	前	1	戸谷由布子(非常勤)	
	ヘルスデータサイエンス研究演習Ⅰ	1	集中(後)	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 篠田 覚 清水沙友里 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	
	ヘルスデータサイエンス研究演習Ⅱ	2	前	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 篠田 覚 清水沙友里 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	
	特別研究科目Ⅰ	1	前	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 清水沙友里 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	
	特別研究科目Ⅱ	1	後	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 清水沙友里 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	
	特別研究科目Ⅲ	2	前	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 清水沙友里 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	

科目 区分	授業科目の名称	履修 年次	期間	単位	担当教員	備考
必修科目	特別研究科目Ⅳ	2	後	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 清水沙友里 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	
	修士論文	2	後	0	主研究指導教員	
選択科目	医療制度・医療技術評価Ⅰ	1	前	2	五十嵐 中(非常勤)	
	医療制度・医療技術評価Ⅱ	2	前	2	五十嵐 中(非常勤)	
	プライマリ・ケア研究概論Ⅰ	1	前	1 ^{※1}	金子 惇	
	プライマリ・ケア研究概論Ⅱ	1	後	1	金子 惇	
	生物統計学Ⅱ	1	後	2	篠田 覚	
	臨床計量学	1	後	2 ^{※1}	今年度休講	
	観察研究データ解析	1	後	1 ^{※1}	山本 紘司(兼任)	
	機械学習概論	1	後	1 ^{※1}	清水沙友里	
	データベース開発演習	1	後	2	清水沙友里	
	エビデンス計量評価論Ⅰ	1	前	2	水原 敬洋	
	エビデンス計量評価論Ⅱ	1	後	2	水原 敬洋	
	臨床予測モデル入門	2	前	1	今年度休講	
	医療経営分析論	2	前	2	今年度休講	
	アカデミックライティング	2	前	1 ^{※1}	篠田 覚 金子 惇 桑原 恵介	
	臨床試験方法論	2	集中 (後)	1 ^{※1}	植田真一郎	
	バイオインフォマティクス	2	集中 (後)	1 ^{※1}	ラミロフスキー ジョーダン(兼任)	
	臨床薬理学概論Ⅰ	1	前	1 ^{※1}	田野島玲大	
	臨床薬理学概論Ⅱ	1	後	1 ^{※1}	田野島玲大	
	生物統計演習Ⅰ	1	集中 (前)	1 ^{※1}	石原 拓磨(非常勤)	
	生物統計演習Ⅱ	1	集中 (後)	1 ^{※1}	石原 拓磨(非常勤)	
	データ可視化特論	1	後	2	鈴木 雅智(兼任)	DS専攻
	プログラミング特論	1	後	2	小屋 良祐(兼任)	DS専攻
	実験計画と因果推論特論	1	前	2	竹内 由則(兼任)	DS専攻
	ビジネス・マネジメント	1	前	2	伊藤 智明(兼任)	国際マネジメント研究科(同時開講)
	eビジネス・マネジメント	1・2	後	2	今年度休講	
	知覚情報科学特論Ⅰ	1・2	前期 後半	1 ^{※1}	ミケレット ルジェロ(兼任)	生命ナノシステム科学研究科(物質) (同時開講)
	知覚情報科学特論Ⅱ	1・2	後期 後半	1 ^{※1}	岡嶋 克典(非常勤)	
	知覚情報科学特論Ⅲ	1・2	集中 (前)	1 ^{※1}	蟻川謙太郎(非常勤)	

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位	担当教員	備考
選択科目	計算物質科学特論Ⅰ	1・2	後期前半	1	立川 仁典(兼任)	生命ナノシステム科学研究科(物質) (同時開講)
	計算物質科学特論Ⅱ	1・2	後期後半	1	北 幸海(兼任)	
	計算物質科学特論Ⅲ	1・2	集中	1	島崎 智実(兼任)	
自由科目	大学院・キャリア形成実習 (横浜の産業と企業理解) ^{※2}	1・2	集中 (前)	1	キャリア支援センター長・ 河瀬恵子	
	大学院・日本語科目 ^{※2} ※「Ⅶ 大学院日本語科目」を確認					

※1 1単位の科目は全8回の授業となります。

※2 留学生・帰国生のみ履修可能です。

5 担当教員の研究分野と研究課題 (ヘルスデータサイエンス専攻 博士前期課程)

教員氏名	研究分野	研究課題
金子 惇	プライマリ・ケア研究	へき地医療のための尺度開発、へき地と都市部の受療行動や健康アウトカムの比較
黒木 淳	医療経営分析・ヘルス情報テクノロジー	医療経営管理・医療健康政策について政策立案者や管理者の視点からデータやエビデンスの活用法を探究します。
桑原 恵介	疫学・予防医学	集団の疾病予防、健康増進
篠田 覚	カテゴリカルデータ解析・臨床研究	カテゴリカルデータに対する統計法の開発及び医療データへの応用に関する研究を行っている。
清水 沙友里	医療データベース解析・医療政策情報学	医療データベースを用いた臨床疫学研究、並びに医療政策に資するエビデンスの創出を目指す。
田野島 玲大	臨床薬理学(特に小児臨床薬理学)	薬物動態解析、データベース研究、特定臨床研究を含む介入研究を行い、適正な薬物治療の実現や新規治療の開発を目指す。
富田 誠	医学統計・空間疫学研究	臨床データや健康保健データについて生物統計学や空間集積性の手法を用い分析する。
水原 敬洋	周術期医療安全・エビデンス計量評価論	主に周術期の合併症予防または予測に関する研究を行い、医療安全の向上を目指す。

博士後期課程（ヘルスデータサイエンス専攻）

1 教育研究の目的

博士後期課程では、社会潮流の把握に基づく課題背景の理解を基盤とし、膨大なデータの分析から創出する新たな価値を社会実装することができる人材、すなわちヘルスデータサイエンス人材を育成することを目的としています。本課程では、ICTの進展によって蓄積されるヘルス情報を集約し利活用するための方法論として、ヘルスビッグデータを用いてリサーチクエスチョンを解決するための知識、技能、思考法を備えられる高度な「基礎教育」と「実践教育」からなる体系的な教育課程を編成しています。

また、本人のバックグラウンドに応じて専攻の3本柱である「生物統計学」、「研究デザイン学」、「ヘルス情報テクノロジー学」に関連する知見を深化させ、博士論文の研究のデータ収集、分析、執筆を行うことで修了後のキャリアパスに直結する能力を涵養します。

さらに、データサイエンスの知見及び手法をヘルス分野の専門性に応用することにより、ヘルス分野の諸課題の具体的解決を提案し、提供される医療の品質の向上や予防・介護の質の向上に寄与する人材養成を目指します。

2 履修方法

(1) カリキュラム構成

①修了要件

課程修了に要する単位数は、必修科目から18単位(特別研究・演習14単位、講義科目4単位)、選択科目から2単位以上、合計20単位以上の修得が必要です。加えて学位論文の審査に合格することが要件となります。

②必修科目

必修科目として、ヘルスデータサイエンス特別講義Ⅰ・Ⅱ、ヘルスデータサイエンス特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを開講しています。ゼミ形式の特別研究及び特別演習においては先端的な研究論文を講読し、自らの研究成果を逐次報告し、研究指導教員等からのレビューを恒常的に受けることにより、社会性を踏まえた高度な研究能力を醸成します。

③選択科目

ヘルスデータサイエンス特別講究A,Bの2科目を開講しています。研究指導教員等からの助言により、必要な科目を履修してください。

④研究指導

学位論文の指導は、主として研究指導教員が行います。主・副研究指導教員を決定にあたっては、各自、研究指導を希望する教員に相談してください。

外部から招聘した研究者によるセミナー参加や、学生自らも学内外でのセミナー・学会等での研究報告等を通じて、研究内容を見つめ直し、研究成果の新規性や客観性、一般性を確認しながら学位論文を取りまとめていきます。

(2) 修了に必要な単位数

所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。修了者には博士（ヘルスデータサイエンス）の学位を授与します。

開講科目を次の表のように区分し、合計 20 単位以上の科目を必修あるいは選択して履修します。

科目区分	科目名	単位数	備 考
必修科目	ヘルスデータサイエンス特別演習Ⅰ	2 単位	合計18単位
	ヘルスデータサイエンス特別演習Ⅱ	2 単位	
	ヘルスデータサイエンス特別演習Ⅲ	2 単位	
	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅰ	2 単位	
	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅱ	2 単位	
	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅲ	2 単位	
	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅳ	2 単位	
	ヘルスデータサイエンス特別講義Ⅰ	2 単位	
	ヘルスデータサイエンス特別講義Ⅱ	2 単位	
	博士論文	0 単位	
選択科目	ヘルスデータサイエンス特別講究A	2 単位	合計 2 単位以上
	ヘルスデータサイエンス特別講究B	2 単位	
リメディアル科目	博士前期課程開講科目のうち、ヘルスデータサイエンス研究演習Ⅰ・Ⅱ及び特別研究科目Ⅰ～Ⅳ・修士論文を除く全科目	0 単位	

3 授業科目表 ヘルスデータサイエンス専攻 博士後期課程

科目 区分	授業科目の名称	履修 年次	期間	単位	担当教員	備考
必修科目	ヘルスデータサイエンス特別講義Ⅰ	1	集中 (前)	2	富田 誠 桑原 恵介	オムニバス
	ヘルスデータサイエンス特別講義Ⅱ	1	集中 (後)	2	後藤 温 水原 敬洋 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 金子 惇 清水沙友里 竹内 由則 田野島玲大	オムニバス
	ヘルスデータサイエンス特別演習Ⅰ	1	集中 (前)	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 後藤 温 清水沙友里 竹内 由則 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	
	ヘルスデータサイエンス特別演習Ⅱ	1	集中 (後)	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 後藤 温 清水沙友里 竹内 由則 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	
	ヘルスデータサイエンス特別演習Ⅲ	2	集中 (前)	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 後藤 温 清水沙友里 竹内 由則 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	
	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅰ	2	集中 (前)	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 後藤 温 清水沙友里 竹内 由則 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	

科目区分	授業科目の名称	履修年次	期間	単位	担当教員	備考
必修科目	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅱ	2	集中(後)	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 後藤 温 清水沙友里 竹内 由則 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	
	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅲ	3	集中(前)	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 後藤 温 清水沙友里 竹内 由則 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	R 7 (2025)開講
	ヘルスデータサイエンス特別研究指導Ⅳ	3	集中(後)	2	金子 惇 黒木 淳(休講) 桑原 恵介 後藤 温 清水沙友里 竹内 由則 田野島玲大 富田 誠 水原 敬洋	R 7 (2025)開講
	博士論文	3	後	0	主研究指導教員	R 7 (2025)開講
選択科目	ヘルスデータサイエンス特別講究A	1・2・3	集中(前)	2	後藤 温 清水沙友里	オムニバス
	ヘルスデータサイエンス特別講究B	1・2・3	集中(後)	2	富田 誠 水原 敬洋 田野島玲大	オムニバス
必修	大学院・キャリア形成実習 (横浜の産業と企業理解)	1・2	集中(前)	1	キャリア支援センター長・ 河瀬 恵子	※留学生のみ

4 担当教員の研究分野と研究課題（ヘルスデータサイエンス専攻 博士後期課程）

教員氏名	研究分野	研究課題
金子 惇	プライマリ・ケア研究	へき地医療のための尺度開発、へき地と都市部の受療行動や健康アウトカムの比較
黒木 淳	医療経営分析・ヘルス情報テクノロジー	医療経営管理・医療健康政策について政策立案者や管理者の視点からデータやエビデンスの活用法を探究します。
桑原 恵介	疫学・予防医学	集団の疾病予防、健康増進
後藤 温	公衆衛生学・糖尿病やがんの疫学	臨床医学や公衆衛生における重要な課題に対して、適切なデータを集め、理論疫学や統計学などを応用してデータを分析する。
清水 沙友里	医療データベース解析・医療政策情報学	医療データベースを用いた臨床疫学研究、並びに医療政策に資するエビデンスの創出を目指す。
竹内 由則	医療統計学、薬剤疫学、統計的因果推論	大規模医療情報データを利用した薬剤疫学・臨床疫学研究における統計的因果推論についての方法論研究
田野島 玲大	臨床薬理学(特に小児臨床薬理学)	薬物動態解析、データベース研究、特定臨床研究を含む介入研究を行い、適正な薬物治療の実現や新規治療の開発を目指す。
富田 誠	医学統計・空間疫学研究	臨床データや健康保健データについて生物統計学や空間集積性の手法を用い分析する。
水原 敬洋	周術期医療安全・エビデンス計量評価論	主に周術期の合併症予防または予測に関する研究を行い、医療安全の向上を目指す。

Ⅶ 大学院 日本語科目（留学生・帰国生のみ履修可能）

都市社会文化研究科、国際マネジメント研究科、生命ナノシステム科学研究科、データサイエンス研究科の留学生・帰国生のみ「日本語科目」の履修が可能です。授業科目表は次のとおりです。

※なお、日本語科目の科目区分は自由科目であるため、修了要件の単位数に算入されません。

授業科目表（全研究科共通）

科目区分	授業科目の名称	履修年次(※)	期間	単位数	担当教員	備考
自由科目	大学院・日本語入門Ⅰa	※	前	2	鈴木綾乃・松島調(非常勤)	
	大学院・日本語入門Ⅰb	※	後	2	鈴木綾乃・松島調(非常勤)	
	大学院・日本語入門Ⅱa	※	—	2	今年度休講	
	大学院・日本語入門Ⅱb	※	後	2	鈴木綾乃・松島調(非常勤)	
	大学院・日本語Ⅰa	※	前	2	鈴木綾乃・松島調(非常勤)	
	大学院・日本語Ⅰb	※	後	2	鈴木綾乃・松島調(非常勤)	
	大学院・日本語Ⅱa	※	前	2	鈴木綾乃・松島調(非常勤)	
	大学院・日本語Ⅱb	※	後	2	鈴木綾乃・松島調(非常勤)	
	大学院・日本語Ⅲa	※	前	2	鈴木綾乃・松島調(非常勤)	
	大学院・日本語Ⅲb	※	—	2	今年度休講	
	大学院・日本語実践(文章表現A)	※	前	1	江後 千香子(非常勤)	
	大学院・日本語実践(文章表現B)	※	前	1	鈴木 綾乃	
	大学院・日本語実践(文章表現C)	※	後	1	江後 千香子(非常勤)	
	大学院・日本語実践(口頭表現A)	※	前	1	江後 千香子(非常勤)	
	大学院・日本語実践(口頭表現B)	※	後	1	鈴木 綾乃	
	大学院・日本語実践(口頭表現C)	※	後	1	江後 千香子(非常勤)	
	大学院・日本語実践(アカデミックジャパニーズA)	※	前	1	江後 千香子(非常勤)	
	大学院・日本語実践(アカデミックジャパニーズB)	※	後	1	江後 千香子(非常勤)	
	大学院・日本語実践(留学生のキャリアデザインA)	※	前	1	鈴木 綾乃	
	大学院・日本語実践(留学生のキャリアデザインB)	※	後	1	鈴木 綾乃	

※履修年次は、博士前期課程は「1・2年次」、博士後期課程は「1・2・3年次」となります。

VIII

学務事務の窓口案内

金沢八景キャンパス・舞岡キャンパス

入学した時点から卒業までの学務に関する事務は、教育推進課教務担当・舞岡キャンパス担当の窓口で取り扱います。手続きを怠ることにより、不利益が生ずることのないようにこの案内を十分に活用してください。

1 全体的な注意事項

- (1) 大学からの連絡事項は原則、全て掲示で行います。

学務について必要な事項は、キャンパス内の「学部掲示板」又は、

「YCU-Board」(URLは右記QRコードを参照)、

「YCU Portal」(URLは右記QRコードを参照)

で案内しますので、日常的にチェックする習慣をつけてください。

掲示板やYCU-Board、YCU Portalの見落としによって不利益を被ることがありますので十分注意してください。

YCU-Board
(お知らせ・講義資料確認・
成績確認等)



YCU Portal
(履修登録・シラバス閲覧)



- (2) 教務担当・舞岡キャンパス担当の窓口では、学務に関する申請・届出、住所・氏名変更などの事務を中心に取り扱います。

2 窓口受付時間および留意事項

- (1) 受付時間：8：45～17：00（授業期間外等（曜日調節日、浜大祭準備期間及び大学入学共通テスト準備日を含む）は15：00まで）

※上記の時間は変更になる可能性があります。変更になる場合は掲示でお知らせします。

- (2) 休業日：土曜、日曜、祝祭日（授業実施日を除く）、各キャンパス窓口の閉室日

受付時間以外の受付は行いませんので、教育推進課教務担当・舞岡キャンパス担当に用事がある場合は窓口受付時間内に申し出てください。

<留意事項>

- 学外からの連絡（家族からの連絡など）を取り次ぐことはできませんので、連絡方法については各自で十分に配慮してください。
- 学生の住所・電話番号の問い合わせには応じられません。
- 原則、電話による問合せ、照会には応じません。
- 通学定期券は、学生証の提示により購入することができます。路線バスの通学定期券を購入の際、通学証明書の提出を要求された場合には、発行申請をしてください。
- 金沢八景キャンパスYCUスクエア1階設置のレポートボックスへの提出が指定されているレポートについては、窓口受付時間内のみ提出が可能です。

3 電子メールによる連絡

大学から学生個人への通知・連絡事項を、大学が皆さんに交付しているメールアドレス（YCUメール）に送る場合もあります。

YCUメールではセキュリティ強化のため、多要素認証を導入しています。

多要素認証とはシステムにログインする際、携帯電話番号等、本人確認のための要素を複数要求する認証方式の事です。

下記のサイトにて詳細を確認し、初期設定を完了してください。

【YCUメール初期設定マニュアル】

<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ictpromo/mfa-init-recom>

※スマートフォン（アプリ）でのメールの確認方法もマニュアル内に記載されています。

YCUメール初期設定
マニュアル



〈その他（ソフトウェアの提供）〉

個人所有のPCで下記のソフトウェアをインストールできます。

利用方法は大学公式サイトICT推進担当Webサイトを参照してください。

<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~ictpromo/>

ICT推進担当Webサイト



(1) Microsoft Office 365 Apps for enterprise

(2) ウイルス対策ソフト（Trend Micro Apex One）

※PCのセキュリティを守るため必ずインストールしてください。

4 証明書の発行について

(1) 証明書自動発行機による証明書の発行

金沢八景キャンパス・福浦キャンパスには、証明書自動発行機が設置されています。在学生の証明書は証明書自動発行機で発行できます。発行には学生証及び大学発行のID・パスワードが必要となります。

舞岡キャンパスには自動発行機がないため、舞岡キャンパス担当窓口にて申込みをしてください。

【利用可能時間】

金沢八景キャンパス（〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2）：月～金曜日（8：30～17：00）

福浦キャンパス（〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9）：月～金曜日（8：30～20：00）

（システムメンテナンスの都合等で変更がある場合はその都度掲示等でお知らせします）

【発行可能な証明書】

・成績証明書 ・在学証明書 ・卒業見込／修了見込証明書 ・学生運賃割引証（学割証）

※自動発行機で発行可能な証明書は和文のみです。

「学生運賃割引証」については、1人年間10枚まで発行可能です。11枚目以降の発行を希望する場合には教育推進課教務担当窓口まで申し出てください。有効期間は、発行日から3ヶ月間です。なお、往復、周遊券等の利用により、1枚を有効に使えますので、十分工夫してください。

(2) 証明書自動発行機以外による書類の発行

「通学証明書」、「教員免許状取得見込証明書」、「単位修得証明書」、「英文による成績証明書」、「英

文による在学証明書」、「学生証（再発行）」は、各キャンパスの窓口にて発行が可能です。

なお、各証明書の申込み・書類受取り上の注意事項は、次のとおりです。

ア 交付された証明書の内容に誤りがないかどうか、その場で確認してください。

イ 学生証（再発行も含む）は直接本人に交付します。

なお、再発行手数料は1,000円です。

ウ 各証明書の発行は、本人申込み、本人交付が原則です。代理人に依頼するときは、委任状を必要とします。

エ 証明書によっては、発行までに日数を要するものがありますので、窓口でお問い合わせください。

5 公欠について

以下に該当する事由で授業を欠席する場合は、公欠として取扱い出席したとみなすことができるため、教育推進課（教務担当、みなとみらいサテライトキャンパス事務室又は舞岡キャンパス担当）に届出書および証明書を提出してください。事由により必要な証明書が異なりますので、下記を参照してください。

公欠を認めている事由	必要な証明書類 (いずれも原本に限る)
(1) 天災、自宅の火災	火災証明、り災証明等
(2) 親族の危篤・死亡（2親等以内）	会葬御礼等の証明等
(3) 交通機関の遅延（30分以上）・ストライキ	遅延証明書
(4) 学校保健安全法施行規則第18条に規定する感染症（例：インフルエンザ、麻疹、おたふくかぜ、新型コロナウイルス感染症等）に感染した場合（ただし、症状により医師において感染させる恐れがないと認めたときを除く。）	「学校感染症」に関する証明書（大学様式）（又は出席の停止期間が記載された医師の診断書や療養が証明できるもの）
(5) 裁判員制度による裁判員（候補者）に選出されたことにより、裁判所に出頭した場合	裁判所より発行される証明書
(6) 教員免許状の取得にかかる教育実習・介護等体験等に参加した場合（オリエンテーション等含む）	公欠内容を確認できる書類
(7) その他、研究科長が認めた場合	

※（2）の場合の注意事項：

公欠として取り扱うことができる日数は以下のとおりです。

- ・ 1親等及び配偶者の場合は、連続する7日（土・日・祝日を含む。）の範囲内の期間
 - ・ 2親等の場合は、連続する5日（土・日・祝日を含む。）の範囲内の期間
- なお、葬儀のため遠隔地に赴く場合にあっては、往復に要する日数も含みます。

※（3）の場合の注意事項：

- ・ 降車駅で発行されている遅延証明書を必ず持参してください。
- ・ 遅延による公欠の申請期間は1か月です。1か月を経過したものは認められません。
- ・ 遅延証明書に遅延時間未記入など不備がある場合は、別途各鉄道会社のHPより遅延時間記載の遅延証明書を印刷して添えてください。
- ・ 遅延証明書は1路線で30分以上の遅延に限り、2路線合計で30分以上の遅延は認められません。
- ・ 路線バスの場合は原則として公欠の対象とはなりません。（路線バス会社の発行する遅延証明書を持参した場合を除く。）
- ・ 交通機関による遅延の申請は学生証裏面に記載の住所最寄駅から大学最寄駅に限りです。

※（４）の場合の注意事項：

- ・インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症と医療機関で診断された場合、指定のFormsで報告してください。（すみやかな報告がない場合は、公欠を認められない場合があります。）
なお、それ以外の感染症は医師の診断後すみやかに保健管理センターに電話で報告してください。
- ・手続きの詳細は大学ホームページ内の保健管理センターWebサイト
(<https://www.yokohama-cu.ac.jp/health/>) をよく確認し、Web上より「『学校感染症』に関する証明書（大学様式）」をダウンロードし医師に記入してもらってください。
- ・完治後は、「『学校感染症』に関する証明書（大学様式）」を保健管理センターに提出し、教育推進課で手続きをしてください。
- ・保健管理センターWebサイトに「出席停止となる学校感染症の一覧」も掲載されていますので必要に応じて参照してください。

〔（４）の場合の公欠手続き手順〕

インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症と診断された場合

- ①指定のFormsで報告
- ②療養（＝出席停止期間終了まで）
- ③各キャンパス保健室へ「『学校感染症』に関する証明書」を提出
- ④各キャンパス保健室より「欠席届」を受領（即日発行）
- ⑤各キャンパス事務室へ「欠席届」を提出 ➡ 金沢八景キャンパスは教務担当へ
- ⑥承認後、欠席期間中の授業科目分の「欠席届」を受領
- ⑦各授業担当教員へ「欠席届」を提出 ＜公欠手続き、完了＞

それ以外の感染症と診断された場合は、電話連絡してください。連絡先はキャンパス毎に異なります。Webサイトを確認してください。

※（６）の場合の注意事項：

- ・事前説明会またはオリエンテーション等は「出校確認票」を提出した場合は、公欠として取り扱います。

※（７）の場合の注意事項：

- ・（７）の事由により公欠の申請をする場合は、事前に手続きが必要です。授業を欠席する日の2か月前までに教育推進課教務担当窓口にご相談してください。（2か月を過ぎてから相談があった場合は公欠として取扱いできない場合がありますので、注意してください。）

6 休講について

- （１）大学側あるいは授業の担当教員の都合でやむを得ず授業を休講する場合
前もって掲示板およびYCU-Boardサイト等でお知らせします。

※休講の指示がなく、授業開始時刻を30分以上経過しても担当教員から連絡がない場合は、自然休講となります。不明な場合は、各キャンパス教務窓口（金沢八景キャンパスは教務担当）へお問い合わせください。

- （２）災害等が発生した場合

学生の安全を確保するために臨時で休講することがあります。その場合は、ホームページ、YCU-Board等でお知らせします。

(3) 気象庁の暴風警報又は暴風雪警報が発令された場合

台風接近等の気象条件により神奈川県全域または神奈川県東部全域（川崎・横浜・湘南・三浦半島）に気象庁の暴風警報、暴風雪警報又は大雪警報が発令された場合は、原則として以下の休講措置をとります。

- | | |
|----|--|
| A. | 午前6時までに上記警報が解除された場合：1時限目から授業実施
午前6時を過ぎても上記警報が解除されない場合：午前（1-2時限）休講 |
| B. | 午前10時までに上記警報が解除された場合：3時限目から授業実施
午前10時を過ぎても上記警報が解除されない場合：午後（3-5時限）休講 |
| C. | 午後3時までに上記警報が解除された場合：6時限目から授業実施
午後3時を過ぎても上記警報が解除されない場合：午後（6-7時限）休講 |

(4) 交通機関の運行が停止した場合

下表に基づき、休講措置を行います。

○交通機関の不通による休講

	〈1-2時限目〔午前〕の休講〉	〈3-5時限目〔午後〕の休講〉	〈6-7時限目〔午後〕の休講〉
	午前6時時点で、 以下の何れかに該当した場合	午前10時時点で、 以下の何れかに該当した場合	午後3時時点で、 以下の何れかに該当した場合
金沢八景 キャンパス	①京急線(品川-三崎口の全区間)が不通の場合 ②東横線(渋谷-横浜の全区間)、相鉄線(横浜-大和の全区間)の2線が不通の場合 ③JR東海道本線(東京-熱海の全区間)、JR京浜東北線・根岸線(東京-大船の全区間)、JR横浜線(八王子-東神奈川の全区間)、JR横須賀線(東京-久里浜の全区間)、横浜市営地下鉄(ブルーライン全線)のうち3線以上が不通の場合 ④上記②のうち1線および③の2線が不通の場合		
福浦 キャンパス	①シーサイドライン(全線)が不通の場合 ②JR京浜東北線・根岸線(東京-大船の全区間)、および京急線(品川-三崎口の全区間)の2線が不通の場合 ③JR東海道本線(東京-熱海の全区間)、JR横浜線(八王子-東神奈川の全区間)、JR横須賀線(東京-久里浜の全区間)、東横線(渋谷-横浜の全区間)、相鉄線(横浜-大和の全区間)、横浜市営地下鉄(ブルーライン全線)のうち3線以上が不通の場合 ④上記②のうち1線および③の2線が不通の場合		
舞岡 キャンパス	①横浜市営地下鉄(ブルーライン全線)が不通の場合 ②東横線(渋谷-横浜の全区間)、相鉄線(横浜-大和の全区間)の2線が不通の場合 ③JR東海道本線(東京-熱海の全区間)、JR京浜東北線・根岸線(東京-大船の全区間)、JR横浜線(八王子-東神奈川の全区間)、JR横須賀線(東京-久里浜の全区間)、京急線(品川-三崎口の全区間)のうち3線以上が不通の場合 ④上記②のうち1線および③の2線が不通の場合		
みなとみらい サテライト キャンパス	①JR京浜東北線・根岸線(東京-大船の全区間)、みなとみらい線(横浜-元町・中華街の全区間)及び横浜市営地下鉄(ブルーライン全線)の3線が不通の場合 ②JR東海道本線(東京-熱海の全区間)、JR横浜線(八王子-東神奈川の全区間)、JR横須賀線(東京-久里浜の全区間)、京急線(品川-三崎口の全区間)、東横線(渋谷-横浜の全区間)、相鉄線(横浜-大和の全区間)、横浜市営地下鉄(ブルーライン全線)のうち3線以上が不通の場合		

※上記以外にも休講とする場合がありますので、YCU-Board等の掲示に注意してください。

7 身分に関する願出について

(1) 住所・氏名・保証人に関する変更

大学に登録のある住所・氏名等に変更があった場合は必ず届け出てください。

変更をする場合は、変更を確認出来る書類（戸籍抄本、住民票、運転免許証、公的料金の領収書など）をご提示の上、指定の必要書類に必要事項を記入し、教育推進課へ提出してください。

(2) 休学・復学手続きについて

① 休学

病気その他やむを得ない理由のため、3か月以上修学できない場合は、保証人連署および指導教員の確認印のある休学願を提出することにより、休学を申請することができます。

休学願提出後に教授会で審議し、許可された場合は、休学許可証を送付します。審議から許可証発送までに概ね1か月以上を要します。

休学期間は、在籍期間には算入されません。なお、休学理由によっては、事実を証明する書類が必要となることがあります。

<休学に関する注意事項>

ア 1回の願い出につき、3か月以上1年以内の期間を申請可能です。

また、大学院生の通算での休学可能期間は、所属により異なります。

博士前期課程	2年	博士後期課程	3年
--------	----	--------	----

イ 休学理由として不適当な事由は受付できません。（例：就活留年、他大学受験・旅行など）

ウ 海外渡航をする場合は、海外出発届をグローバル推進室に提出してください。

エ 休学期間中は、通学定期の購入はできません。

オ 休学期間中は、証明書発行等一部の手続きを除き、大学での手続きは行えません。

学位申請や中間報告、予備論文申請等も行えませんので注意してください。

カ 休学期間中は、履修登録はできませんが、WEBでの成績確認はできます。

② 復学

休学期間終了前に、復学・休学延長の意思確認文書を送付（9月21日満了の場合は7月末頃、3月31日満了の場合は1月末頃）するので、必ず指定した期日までに回答してください。

(3) 退学手続きについて

単位修得満期退学や、病気その他やむを得ない理由のため、退学する場合は、保証人連署および指導教員の確認印のある退学願を提出する必要があります。

退学願提出後に教授会で審議し、許可された場合は、退学許可証を送付します。審議から許可証発送までに概ね1か月以上を要します。

退学願提出時には、あわせて学生証も返却してください。

○休学・復学・退学と学費について

- ① 1期分(半年分)でも未納の学費があると休学・退学はできません。また、学費が2期分(1年分)未納になると学則により退学処分となり、以降在籍することができなくなります。
- ② 下記期間全日の休学が承認された場合、当該期の学費が免除になります。ただし、休学願・退学願の提出が各学期最終日(前期：9月21日/後期：3月31日)を過ぎた場合や、学期途中の休学・退学・復学など、その学期に1日でも在学した場合は、当該学期の学費が全額発生します。
- ③ 本学の学費は、次のとおり2期に分けて納付していただきます。納入期限は、第1期：5月上旬(4月中旬案内発送)、第2期：10月下旬(10月上旬案内発送)の予定です。

第1期対象期間	第2期対象期間
4月1日～9月21日	9月22日～3月31日

8 社会人学生への窓口案内（金沢八景キャンパス）

社会人学生への対応のため、通常の事務室の窓口時間外に、下記の一部業務を行います。

- 1 窓口時間：授業期間中の月曜日～金曜日（祝日、曜日調節日、浜大祭期間及び大学入学共通テスト準備日を除く） 17時から20時まで
- 2 場 所：金沢八景キャンパス本校舎事務棟1階 講師控室
- 3 対応業務：Webで登録できない履修申請、教務質問・証明書の申請等の取次事務

なお、履修申請、成績確認等教務事務を扱っているのは、教育推進課教務担当の窓口です。時間外に用事のある場合は、上記窓口をご利用ください。

（本窓口は取次事務が主となります。質問の回答は翌日以降になりますので、ご了承ください。）

また、提出物の最終締切時刻は別途掲示に従ってください。

令和 6 (2024) 年度 都市社会文化研究科 学位申請、発表会申込及び論文提出スケジュール

研究科・課程	日時	申請内容	課程・年次	提出書類	提出先
都市社会文化研究科 博士前期課程 (M)	令和 6 年 4 月 15 日 (月) 17 時 00 分まで	主・副指導教員届	博士前期課程 1 年	主・副指導教員届 1 (Formsにて提出)	金沢八景キャンパス 教育推進課 教務担当 8 時 45 分～17 時 00 分 ※授業日以外は 15 時 00 分まで
	令和 6 年 4 月 26 日 (金) 17 時 00 分まで	修士論文題目届	博士前期課程 2 年	修士論文題目届 1 (修了年次生対象) (Formsにて提出)	
	令和 6 年 4 月 26 日 (金) 17 時 00 分まで	研究計画書	博士前期課程毎年	研究計画書 1 (指定様式なし) (Formsにて提出)	
	令和 6 年 6 月 13 日 (木) 17 時 00 分まで	修士学位申請 (発表会 6 月下旬) ※R 6 年 9 月修了	博士前期課程 2 年 ※前年度までに中間 報告実施済みの 前期未修了希望者	提出票 1 学位申請書 1 学位論文 (審査用) 3 学位論文 (学情保管用) 1 論文要旨 (日本語) 3 履歴書 1 修了見込証明書 1 学位論文公開・複写許諾書 1 eラーニング修了証 1 論文提出チェック票 1	
	令和 6 年 9 月 23 日 (月) 17 時 00 分まで	中間報告申請 (発表会 9 月下旬～10 月上旬)	博士前期課程 2 年	中間報告申請書 1 中間報告目次 1 中間報告要旨 1 (Formsにて提出)	
	令和 7 年 1 月 10 日 (金) 17 時 00 分まで	修士学位申請 (発表会 1 月下旬～2 月上旬) ※R 7 年 3 月修了	博士前期課程 2 年	提出票 1 学位申請書 1 学位論文 (審査用) 3 学位論文 (学情保管用) 1 論文要旨 (日本語) 3 履歴書 1 修了見込証明書 1 学位論文公開・複写許諾書 1 eラーニング修了証 1 論文提出チェック票 1	
	令和 7 年 3 月 21 日 (金) 17 時 00 分まで	『国際文化研究紀要』 投稿原稿提出	博士前期課程 2 年	提出期日、原稿の種類(要旨又は論文、及び、差し替え論文)については、別途、YCU-Board でアナウンスあり	
都市社会文化研究科 博士後期課程 (D)	令和 6 年 4 月 15 日 (月) 17 時 00 分まで	主・副指導教員届	博士後期課程 1 年	主・副指導教員届 1 (Formsにて提出)	金沢八景キャンパス 教育推進課 教務担当 8 時 45 分～17 時 00 分 ※授業日以外は 15 時 00 分まで
	令和 6 年 4 月 26 日 (金) 17 時 00 分まで	研究計画書	博士後期課程毎年	研究計画書 1 (Formsにて提出)	
	令和 6 年 6 月 13 日 (木) 17 時 00 分まで	予備発表申請 (発表会 8 月～9 月)	博士後期課程 3 年	予備発表申請書 1 博士論文草稿 1 博士論文進捗状況報告書 1 (Formsにて提出)	
	令和 6 年 6 月 13 日 (木) 17 時 00 分まで	単位修得論文 ※R 6 年 9 月修了	博士後期課程 3 年 ※単位修得満期 退学希望者	提出票 1 単位修得論文 3 論文要旨 3 eラーニング修了証 1 論文提出チェック票 1	
	令和 6 年 9 月 27 日 (金) 17 時 00 分まで	中間報告申請 (報告会 11 月)	博士後期課程 2 年～	中間報告申請書 1 中間発表概要 1 (Formsにて提出)	
	令和 6 年 9 月 27 日 (金) 17 時 00 分まで	博士学位申請 ※R 7 年 3 月修了	博士後期課程 3 年	提出票 1 学位申請書 1 学位論文 6 学位論文要旨 7 論文目録 7 履歴書 1 + コピー 6 修了(単位取得)見込証明書 1 eラーニング修了証 1 論文提出チェック票 1	
	令和 7 年 1 月 10 日 (金) 17 時 00 分まで	予備発表申請 (発表会 2 月～3 月)	博士後期課程 2 年～	予備発表申請書 1 博士論文草稿 1 博士論文進捗状況報告書 1 (Formsにて提出)	
	令和 7 年 1 月 10 日 (金) 17 時 00 分まで	単位修得論文 ※R 7 年 3 月修了	博士後期課程 3 年 ※単位修得満期 退学希望者	提出票 1 単位修得論文 3 論文要旨 3 eラーニング修了証 1 論文提出チェック票 1	

◎研究生

都市社会文化研究科 研究生	令和 6 年 7 月 2 日 (火) 17 時 00 分まで	研究報告書	研究生 ※ 9 月修了希望者	提出票 1 研究報告書 1	金沢八景キャンパス 教育推進課 教務担当 8 時 45 分～17 時 00 分 ※授業日以外は 15 時 00 分まで
	令和 7 年 1 月 10 日 (金) 17 時 00 分まで		研究生	提出票 1 研究報告書 1	

●注意事項

* 学位申請までの流れや単位修得満期退学(博士後期課程のみ)の詳細については、大学院履修案内をご確認ください。
 * 指導教員と相談のうえスケジュールを組んでください。なお、休学中は上記申請はできません。
 * 博士後期課程 3 年生で、所属する研究科の定める要件を満たし、単位修得満期退学を希望する場合、退学願の提出が必要となります。
 指導教員と相談のうえ教育推進課(金沢八景キャンパスは教務担当)窓口で指定の期日までに退学手続きを取ってください。
 (※単位修得満期退学後、2 年以内に学位申請をし、審査に合格した場合、課程博士として学位を授与されますが、博士後期課程修了とはなりませんのでご注意ください。)

令和6(2024)年度 国際マネジメント研究科 学位申請、発表会申込及び論文提出スケジュール

研究科・課程	日時	申請内容	課程・年次	提出書類	提出先
国際マネジメント研究科 博士前期課程	令和6年4月15日(月) 17時00分まで	主副指導教員届	博士前期課程1年	主副指導教員届	金沢八景キャンパス 教育推進課 教務担当 8時45分～17時00分 ※授業日以外は 15時00分まで
	令和6年4月26日(金) 17時00分まで	修士論文題目届	博士前期課程2年	論文提出計画書/題目届1	
	令和6年6月13日(木) 17時00分まで	修士学位申請 (発表会6月下旬) ※令和6年9月修了	博士前期課程2年 ※前年度までに中間 報告実施済みの 前期末修了希望者	提出票1 学位申請書1 学位論文(審査用)3 学位論文(学情保管用)1 論文内容要旨3 修了見込証明書1 履歴書1 学位論文公開・複写許諾書1 eラーニング修了証1	
	令和6年9月23日(月) 17時00分まで	中間報告申請 (発表会9月下旬～10月上旬)	博士前期課程2年	中間報告申請書1 中間報告書1 報告書要旨1 (データ申請)	
	令和6年1月20日(月) 17時00分まで	修士学位申請 (発表会1月下旬～2月上旬) ※令和7年3月修了	博士前期課程2年	提出票1 学位申請書1 学位論文(審査用)3 学位論文(学情保管用)1 論文内容要旨3 修了見込証明書1 履歴書1 学位論文公開・複写許諾書1 eラーニング修了証1	
国際マネジメント研究科 博士後期課程	令和6年4月15日(月) 17時00分まで	主副指導教員届	博士後期課程1年	主副指導教員届	金沢八景キャンパス 教育推進課 教務担当 8時45分～17時00分 ※授業日以外は 15時00分まで
	令和6年4月26日(金) 17時00分まで	博士学位申請 (発表会5月～6月) ※令和6年9月修了	博士後期課程3年	提出票1 学位申請書1 学位論文6 学位論文要旨7 論文目録7 履歴書1+コピー6 修了(単位取得)見込証明書1 eラーニング修了証1	
	令和6年5月31日(金) 17時00分まで	予備発表申請 (発表会6月～7月)	博士後期課程3年	予備発表申請書1 学位申請論文6 論文内容要旨6 論文目録6 履歴書1+コピー5	
	令和6年6月28日(金) 17時00分まで	中間報告申請 (報告会7月)	博士後期課程2年～	中間報告申請書1 中間報告論文4 中間報告要旨4	
	令和6年8月1日(木) 17時00分まで	単位修得論文	博士後期課程3年 ※単位修得満期 退学希望者	単位修得論文提出票1 単位修得論文3 論文要旨3 eラーニング終了証1	
	令和6年10月31日(木) 17時00分まで	予備発表申請 (発表会11月～12月)	博士後期課程2年～	予備発表申請書1 学位申請論文6 論文内容要旨6 論文目録6 履歴書1+コピー5	
	令和6年11月28日(木) 17時00分まで	博士学位申請 (発表会12月～1月) ※令和7年3月修了	博士後期課程3年	提出票1 学位申請書1 学位論文6 学位論文要旨7 論文目録7 履歴書1+コピー6 修了(単位取得)見込証明書1 eラーニング修了証1	
	令和7年1月10日(金) 17時00分まで	単位修得論文	博士後期課程3年 ※単位修得満期 退学希望者	単位修得論文提出票1 単位修得論文3 論文要旨3 eラーニング修了証1	
	令和7年1月31日(金) 17時00分まで	中間報告申請 (報告会2月)	博士後期課程2年～	中間報告申請書1 中間報告論文4 中間報告要旨4	

◎研究生

国際マネジメント研究科 研究生	令和6年7月2日(火) 17時00分まで	研究報告書	研究生 ※9月修了希望者	研究報告書提出票1 研究報告書1	金沢八景キャンパス 教育推進課 教務担当 8時45分～17時00分 ※授業日以外は 15時00分まで
	令和7年1月10日(金) 17時00分まで		研究生		

●注意事項

- * 学位申請までの流れや単位修得満期退学(博士後期課程のみ)の詳細については、大学院履修案内をご確認ください。
- * 指導教員と相談のうえスケジュールを組んでください。なお、休学中は上記申請はできません。
- * 博士後期課程3年生で、所属する研究科の定める要件を満たし、単位修得満期退学を希望する場合、退学願の提出が必要となります。
指導教員と相談のうえ教育推進課(金沢八景キャンパスは教務担当)窓口で指定の期日までに退学手続きを取ってください。
(※単位修得満期退学後、2年以内に学位申請をし、審査に合格した場合、課程博士として学位を授与されますが、博士後期課程修了とはなりませんのでご注意ください。)

令和 6 (2024) 年度 生命ナノシステム科学研究科 学位申請、発表会申込及び論文提出スケジュール

研究科	日時 (金沢八景Cでの締切時刻)	申請内容	課程・年次	教務担当への提出書類	提出先
物質システム科学専攻 生命環境システム科学 専攻 博士前期課程	令和 6 年 5 月 7 日(火) ※17時00分まで	修士論文題目届 (中間発表会8/9)	博士前期課程 2 年	論文提出計画書/題目届 1 部	金沢八景キャンパス 教育推進課 教務担当 8 時45分-17時00分 ※授業日以外は 15時00分まで *舞岡キャンパス 事務室(木原生研) 8 時45分-17時00分
	令和 7 年 2 月 3 日(月) ※授業期間外のため 15時00分まで	修士学位申請 (発表会2/12,13) ※R 7 年 3 月修了	博士前期課程 2 年	【1/24 (金)まで】 修士論文題目を教務委員へ提出 【1/24 (金)～1/31 (金)】 論文要旨をYCU-Boardから提出 【1/31 (金)まで】 学位論文(審査用)を主副指導教員に提出 ☆【2/3 (月)まで: 学位申請】 提出票 1 部 学位申請書 1 部 学位論文(学情保管用) 1 部 論文要旨 1 部 学位論文(審査用) 3 部 修了見込証明書 1 部 履歴書 1 部 学位論文公開・複写許諾書 1 部 eラーニング修了証 1 部	
物質システム科学専攻 生命環境システム科学 専攻 博士後期課程	令和 6 年 8 月30日(金) ※授業期間外のため 15時00分まで	予備発表申請 (発表会 9 月)	博士後期課程 3 年	予備発表申請書 1 部 予備発表論文要旨 1 部	金沢八景キャンパス 教育推進課 教務担当 8 時45分-17時00分 ※授業日以外は 15時00分まで *舞岡キャンパス 事務室(木原生研) 8 時45分-17時00分
	令和 6 年 8 月30日(金) ※授業期間外のため 15時00分まで	博士学位申請 (発表会 9 月) ※R 6 年12月学位授与	博士後期課程 3 年	提出票 1 部 学位申請書 1 部 学位論文 5 部 論文要旨 7 部 論文目録 7 部 履歴書 1 部+コピー 6 部 修了(単位取得)見込証明書 1 部 承諾書等 1 部+コピー 6 部 eラーニング修了証 1 部 USBメモリ(※論文本文・要旨・目録のデータ)	
	令和 6 年11月29日(金) 17時00分まで	予備発表申請 (発表会12月)	博士後期課程 3 年～	予備発表申請書 1 部 予備発表論文要旨 1 部	
	令和 6 年11月29日(金) 17時00分まで	博士学位申請 (発表会12月) ※R 7 年 3 月修了	博士後期課程 3 年	提出票 1 部 学位申請書 1 部 学位論文 5 部 論文要旨 7 部 論文目録 7 部 履歴書 1 部+コピー 6 部 修了(単位取得)見込証明書 1 部 承諾書等 1 部+コピー 6 部 eラーニング修了証 1 部 USBメモリ(※論文本文・要旨・目録のデータ)	
	令和 7 年 2 月28日(金) ※授業期間外のため 八景Cは15時00分まで	予備発表申請 (発表会 3 月)	博士後期課程 2 年～	予備発表申請書 1 部 予備発表論文要旨 1 部	
	令和 7 年 2 月28日(金) ※授業期間外のため 八景Cは15時00分まで	博士学位申請 (発表会 3 月) ※R 7 年 9 月修了	博士後期課程 3 年	提出票 1 部 学位申請書 1 部 学位論文 5 部 論文要旨 7 部 論文目録 7 部 履歴書 1 部+コピー 6 部 修了(単位取得)見込証明書 1 部 承諾書等 1 部+コピー 6 部 eラーニング修了証 1 部 USBメモリ(※論文本文・要旨・目録のデータ)	

*舞岡キャンパスで申請をする場合の締切時刻は、提出先欄を参照

◎研究生

生命ナノシステム科学研究科 研究生	令和 6 年 7 月 2 日(火) 17時00分まで	研究報告書	研究生 ※ 9 月修了希望者	提出票 1 研究報告書 1	金沢八景キャンパス 教育推進課 教務担当 8 時45分-17時00分 ※授業日以外は 15時00分まで
	令和 7 年 1 月10日(金) 17時00分まで		研究生	提出票 1 研究報告書 1	

※すべての申請ともに、原則は窓口での提出
 郵送での申請希望者は事前に主指導教員および教務担当まで要相談
 郵送の場合の提出期限：窓口での提出期限と同時に刻までに必着(教務担当宛)
 不備があった場合：不受理(再提出にてメ切までに申請書類が全て揃った場合のみ受理)

教務担当：cscinfo 2 @yokohama-cu.ac.jp

●注意事項

*学位申請までの流れや単位修得満期退学(博士後期課程のみ)の詳細については、大学院履修案内をご確認ください。
 *指導教員と相談のうえスケジュールを組んでください。なお、休学中は上記申請はできません。
 *博士後期課程 3 年生で、所属する研究科の定める要件を満たし、単位修得満期退学を希望する場合、退学願の提出が必要となります。
 指導教員と相談のうえ教育推進課(金沢八景キャンパスは教務担当)窓口で指定の期日までに退学手続きを取ってください。
 (※単位修得満期退学後、2 年以内に学位申請をし、審査に合格した場合、課程博士として学位を授与されますが、
 博士後期課程修了とはなりませんのでご注意ください。)

令和 6 (2024) 年度 データサイエンス研究科 学位申請、発表会申込及び論文提出スケジュール

研究科・課程	日時	申請内容	課程・年次	提出書類	提出先
データサイエンス研究科 博士前期課程	令和 6 年 4 月 15 日 (月) 17 時 00 分まで	主・副研究指導教員届	博士前期課程 1 年	主・副研究指導教員届 1	金沢八景キャンパス 教育推進課 教務担当 8 時 45 分～17 時 00 分 ※授業日以外は 15 時 00 分まで * みなとみらい サテライトキャンパス 8 時 30 分～20 時 00 分 ※提出最終日は 左記記載の通り
	令和 6 年 4 月 26 日 (金) 17 時 00 分まで	修士論文題目届 修士論文提出計画書	博士前期課程 2 年	学位論文題目届 1 [DS専攻のみ] 学位論文提出計画書 1	
	令和 6 年 6 月 13 日 (木) 17 時 00 分まで	修士学位申請 (発表会 DS: 6/27) ※ 9 月修了	【DS専攻のみ】 博士前期課程 2 年 ※前年度までに中間報告実 施済みの前期末修了希望者	学位論文(審査用) 3 学位論文(学情保管用) 1 論文内容要旨 3 履歴書 1 修士論文提出票 1 学位申請書 1 修了見込証明書 1 学位論文公開・複写許諾書 1 eラーニング修了証 1 研究指導教員の承認書	
	令和 6 年 9 月 23 日 (月) 17 時 00 分まで	中間報告申請 (発表会 DS: 9/28 HDS: 10/1)	博士前期課程 2 年	[共通] 中間報告申請書 1 [DS専攻] 中間報告書 1 [HDS専攻] 中間報告要旨 1	
	令和 7 年 1 月 10 日 (金)	修士学位申請 (発表会 DS: 1/29 HDS: 2/4) ※ 3 月修了	博士前期課程 2 年	学位論文(審査用) 3 学位論文(学情保管用) 1 論文内容要旨 3 履歴書 1 修士論文提出票 1 学位申請書 1 修了見込証明書 1 学位論文公開・複写許諾書 1 eラーニング修了証 1 研究指導教員の承認書	
データサイエンス研究科 博士後期課程	令和 6 年 4 月 16 日 (月) 17 時 00 分まで	主・副研究指導教員届	博士前期課程 1 年	主・副研究指導教員届 1	
	令和 6 年 8 月 30 日 (金) ※授業期間外のため 15 時 00 分まで	予備発表申請 (発表会 9 月)	博士後期課程 3 年	予備審査申請書 1 予備審査論文要旨 1 論文目録 1	
	令和 5 年 11 月 29 日 (金) 17 時 00 分まで	予備発表申請 (発表会 12 月中旬)	博士後期課程 2 年～	予備審査申請書 1 予備審査論文要旨 1 論文目録 1	
	令和 5 年 11 月 29 日 (金) 17 時 00 分まで	博士学位申請 (発表会 12 月～1 月) ※ 3 月修了	博士後期課程 3 年	学位論文 6 論文内容要旨 7 論文目録 7 履歴書 1 + コピー 6 修了見込(単位修得)証明書 1 学位申請書 1 提出票 1 eラーニング修了証 1	
	令和 7 年 2 月 28 日 (金) ※授業期間外のため 15 時 00 分まで	予備発表申請 (発表会 3 月)	博士後期課程 2 年～	予備審査申請書 1 予備審査論文要旨 1 論文目録 1	

◎研究生

データサイエンス研究科 研究生	令和 6 年 7 月 2 日 (火) 17 時 00 分まで	研究報告書	研究生 ※ 9 月修了希望者	研究報告書提出票 1 研究報告書 1	金沢八景キャンパス 教育推進課 教務担当 8 時 45 分～17 時 00 分 ※授業日以外は 15 時 00 分まで
	令和 7 年 1 月 10 日 (金) 17 時 00 分まで		研究生		

●注意事項

- * 学位申請までの流れや単位修得満期退学(博士後期課程のみ)の詳細については、大学院履修案内をご確認ください。
- * 指導教員と相談のうえスケジュールを組んでください。なお、休学中は上記申請はできません。
- * 博士後期課程 3 年生で、所属する研究科の定める要件を満たし、単位修得満期退学を希望する場合、退学願の提出が必要となります。指導教員と相談のうえ教育推進課(金沢八景キャンパスは教務担当)窓口で指定の期日までに退学手続きを取ってください。(※単位修得満期退学後、2 年以内に学位申請をし、審査に合格した場合、課程博士として学位を授与されますが、博士後期課程修了とはなりませんのでご注意ください。)

横浜市立大学 大学院 履修案内

発行日 令和 6 年 4 月 1 日

編 集 横浜市立大学 教育推進課 教務担当

TEL : 045-787-2042

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

発 行 横浜市立大学